大正七年三月十五日

關西建築協會雜誌

第一輯第五号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ改善ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ設ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於ケル責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ管ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但ク緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ每秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル講義並ニ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ拠出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ附後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳拾圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六拾圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金參拾圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立債務及償却ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

◆米國オチスエレベーター會社製
各種エレベーター一切
◆米國トラッスドコンクリート
スチール會社製

KAHN
SYSTEM
Building
Product

◆カーン式鐵筋混凝土材料
◆鋼製窓枠捲揚扉天窓材料
◆各種建築金物類

日本總代理店

神戸北町
東京丸之内

米國貿易會社

土木建築鐵筋混凝土工事無償設計型錄見本無代進呈

關西建築協會雜誌 第壹輯 第五號

目次

□ 繪

白耳義國國會議事堂、露國國會議事堂
西班牙國國會議事堂、獨逸帝國國會議場
洪牙利國國會議場、北米合衆國國會議場
佛蘭西國國會議場、英吉利國國會議場
北陸地方建築物の雪害
都市建築の今昔（九、十）

△社會政策と住居改良……會員 片岡安……一
△我邦の住宅改良第一策（中）……會員 片岡安……二
△他山の石……一四
△英國に於ける住居及都市計畫法令（一）
大阪高等商業學校教授 伊藤眞雄……二五
△國民保健に關する輿論——都市衛生設備の欠陷……會員 葛野壯一郎……三九
△座習の利害……四五
△都市と建築……會員 都市研究生……五二
□都市建築法令調査會設置に關する建議に就き當局の態度と吾人の希望……五二

□南滿鐵道沿線の都市計畫……五五
□安政元年の關西地震と同二年の江戸大地震……六八
□米國の火災損害高……七八
△紐育市の交通問題(一)……會員 伊藤正文……八〇
△雪と建築……會員 木子七郎……九二
△大阪市の細民住宅に就て……會員 K U生……一〇一
△官公署に於ける建築課の獨立……會員 池田實……一〇七
△建築敷地に就いて……會員 設樂貞雄……一一〇
△建築と心……會員 正文生……一一八
△ポンペイの最後の日……會員 須藤眞金……一二三
△北木島紀行……會員 野人生……一二六
△學校建築と火災……第四部委員 N・T生……一三八
△會報……一四七

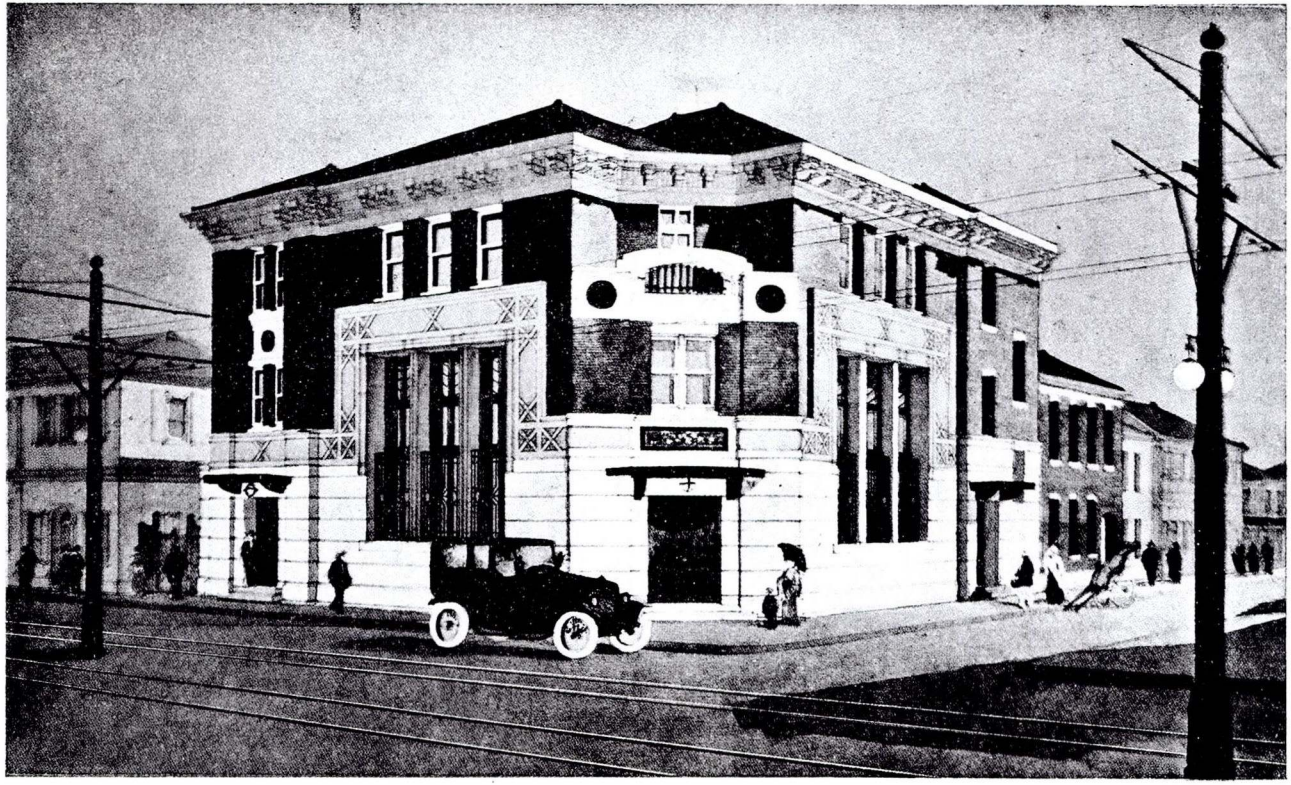
附錄

都市計畫……前紐育市技師 亞米利加土木學會々員 チルソン、リユイス述(一五頁)
△編輯たより……(一頁)

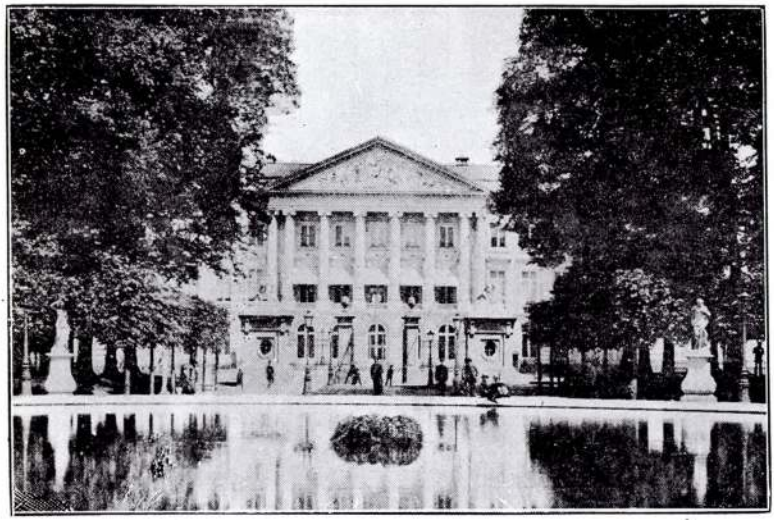
暖房通風
製氷冷藏
給氷衛生
工事其他

合資會社
高田商會

東京 丸之內
大阪 中之島



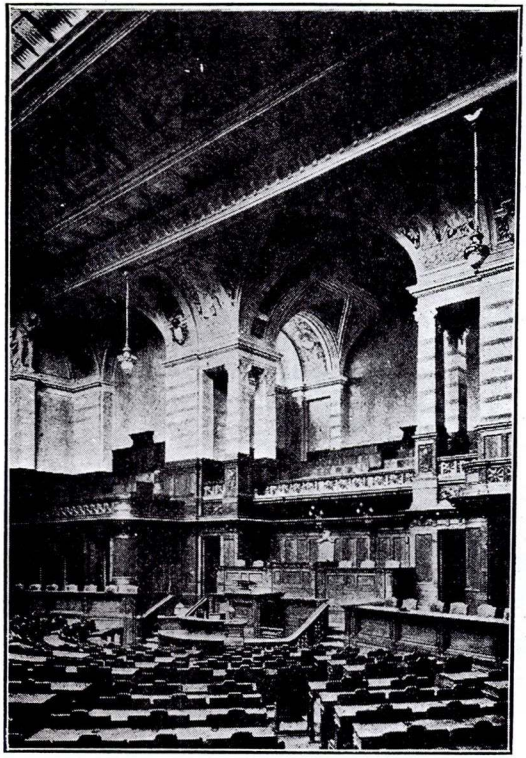
兵庫縣農工銀行配景圖



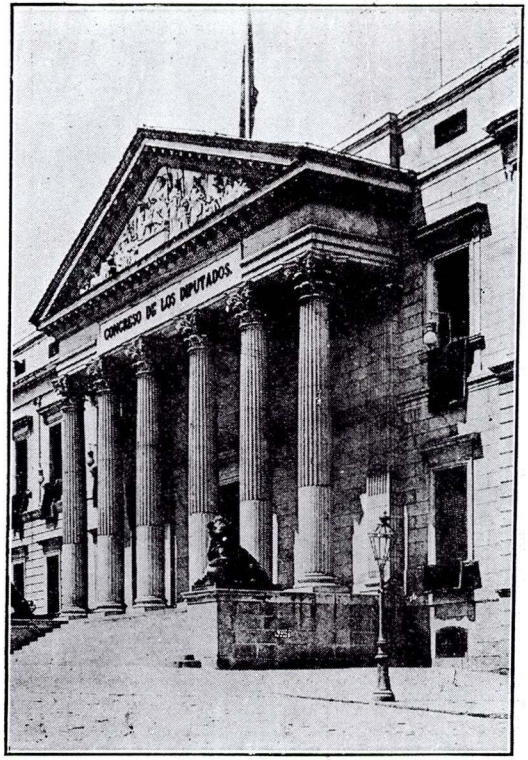
白耳義國國會議事堂



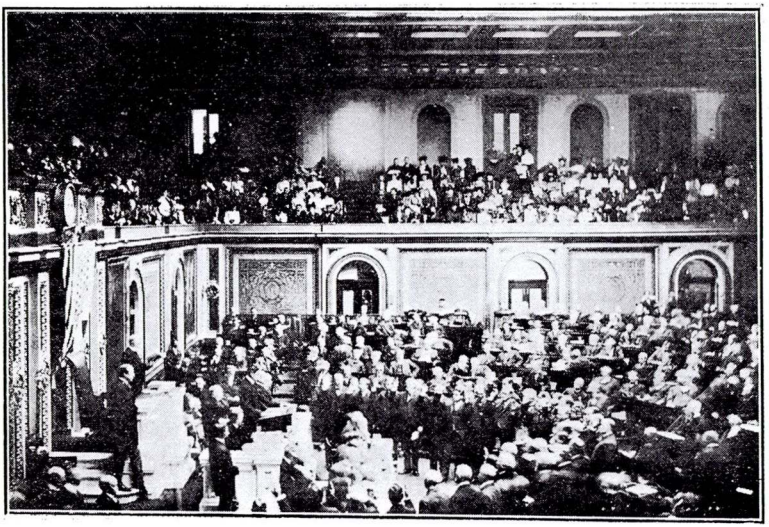
露國國會議事堂



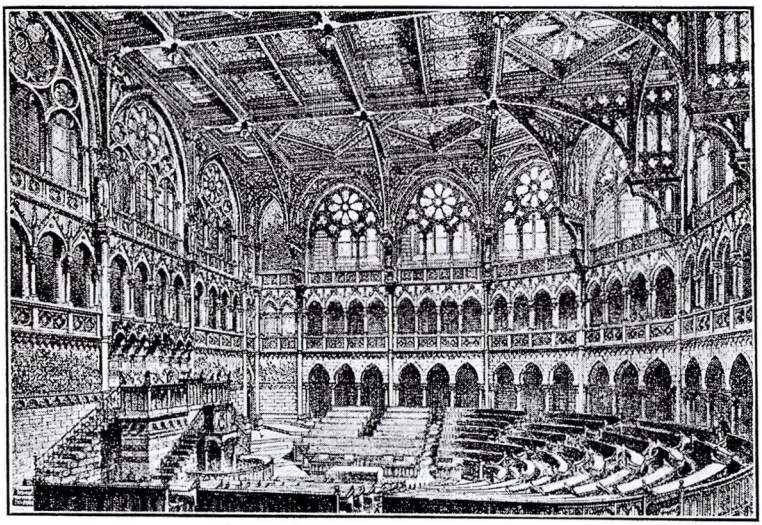
獨逸帝國國會議事堂の內部



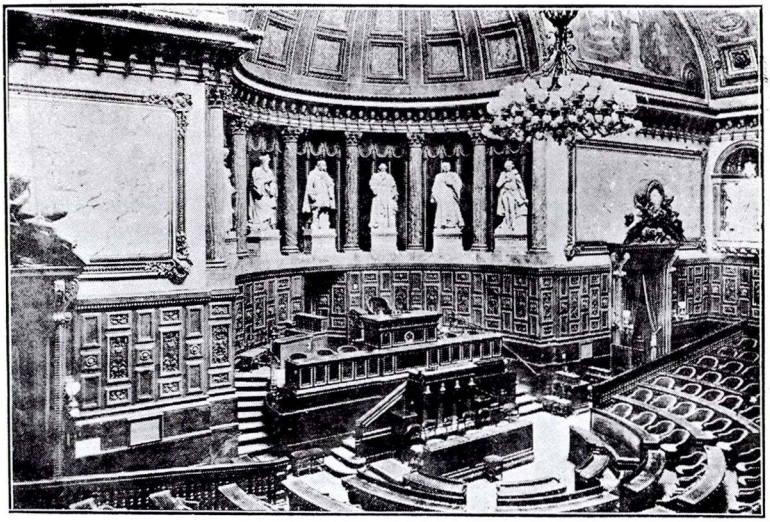
西班牙國國會議事堂の玄關



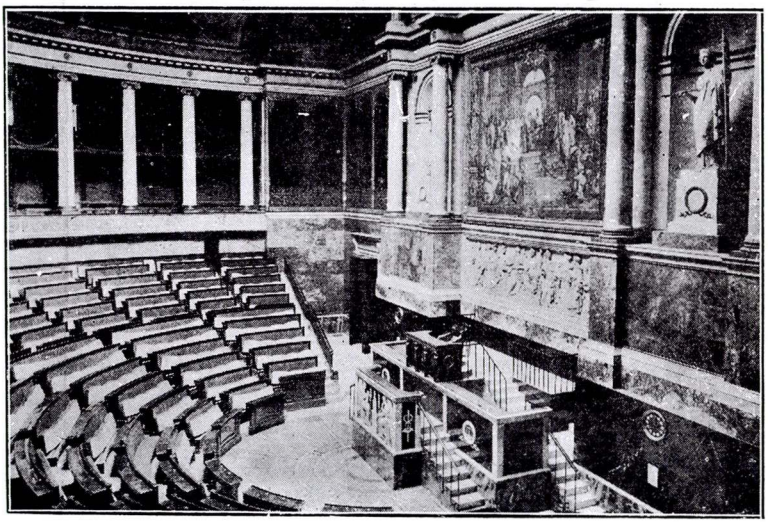
北亞米利加合衆國國會議事堂下院議場開會中



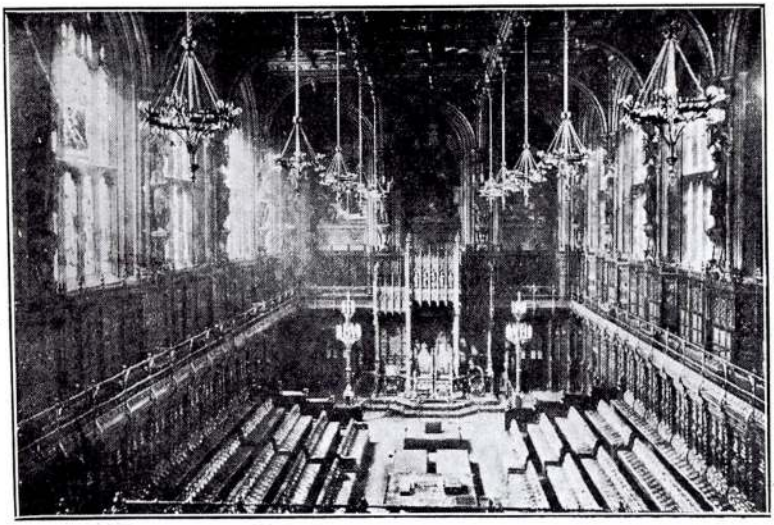
洪牙利國國會議事堂下院議場



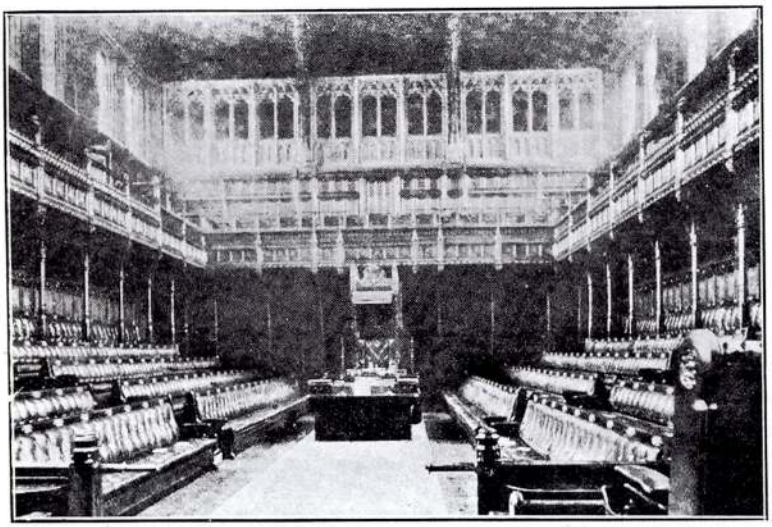
佛蘭西國國會議事堂上院議場



同上下院議場



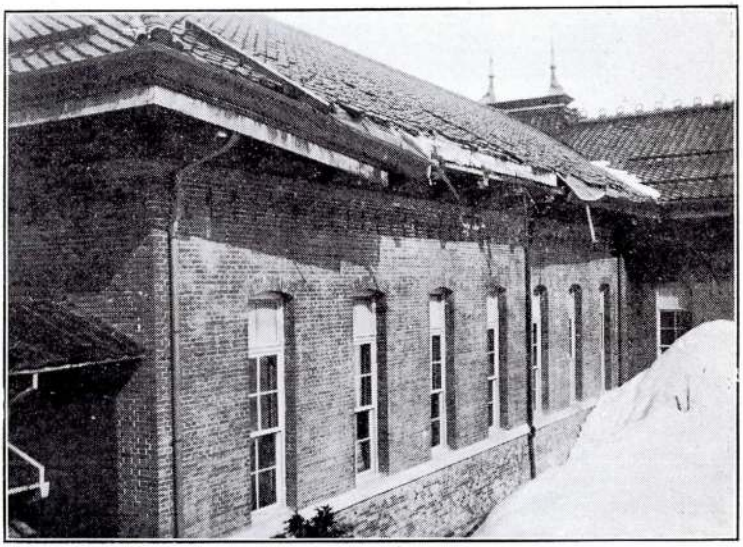
英吉利國國會議事堂上院議場



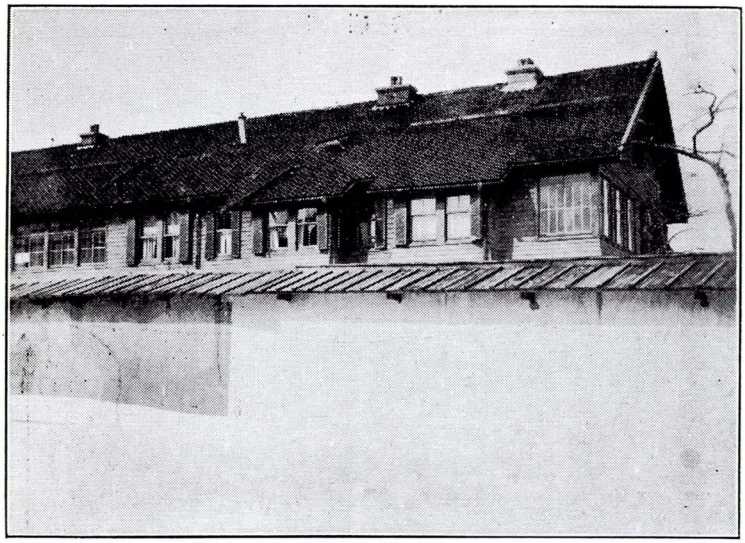
同上下院議場



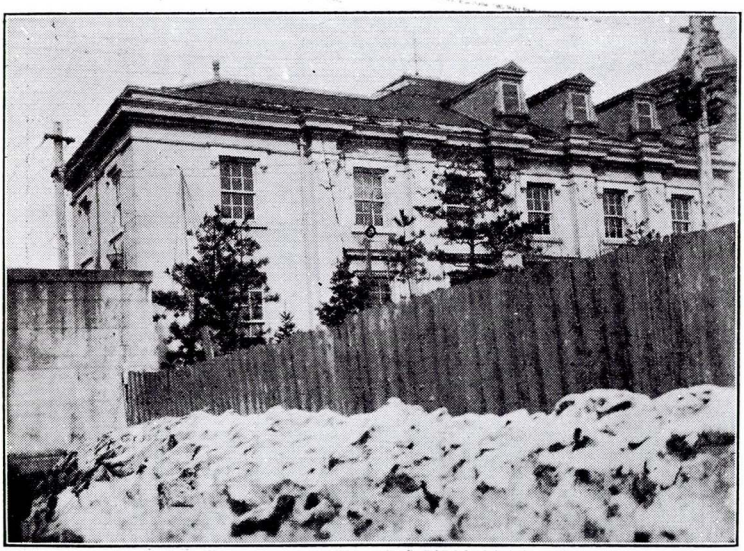
金澤地方裁判所
（軒先破損並ビ大屋根陷沒約一尺）



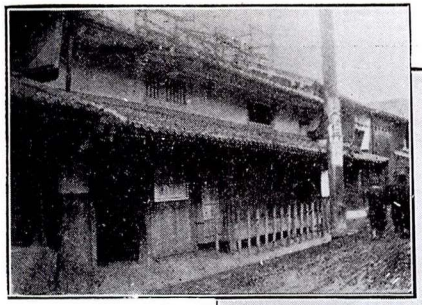
金澤區裁判所（平家軒先破損）



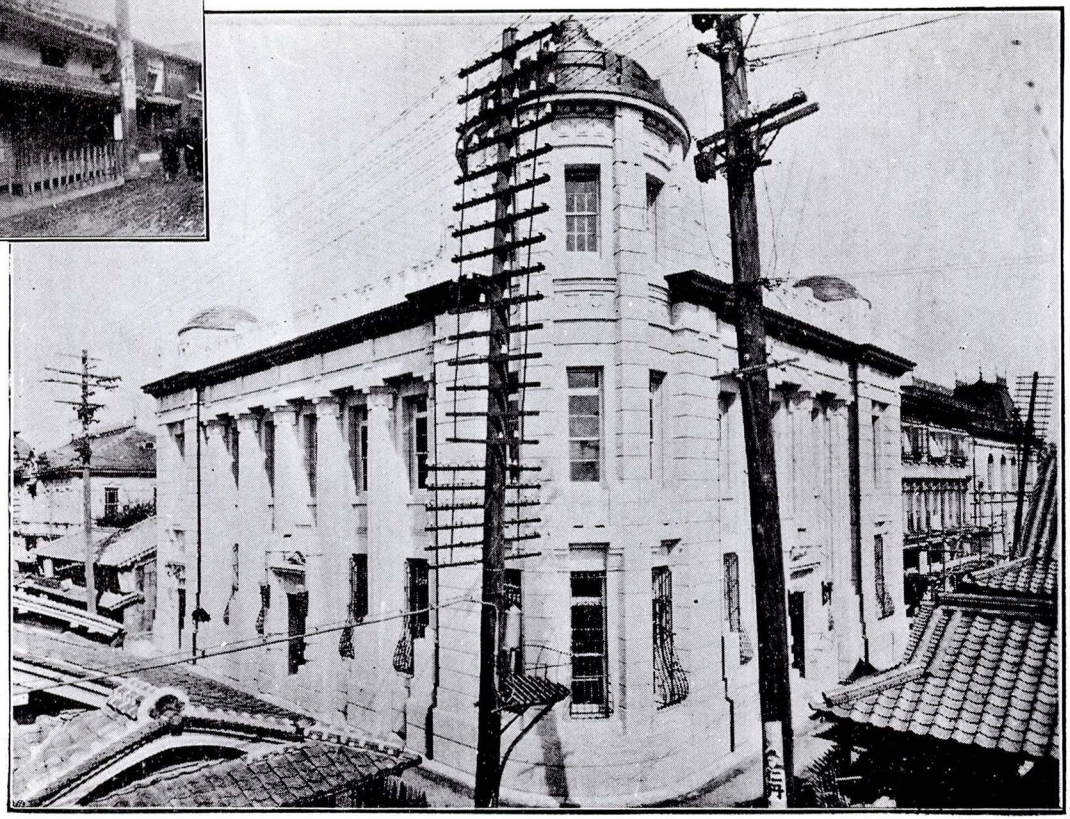
金澤女學校寄宿舍
（屋根雪止裝置破損）



日本銀行金澤支店（軒先雪止金物破損）



同舊建物

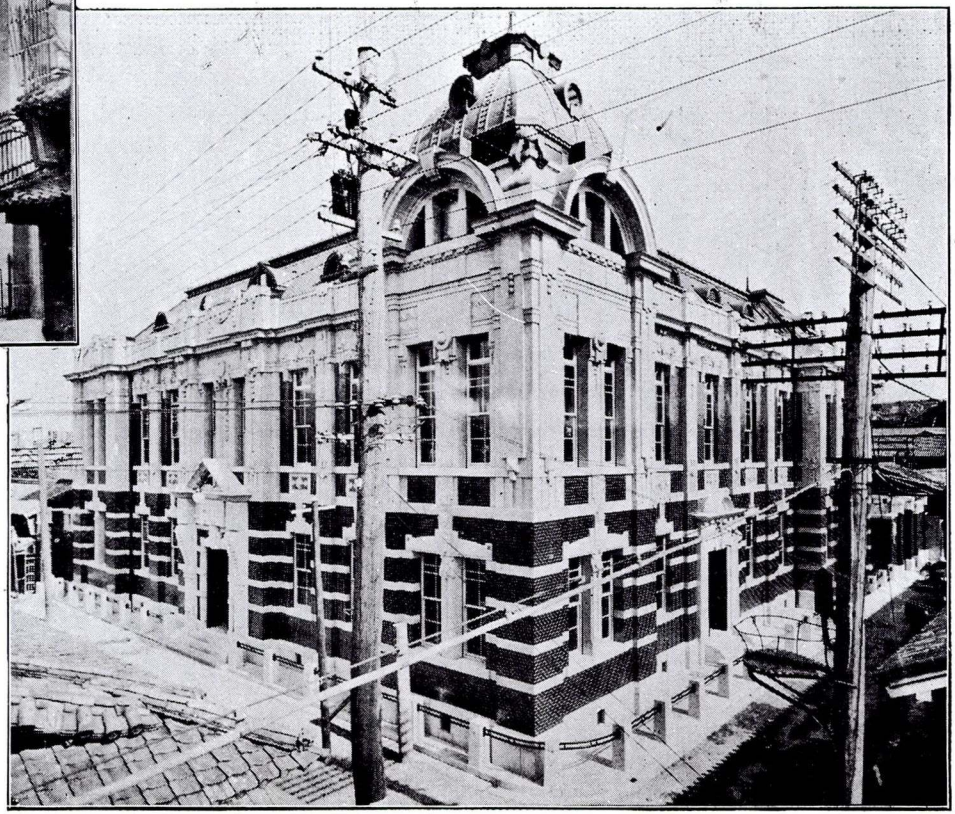


株式會社 日本貯藏銀行新館

都市建築の今昔（十）



同銀行舊舘



株式會社近江銀行新舘



社會政策と住居改良

社會政策として國家及自治体の施設は甚だ多岐に亘り、救貧問題を始め勞働取引所の活用、老衰者への給與、强制保險の實施等擧げて數ふべからずと雖、近時漸く切迫せんとする都市住居の欠陷を救濟するを以て、最大急要の施設となす。歐米の文明國にては住居改良は初め慈善的事業として之を取扱ひしも今は國家最大須要の問題として國法上合理的に其經營に腐心するの時期に達せり、殊に英吉利の如きは一八八四年の有名なる住居問題調査會の設置以來、社會政策の最大項目として之を研究し、遂に勞働者住宅法を制定し、都市住宅の改良を强制するに至れり。家屋の設備不良ならんか、吾人の健康は常に危殆に瀕するなり、又其狀態陰鬱不快に沈滯せんか吾人の家庭は如何にして其健全なる平和を維持すべきや、居は心を移すとは古來言ひ傳ふるところにして吾人生活の幸福を左右する根源は、實に其住居の適不適にあることを知らざるべからず、眞實なる社會救濟の政策は徹底的に其家屋改良を實現するに在り、我國の識者何故に此問題に想到せざるや。



我國の住宅改良第一策（中）

會員　片岡安

〔四〕住宅改良と經濟問題

住宅が時代と共に變遷して來たのは、世界各國皆然らざるはないのである、我國の住宅も之を細密に研究すれば、鎌倉時代に一大變遷をなし、德川時代に入りて、更に一進展をなしたとも見られるけれども、大体より之れを見るに、余り發達したものと言ふ譯にゆかない、然らば我國の住宅は他の文物の發達に伴ひ得なかつたかと言ふに必ずしも然らずである、抑も建築なるものは、あらゆる技能の綜合舞臺であつて、殊に風俗習慣の根據地とも言ふべき生活上の必須條件である以上、他の技藝が向上するにも拘らず建築のみが、獨り取り殘されて、劣等の位地に押し込められるゝものではない、其發達出來なかつた大なる理由が其處に潜在して斯かる結果を生じたものと想はれる、而して其理由の最大なるものは、社會經濟の大なる潮流であつたのである。

我國は古來余り富有の國家ではなかつた、唯農産は以て國民を養ふに足るてふ一種の自給國として、二千五百年間國土を維持して來たのである、其間三韓、支那との交通により彼我多少の交易をなした事や、德川時代に和蘭、西班牙と物資の交換をなした事實はあれども、之を國家の全体より

見れば、大体に於て、鎖國主義自給自足に甘んじたのである、從つて富の增殖は甚だ遲々たるものであつたのも致方がない、約まり生活上我國民は非常に儉約を守らねば安定なる生存を維持して行くことが出來なかつたと見るを至當とする。殊に國內の施政は常に封建制度として平民を出來る丈け、壓さへ付けて否應なしに勤儉を守らしめたから、維新前までは、我國民の生活は全く其日暮しを以て無上の幸福とし、人生の意義ある積極的施設を考ふるものさへなかつたのである。故に我國民一般の住居なるものも簡明質素を旨とし、其建設費を輕微ならしむるは固とより、其維持上又其利用上最も簡易にして經費を省略し得ることに就ては、其手段は至れり盡せりと言ふのが其眞相であつた。之を世界各國の住宅と比較しても、我國の一般住宅ほど簡易質朴のものはないのである、若し簡易生活とか單純生活とか言ふ意味から之を見たならば、恐らく我國の住宅ほど進歩したものは世界中他に之を見出し得ないのである。

建設費の節約と其利用上の輕便なるとは我國住宅の特徵にして、一般の貧弱なる社會經濟と相俟つて我國民の安全なる生活が營まれて來たことは、現代の世界的文明に到達して見れば、一の不幸なる現象と言はねばならぬ、現代の文明國民は唯無意味なる簡易生活を以て理想とすべきではない什うしても豐富なる經濟力を養ひ、意義ある組織的生活に向上せねばならぬのである、生活の向上と其日暮し的の簡易生活とは其間に甚しき徑庭あることを考ふれば我國の從來の住宅の如きは、啻簡易なりとて之を賞讃すべきものではない。併しながら現代の復雜なる文明は其反面に簡易、單純統一其他あらゆる科學的合理の生活を要求するのは事實であつて、我國の現時の如き單純簡易も或る意味に於ては、大に玩味すべきものなることは、吾人の常に注意を怠らぬ点である。

現代の科學的組織の進歩は、生活上にあらゆる變化を與へつゝあれども、其間に一貫せる大綱は經濟の原則にして、其狀態が如何に復雜となり、如何に享樂主義に傾きても、亦如何に科學的智識を利用するようになつても、其間を統一して脫線せしめぬ唯一の大綱は經濟上合理的なることの要求であると見るを至當とする。而して經濟上合理的なる要求は時代と共に漸次に推移するものであることも亦事情已むを得ないのである、我國の古來の住宅の如きは我國の維新前の時代にあつては正さに經濟上合理的のものであつたことは、之を十分に認むべきであるけれども、今日の世界的文明の渦中に入りて列國の間に交際を結ぶに至りては、最早時代の推移と共に其合理的事情は消滅したものと言はねばならぬ、然るに我國住宅の尙依然として其推移に伴はざる所以は、因襲の久しき關係上已むを得ざる結果であること勿論なれども、亦其間に理論上容易に現代の要求に應ぜられぬ譯がないでもない。

我國の住宅は、現代の科學より見れば大体に於て其構造を誤り、其材料に於て取捨を誤り、到底其儘に之を踏襲し得るものではないけれども、構造物として材料の經濟、勞力の省約を考慮し、其計畫に於て輕便を極め、施工の統一徹底せる如き、其經濟の原則に合致せる點は、恐らく兵器を除きては世界の工業中此に及ぶものなき程に、其極致に達したものである、大体家屋の如き復雜なる構造物を、一枚の半紙と一枚の罫紙にて十分確定的に說明し得ることは、我國の住宅が如何に經濟的に進歩したものであつたかを遺憾なく說明して居るのである。例令へば關西附近一帶の地に存在する疊の如きは其數幾千萬枚なるやを知らされども、其寸法は全部同寸法のものにして、如何なる場所にでも之を交換し得るのである、甚しきは障子、襖の類も其高さ、巾等凡て一律にして、引越

の際之を家具として運搬しつゝあるを見るに至つては、余りに交換式の行き届けるに驚かざるを得ない、又家屋其物も一行の文字を以て其内容を説明し得ること、猶ほ木捻の番號を以て之を注文し得るが如きものがある。此等の便利なる單純簡易の家屋は、之を使用するに至つては更に一層輕便なるものを發見する、即ち各室の交換式自由なることにして、客室、食堂、寢室凡てを自由に變換轉用し得る外に、其收容人員の彈力的に自由なることゝ及其收容力の大なることは、到底我現時の方法以上に出づるものはない、斯かる經濟上其便利の極致に達したる我國の家屋を、根本的に改良せしむることの困難は大約ぞ想像するに難くはないのである。

斯の如く經濟上に於て成功せる我國の住宅建築は、之を其儘襲用して漸次に改良を加へたならば益々理想的のものとなり得るならんと思はるれども、斯かる考は時代錯誤と言ふ嚴しき判官の爲めに到底現代文明には相容れぬようになつて來たのは、我國民の爲めには甚しき不幸とでも言はねばならぬ、現代に於ては家屋の部分的經濟及使用上の經濟は固より大に歡迎するところであるけれども、それ以上更に大なる經濟の原則が建築構造物を支配するようになつて來たのである、殊に都會地に於ける家屋は、それが住宅であるとも、店舖であるにもせよ、都會建築である以上都市全体の經濟と密接の關係あるのは當然と言はねばならぬ。住宅建築が都市經濟の大傘下に包含さるゝとすれば、住宅經濟の出發点は都市の經濟と相並行して進むべきは勿論にして、更に一歩を踏み込み現代社會の生活狀態と經濟的に一致の歩調を取るを以て理想とせねばならぬのである。

都市の經濟とは何であるか、其第一は建物自身の安固なることゝ財產の安全なる保管である、第二は其家屋及土地の投資が使用料と一致することである。此二箇の原則は住宅なる家屋にも適用さ

れねばならぬことは敢て説明を要しないのである、若し此見地より我國の住宅を觀察する時は、郊外の別荘や邊鄙の小村落を除くの外は、何れも根本に於て其經濟原則を踏み外づして居ると言つても差支がない、即ち從來の其日暮し主義より見て何等差支なしとした木造家屋は、現時の經濟生活の劇しき時代となりては、最早其根本に於て其存在を許さぬようになつて來たのである、木造の住宅は人家櫛比する都市又は村落に於て到底之を永續せしめることを許さぬ理由は近時數次報道さる都市大火の災厄と言ふ一條を見ても十分に諒解さるゝのである、況して震災の襲來や戰時の爆彈災厄を想像するに於ては、何等の抵抗力なき我國の木造家屋の末路を呪はざるを得ないのである、吾人は今急造に我國の重要都市の家屋を一齊に堅固なる構造にすべしと言ふが如き極端論を鼓吹するものではないけれども、我國民が唯部分的經濟の利便にのみ拘泥して、其根本經濟の原則を考へず、徒らに因襲を株守して時代錯誤の木造住宅を改良せんともせず、次第に世界の經濟潮流に遠ざからんとするを嘆はしく感ずるのである、而して木造住宅を堅實なる構造の家屋に取り換へることの困難は、最初の投資てふ一の經濟的故障より來るのではないかと思はるゝ現時の一般思想は、或る程度まで事實であると承認すべき理由がある、之れ吾人が此項に於て特に述べんとする事柄なのである。

住宅なるものが野原の一軒家である場合を除けば、必ず相隣接して建て並ぶか、或は數箇の集團となりて相隣接するのであるから、其構造物を堅實なる材料を以て防火的に組み立つるを現代の經濟的要求とするは、上述の通りであるが、其投資上の經濟的考課は如何なる狀態となるやは、現實の大問題であつて、其事情明白とならざれば、如何に理想を說けばとて何等の權威なきものである

吾人は此問題の解決を得んが爲め、可なり調査をなしたけれども、不幸にして未だ適確なる結果には達して居ない、殊に此問題の根本たるべき、我國中等以下の市民の生活狀態詳しく言へば其收入支出の關係が、余りに貧弱にして、文明國民としての生活狀態と見るには、少しく困難する事情を發見するのである、中に就て貧民として取扱はれて居るものゝ生活は、大低月收十五圓以下を以て一家族を支ふるの有樣にして、我國の大都市には其數は十數萬を以て算へらるゝと言ふことである而して彼等の住宅問題の如きは、到底現代の經濟原則に並行して之を解決し得る望みなきか故に、茲に慈善的行爲か、社會政策上の立場から其改善を企てねばならぬことに立到るのである。歐米各國殊に英國にありては、此問題の社會政策的解決を研究したことは近代の著しき事蹟であつて、今は已に着々其成績を擧げて居るのである。

英國にありては、一千八百八十四年にチャーレス、ヂルク卿を會長とし故先皇帝エドワード七世陛下（皇儲に在られし時）やサリスベリー侯其他の大政治家を委員に網羅せる住宅問題調査會を設置し、社會改善の意味に於て家屋法の編制を急ぎ、遂に一八九〇年に法律となりて議會を通過したのは、英國の誇として居るところである。（本誌に伊藤法學士の英國住宅法の論文あり就て見るべし）

而して英國は此法律に據り各自治体をして盛んに住宅公營を施行せしめて漸次職工階級の家屋改良に成功しつゝあるのは、今や汎く知られて居る事實である、吾人は左に英國の住宅改良の政策が經營の經濟に成功し、最初は其成績を疑はれたにも拘らず、已に經營上の獨立をなし、多少の積立をもなし、何等自治体や國家の財政に累を及ぼして居ないことを紹介し、我國今後の住宅改良政策

實施の參考とする。

英國の各都市が、保健法及職工住宅法に基き都會地の貧民部落一掃の爲めに、一八九一年より十四年間に費したる買收費は、約二千二百萬圓以上に達し、其住宅建設の爲めに募集したる債券は一九〇七年度の統計にて已に四千六百五十三萬圓に上つて居たのである。不幸にして吾人は最近の統計を有せざれども住宅法實施以來十五年間に五千萬圓に近きものを投資したことより推定すれば、現在に於ては最早一億萬圓に近きものが公營住宅に費されて居るであろふと思はれる、而して英國の各都市の經營せる住宅は左の五種に區別される。

一、合宿所

二、共同住宅舘（四階又は五階にして玄關及階段のみは共通）

三、割長家（テナメント）（主として三階を採用す）

四、農村風割長家（コツテージ フラツド）

五、農村風住宅（コツテージ）

合宿所の建設費は、一人當り平均三十七磅より七十一磅にして、其宿料は一日三片以上六片迄の間である、又共同住宅舘は其建物工費一室當り七百圓乃至千四百圓にして、一九〇七年度に於て其室數は英國都市を通して、二萬七千五百に達し、其家族は一萬二千百六十であつた、今其家賃を平均すれば、大低一週に付き三志半（一ヶ月に付き約七圓五十錢）より十二志（一ヶ月に付約二十五圓八十錢）の間である

一室のもの……家賃一週に付、二　志……五　志

二室のもの　一週に付き　三志半……八志半
三室のもの　同　五志半……十二志
四室のもの　同　六志半……十三志
五室のもの　同　十二志……十三志

又テヲメント住宅は、市中心地を離れたる處に經營さるゝを常とし、共同舘よりも更に廣く行はれて居る、其工費をみるに、建築費用は大低一室當り六百圓乃至千圓なれども地所の購入費は都市の狀況と其場所柄とにより、多少の差異を見るのである、倫敦にては平均八百圓、マンチエスターにては百二十圓なるが如き其著しき例である、而して其家賃は一室一週に付き一志十片平均にして其室數及設備により一家族に對する家賃は三志、四志、五志、六志及七志の種別を生じて居る。

コッテージ風の住宅は、地價最も安き區域に於て經營さるゝものにして、家屋の敷地は一室に付き五十ヤード（又は一住宅に對しては二百三十ヤード）以上を保たしめ、建物工費一室當り四五百圓と地所價格七十圓余、屋外工費二十圓余を加へ五六百圓を以て一室當りの全建設費を支辨するを通例とする、故に其家賃も一住宅（四箇以上の室を有す）に付き一週四志（一ケ月約八圓二十錢）乃至八志と言ふ計算となるのである。又農村風共同住宅舘はコッテージ風に建設されたる共同舘にして前二者の折衷と見て差支なきものである、其利用も都市の狀況により漸次盛んに需要さるゝようになつて來たと言ふことである。

英國にては住宅法により自治体が直接に改良住宅を企畫したのは、上述の通りであるが、其經濟上の觀察を少しく此處に述べて置きたい。英國の住宅改良法は同國の養老年金制度無職者救濟等の

如く國家の財政を煩はすことなく之を實施せんと企てたのである、故に其實施には法律を以て十分に之を保護し、極力其成功を助くる仕組であつたけれども、家賃は民間の普通借家よりも少しく高いようである、併しながら英國の國情等より打算して、勞働階級のものが一ケ月十圓内外の家賃を仕拂ふことは余り苦痛でなかろふし、又一方從來より借家持を以て生活し來りし資本家を公營の住宅が壓迫することを避ける爲めには、改良住宅の方の家賃が少し許り高いのは丁度適當の配劑であるかも知れぬ、而して家賃の割り出し方は、市債の利子、償却（六十ケ年乃至八十ケ年賦）雜費、修繕、稅と保險を總支出とし、其收入を見出すのである、然しながら其經營の初めに當りては收支の關係容易に明了なる成績を見ざるは事業の性質上已むを得ざるところであつて、マンチエスターに於ける一九〇六年度の收支計算に於て支出の方が收入を超過して居る如き實例もある、而かも大体に於て各都市とも各成績を擧げつゝあるのは事實である、左に一九〇六年度の英國國民住宅改良會の報告の一節を摘記すれば、

「公營住宅の經營は、經濟上に於ても漸次好成績を示し、今や其收入の百分の四七・八六を以て利子を拂ひて尙積立をなし、其百分の四〇・二三を以て凡ての經費（修繕、課稅、給水、煖房、點燈、雜費）を支辨して居る、現在倫敦市參事會經營のものは國定積立金七萬二千二百十六磅を有し修繕用積立金二萬七千八百八十九磅を剩余金として所有する云々」

此の報告によれば、英國の改良住宅公營は着々として經濟的に確實なる基礎を築き上げたのであつて、其齎した都市民健康狀態の向上を考へると、近代都市政策の一大成功であると言はねばならぬ、吾人は英國と事情を異にする我國に於て直ちに之を採て其範とせよと言ふ如き沒分曉漢ではな

いが、斯かる施設は大に之を玩味し、何とかして現時の我國住宅の不條理非衛生的の狀態を改善する根本方針を見出したいことを主張するのである。

獨逸に於ても、矢張り改良住宅の急要を考へて、其實現に努力したことは英國と少しも變らぬのであるが、其實現の方法を異にして居る爲めに、英國都市の發表する如き統計を見ざれども、家賃の如きは英國のものより少許低廉であるかに報告されて居るのである、同國の都市は廣大なる市郊外地を有し、民間の家屋協會に之を貸與して、改良住宅の經營を實施せしむるを普通とする、其資金貸與を法律にて許されて居るあたりは、英國と余り差はないようである、一八九三年の報告によるも已に獨逸全國を通じて四百二十余の家屋協會が成立して、三千萬圓に値する住宅が經營されて居たのである。

英獨以外の各國もそれ〳〵家屋法を制定して、改良住宅の促進を計りつゝあることは事實にして殊に米國は近來安價住宅の輿論勃興し、學術的に、又社會改善の事業として大に論議されて居る、此等は英國の政策が漸次成功するに連れて、益々強大なる運動となり、遂には住宅國營の機運を作るのではないかと思はれる。

之を我國の現狀に見る時、吾人は甚だ苦しき立場にあることを發見するのである、そは他にあらず、吾國一般中流以下の生活狀態が、文明的の住宅に生活する迄に進歩して居ないことである。故に住宅の改良を企つるも忽ちに困難を感ずるは其家賃の高率なることであつて、衛生上又都市一般の經濟上合理的のものとなすには、如何なる方針に依るべきや、又如何なる妙案あるやの研究に移らねばならぬのである。吾人は其問題の研究に入るに先だち、我國の職工階級の生活狀態の實狀を

少しく具体的に擧げて見たい。

大正五年十月東京法科大學教授高野博士が發表されたる東京に於ける二十職工家計調査に依り、收入十二圓余を最低とし最高五十三圓余のものに就き、其生計内譯を見るに。

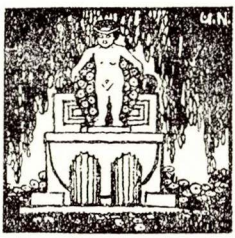
1 飲食費	四一・四二	（百分比）
2 住宅費	一七・五六	（同）
3 薪炭、燈火費	六・一四	
4 被服、自廻品費	七・五〇	
5 保健費	八・一七	（其他交通費、育兒費、交際費、雜費）
合計	一〇〇・〇〇	

即ち知る住宅費は、全收入の二割弱を以て普通とするのである、又大阪に於ける下級民部落の住宅賃を見るに、一日に付き六錢乃至八錢を最も多しとするから、彼等の收入一日に付き五十錢乃至六十錢より割り出す時は、其住宅賃の割合は收入の一割以上一割五分までの間である、其他收入一ケ月四五十圓のものゝ住宅賃を見るに、普通十圓内外にして其收入に對する割合は二割強である、此等の現實の事實より見るに、我國現時の狀態にては、英獨各國の如き程度の家賃を負擔せしめることは、一般社會の生活狀態と相副はないことは明かである、況して我國の建築工費は近時非常に昇騰して居るから、中々單純なる理論を以て此の經濟的難關を切り拔ける譯にはゆかないのは明かである。然らば吾人の近代的要求としての我邦の住宅改良策は、經濟上全く不可能であるかと言ふに、必ずしもそうではない、吾人は我國一般の生活狀態が粗慢にして、其收入と支出の整理や、其

收入向上の爲めの努力が、十分に行き届かず、依然として封建時代の極樂園を夢想し、時々刻々襲ひ來る生存競爭の波動に對する抵抗力を強大ならしむるの方法を、深く慮かつては居ないように思ふのである。今日の生存競爭の劇しき時代に入りて、都市の中央に於ても、尙ほ月收十四五圓のものが、完全なる合理的生活を營まんとする事情は、果して之を其儘に看過して可なるや否やは、大に研究すべき問題である。改良住宅の問題は正さに其研究と根蒂を一にするのであつて、之を徹底せしめねば文明的都市の建設は出來ないのである。之を英國の勞働者保護の各種法律の如くに取扱ふのも、一の方法ではあるけれども、我國の現時の財政狀態にては到底其負擔に勝へざるべく、又社會政策の研究不充分なる我國の一般社會は其施設を承認せざるべく、殊に識者階級に近代の文明的組織を深く理解せざるもの多きを考ふる時は、吾人は、住宅改良の問題を提げて、之を經濟的に容易く解決せん爲めには、今後可なりの奮鬪を繼續せねばならぬのである。（續く）

□松平越中守壁書□

一淫酒は早世の地形　一堪忍は身を立つる壁
一苦勞は榮華の礎　一珍味珍膳は貧の柱
一多言慮外は身を損する根立　一仁情は家を治むる疊
一華美は借金の板敷　一法度は僕を仕ふ屋根
一我儘は朋友に惡まるゝ障子



他山の石

はしがき

議事堂建築に關する論議並びに今迄の成行は前號に於て、略述しておいたが、今回の政府案が兩院を無事通過するや否や目下の處不明であるが、財政に餘裕のあるといひ條、增稅案さへ提出されてゐる有樣では、什うやらむづかしいかもしれない。

乍然あゝいふ一時的の姑息案は寧ろ消滅した方が却つて本建築の前途に光明を與へるかもしれない。そして新たに徹底したる設計案を樹立するの得策である事を感ずるものである、唯一時的の姑息案でも否決の運命に相遇したら、假建築の現狀を如何に救濟すべきであるかといふ事になるが、それは仕方がない修繕か改築かで繕縫するより外はあるまい政府案がたとへ通過するにした處で、十年近くの日子を要するならば、同じ事である。それにしても貧乏な吾國の現狀では總てが御都合主義で不都合な結果に行詰つて居る、今少し永遠に亘つての考慮から出立して、將來に有意義な建築の計畫が立てられん事を衷心希望して止まないのである。

貧乏の程度では、歐洲に於ても吾國に劣らぬ國がないでもないが、それでも臨時の國會議事堂として一時の急に應ずる建物のある丈が羨やましいではないか、羨やましいといふと語弊があるが要するに吾國の現狀では將來に動きのされる大建築を隨時に計畫して置く事を心掛けねばなるまいかと思ふ。此見地から觀れば今回の政府案をして、半永久的臨時建築とし假議院の意味に於て、全然無用の裝飾を省き將來の本建築の建てらるべき永田町一圓の地所以外の敷地を選んで、急擧現狀を救濟する目的の下に、僅少の期間に假建築を建設するの方策は寧ろ適切であるかもしれない。そして本建築は別に大規模の計畫案に據り悠々國民的建築の眞價を發揮せしむるの目的を以て、健全なる大委員會を組織して、將來數百年の後を慮りて着々實行に執り掛らば、國民の滿足如何ばかりであろうか。

新時代には新時代の理解を保つて居るべきである。苟も我國の現狀に滿足せざる國民は、永遠に亘りての意義ある徹底せる思想を抱懷して、雄大無邊の國是を樹立涵養して行かればなるまい。貧乏だからと申して其日暮らしの計畫に沒頭して居るべ

きでない。貧乏國なるが爲めに特別なる頓悟を必要とする。永遠に不滅な國家經濟策を樹立すべき時機である。そして國民の連續せる努力を築き上げて行かねばなるまいかと思ふ。豈一議院建築のみでないのである。

他山の石と題して各國の議院建築を紹介しておく「コンペチション」の羊頭を築しむ建築家にも多少の參考になり得るかもしれない。

白耳義國會議事堂

十四世紀時代には大公連の狩獵場であつたといふ廣大にして幽邃なブラッセル公園の北側に沿ひ、年老いた常盤木や大理石像が美しい倒影を靜かな池の面に映してるテラロアの通りに、石造宏壯な建物が立つて居る、之が即ち白耳義國會議事堂である。初めて之を設計したのはギマードであつて一七八三年に竣工し、當時ブラバンの代表者が會議をする場所として用ひられたが、獨立成るに及び一八三一年以降は、元老院及衆議院の議事堂に充てられる事となつた。

正面に高く前部を飾る三角形の破風（ペディメント）を蔽ふ美事なる凸彫（レリーフ）はゴデチヤールの手に成り、不幸にして其後祝融氏の襲ふ所となつて、一八八七年バヤーに依りて修覆され、以前に增すの美觀を呈するに至つた。兩院の議事堂は頗る立派なもので、ガレー、テラレーン等の卓絶せる名畫を以て飾り絢爛の美を盡し特に歷史畫や花模樣を織り出した壁絨の貴重なものが甚だ多い。議會開期中は階上の傍聽席を公開するのみであるが其外の間には廣く一般の觀覽を許し普く此の美術的建物の內部と其所藏の藝術品を賞玩せしめたのである。

元老院議員は任期八年、一部は直接に一部は地方協議會に依り、人口に比例して四十歲以上の男子より選擧され、四年毎に半數改選を行ふ衆議院議員は任期四年、人口四萬に就き一人を直接に人民より選擧すべく、二十五歲以上の男子は凡て有權者であつて、一人三票を有し二年毎に半數改選となる。衆議院議員は四千法の歲費を受け、居住地と首府間との汽車賃を免せらるゝの特典があつた。

それにしても兇猛な獨軍に委せられた白國の現狀は御氣の毒でならない、この溫雅な建築も

豺狼の巢窟となつてしまつて居るのである。聯合國の正義は果して此の偉大なる犧牲國民の血と涙を清く拭ふことが出來るであろうか。彼等は何時になつたら漂浪の旅から歸つて再び此の愛すべき建物の主人公たるを得るであろうか。

露國國會議事堂

一九〇五年、ボーツマス講和會議の進行中、首都に革命亂の勃發があつて醒風血雨の巷と化したので日露兩國砲火相見ゆて以來、民衆の欲望であつた立憲政治の叫びは、茲に其實を結ぶことゝなつて、同年八月十九日の勅令を以て初めて國會が組織されるに至つた。つまり日露戰役によつて促進されたのである。

議員は首都及莫斯科を首めとし、二十八縣及び主なる大都市より選出され、有權者を代表する選擧委員會なるものが之を選擧する事となつて居た。

議事堂は元のトーリド宮殿で、一七八三年、カザリン二世の命に依つてスタロフが建築したものであつて、一時クリミヤ戰爭の怪傑ポテムキンに下賜され一七九一年再び帝室の有に歸してゐた。

玄關の廣間より進めば圓壺の室に入る、此處に歷山二世の胸像が儼然として四邊を睥睨して居るそうだが、あの混沌たる今日の露國の狀態を見て二世皇帝像も憤慨驚膽してゐる事であろう。

會議室は元の冬園（ツヰンターガーデン）で、四百四十四個の議員を連ねた大廣間であるそうだが、名にし負ふ異人種の錯綜混沌たる露國の事とて會期中の國會は宛然たる人種展覽會の觀を呈して居つたのである。

ケレンスキー沒落の後の露國は、亂脈の絕頂に上つて、レニン、トロツキー等の連中の踵踩してゐる間は此の議場も神聖を穢されて見慘なものに違ひない。況んや獨軍の魔手は首都を襲ひつゝあるの時建築にして心あらば無念の涙を流して居る事であろう。

西班牙國國會議事堂

一八七四年アルフォンゾ十二世、其流竄の母

君イサベラ女王の後を承けて、西班牙の王位に即くや、早くも立憲政治を布くの急務なるを感知し、越ねて一八七六年人民に許すに憲法を以てし、自ら行法權を保留すると共に、立法權は國王と國會とに於て之を分擔するの制度を發布した。國會は上下兩院より成り、更に上院議員を細別して、門閥出身者若くば官職上によれる議員、勅選議員、及び多額納稅者並びに特殊團體互選議員の三種に分ち、第一、第二兩種の議員を合して百八十名、多額納稅員百八十名を定員とする。次に下院は四百三十一名の議員を以て之を組織し、二十五歲以上の公民にして其住居する都市に完全なる市民權を享有する者は、何人と雖も選擧權を有して居り、代議士の任期は二個年と定められてある。更に各州には州會なるものが存在すると同時に、各郡市にも亦市政郡政を管掌すべき地方會議なるものが設けられてあり、之が議長の椅子は市尹（アルカルド）の占むる所である。

圖に示す瀟洒たる建物は、即ち下院議事堂で一八五〇年竣工を告げたコリンシャン列柱式の高雅な石造の巨閣である。十九世紀に於ける西班牙彫刻界の巨擘ポンザノの技巧を凝したる寓意的の群像は光彩陸離として入口の迫持を飾り、尙石階の左右兩端に蹲踞せる二頭の獅子は之れ亦ポンザノの靈腕に成つたものである、更に歩を堂內に移せば、歷史上の各種の光影を描寫したる四面の壁畫に嘆稱の聲を禁ずることが出來ないといふ事である、眠れる王國の民も歐洲の大亂の餘波を受けて時々動搖してゐる樣だが、先以て天下太平、君子危きに近よらざれ、

墺國國會議事堂（前號口繪參照）

維納を表象する宏大雄偉なる宮殿公衙の櫛比せるリングストラッセの大通り、ヴオルク公園と相對峙せる堂々たる一大希臘建築こそ、墺國の國會議事堂であつて、工師ハンセンが苦心設計の下に一八八三年を以て竣成したものである。

向つて右側は下院の議場であり、左側は上院のそれに充てられ、何れも獨立の樓郭を成し、屋宇の上には大理石像眞鍮の浮彫四輪車の銅像

を配置して美觀を添へ、中央の一郭兩院を聯ね事務局委員室等に用ひられてゐる。

正面の前庭公園に對せる廣濶なる處、ミチヴア女神の噴水を設く、高さ約そ五十呎、一九〇二年にカンドマンの妙技を揮へるもの、巨大なる女神高く屹立して左手に勝利の神像を捧げ、臺座には寓意ある群兒の彫刻あり。大半圓を劃せる入口の兩側は調馬の銅像もて飾り、女關に達する邊りには羅馬の偉人ジユリアス、シーザー以下の塑像を安置す、左右各々五士。若し夫れ莊嚴を極めたる大女關に至りては、聯立せる巨石の石柱を以て支持せられたる偉觀、前郭高く憲法允許の景を表現せる群像の一大刻圖を以つてし、ヘルマーの名作といふ、女關を入れる大廣間の莊麗は特に矚目に値し、二十四基の大理石柱悉く全石なるも異とすべく、これを裝飾するに著名なる事績を描ける美はしき歷史畫を以てしてある。

墺洪國は各自別々に獨立の國會を有し上下兩院を備へてゐるが、更に其上に共通の帝國議會があり、兩國より上院議員二十八下院議員四十八即ち六十八宛の代表者を選出して會議討論し外交、軍事、財政等兩國一般共通の立法に參與と行政を監督せしめる。此の議會は維納とブダペストと交代相互に開會する事になつて居る。

故老帝の沒後は墺國は全く獨帝の左右する所となつて居る。計らざる大戰の火蓋を切つた老帝國の將來の運命は什うなるであろうか。思ふに中歐同盟國の將來は偉大な一つの謎であろう

洪牙利國會議事堂（前號口繪參照）

唯見る絢爛人目を奪ふゴシック風石灰岩造りの大建築、洪都ブダペストの西北方に、ドナウの大河を背後に控へ、巍乎として其雄姿をナドル街の一角に矜るもの、之れなん洪牙利國會議事堂である。其總面積三英町四分の三、之れが工事費は實に一千五百萬圓の巨額に達せしと云ふ。本議事堂は倫敦のウエストミンスターの大建築には一籌を輸すると雖も、之れを除けば全世界を通じて最も莊麗なる議事堂なりとの定評がある。其のドナウ河に臨む所は、セントステ

フエン塔のテームス河に臨めるにもさも似て、其の凛々しき大袈裟の巨厦は著しく異彩を放ち殊に目を議事堂より近隣の貧弱な林園に移すときは、一は莊麗にして他は噴飯の種とも評し得べきである。

此は建築家スタインドルの設計に係り、一八八三年初めて工を起し、一九〇二年を以て漸く竣成を告げたものであつて、高さ三百十五呎の圓蓋及び各二百五十六呎の高塔より成る中央建物と左右兩翼の建築とより成り、南側を下院に充て、北側を上院議員の會議に用ひて居る。其の外部は九十個の群像を以て之を飾り、加之後世子孫の渇仰すべき政治家其他の偉人傑士二百五十八名の塑像を竝べ、莊麗の裡更に一種歴史的意義を深からしめて居る。若し夫れ内部裝飾に至つては精巧なる彫刻鍍金を施し格天井を具へたる大廊下は、四壁に巨大なる姿見と歴史畫とを掲げ、鋪床は最も華麗なる絨氈を敷き詰め跫音の喧噪を防ぐかと見れば、高雅なる高段と天井高き廣間とは、國粋の善美を盡したる矮像胸像其他の美術品を以て之を飾り、尚ほ一種敬虔の念を胸湧せしむる玉座の間は、未だ一回も皇帝の使用を見ないが、華美驚く可きものがある。

二重王國の民の心血を注いで成りし議事堂が堂々たる雄姿をドナウ河畔に誇る處、堂宇徒らに聳えて國民の志氣之れに伴はざるものがあるのは、奇觀ではあるまいか、さはれ新興東海の帝國民が勃々たる覇氣正に剛なるに係らず、日比谷原頭貧弱な木造建築に甘んずるも亦對比して一奇觀たるを免れず。

獨逸帝國議事堂（前號口繪參照）

獨逸帝國議事堂は伯林のケニッヒ、プラッツ街にありて一八八四年より一八九四年の頃、ポールグロットの設計によりて、かくの如き華麗な伊太利風、ルーチスサンス式の巨舘が出來上つたのである。

中央の大圓蓋の高さは二百四十六呎に達し、其の頂きには金色の王冠が飾られ、建築の四隅に於ける各々百五十呎の高塔には商工業を象徴

せる精巧なる彫像が數多く列んでゐる。

獨逸の憲法は一八七一年（我國明治四年）四月十六日の發布に基き、普魯西帝王は代代獨逸聯邦の主權者と定められ、外國に對しては帝國を代表し、宣戰講和の權、陸海軍統帥の權、又は帝國議會召集の權能が與へられてある。議會は三百九十七人の下院と五十八人の上院より成立し、選擧法は無記名投票によりて、男子滿二十五歳以上の者には總て普通選擧權がある。而して各聯邦とも十萬人に一人の議員を選出し、若し十萬人に滿たざる聯邦と雖も一人の議員を選出し得る事が出來る。議員の任期は五ケ年にして、議會解散の場合には上院の可決と皇帝の批准を要する、而して解散後の再選は必ず六十日以內に擧行し、九十日以內に開會せねばならぬ。國內に於ける二個以上の聯邦間に爭ひの起つた時は（普通裁判所の管轄以外の事件は）議員の訴訟によりて上院の裁斷を要請する事となつて居る。亦憲法の改正は普通立法と同じく兩院を通過した上でなければならぬ。

鐵血宰相の苦衷多年漸く堅實となりし國礎は今やカイゼルの野心のために、乾坤一擲の大運動を繼續しつゝある、是乎非乎、ケニッヒプラッツ街頭、鬼氣愁々の叫聲を聞かずや。

合衆國國會議事堂（前號口繪參照）

合衆國國會議事堂の雄大壯麗の大建築は前號に紹介しておいたが、其最初の礎石は實に一七九三年に國父華盛頓の据ゑたものである。爾來國運の進展隆昌と共に增築擴張を加へられて、現時の壯觀を呈するに至つたのである。

正面石階上の大玄關は大統領就任式場に充てられる事になつて居るが、中央の大圓蓋（ドーム）は高さ三百呎を越ゑ頂上に自由の神像を安置してゐる左右兩翼の建物は右方が上院左方が下院の各議場になり居るが元の下院議場は中央の圓堂の左にあつて今は國立聖像殿（ナショナルスタチユアリホール）となつて居るし、左方に在つた上院議場は今は大審院（スープリムコート）となつて居る。

現在の下院は四百三十五の議席と中階に千五百の傍聽席を備へてゐる。上院は九十二の議席

と千人の傍聽席とを設けてある。

圖は下院議場開議中の光景を示せるもの、採光は天窓に依り、其飾玻璃（スティンドグラス）は各州の紋章を以を飾られてゐる。議長卓子は白大理石の鑿工に成り、各部の裝飾の如き華麗絢爛を盡してゐる。

溫雅雄健の國史に指導されて、新世界の波瀾萬丈に養はれし大國民が連年の雄心凝て、大建築を成就せる偉ならずとせずや、モンローやリンカンやグラントの靈、華府の天空に在りて如何の感をなす。今や無限の國富に有頂天となれるヤンキーの前途は二十世の謎の偉大なるものであらう。

佛蘭西下院議事堂

下院は各地方を代表する五百八十四人を以て組織され、其任期は四ヶ年と定められて居る。

一八七〇年九月四日、巴里市に革命勃發し、第二期帝國の顚覆と共に、共和政体となつて以來五年を經て始めて具体的に佛國憲法が制定せられ、主權は上下兩院に委すと宣言されたのである、爾來幾度か修正改定せられて今日に至つて居る。其昔驕れる、ブルボン王家の燦然たるブルボン宮殿は遂に共和國の國事議政場と改められたのである。

白百合の紋章が燦たる光を輝かしたる王朝時代には今の下院議場は玉座の間として用ゐられて居たのであるが、革命の猛火狂ふや、王族の無道を憤りて暴徒は宮殿内に飛入し、珍器寶物を掠奪し、宮闕の大部分を破壞して了つた、後年建築家チャールス、ジュリアン、レッファの手によつて修理成り、議場の周圍や天井に國民の「自覺」を象徵した油畫を填補したのである正面には希臘のアポロ殿堂にある彫刻に倣つて「健康」「勢力」「智識」「平和」等の形像や佛國の紋章を刻み附けられてゐる。

佛蘭西上院議事堂

上院議事堂は巴里のルクサムブル宮殿内に設けられ居る。議員定數三百人、四十歳以上の者で選擧法に規定された選擧代表者から選出される事になつて居る。任期は九ヶ年で三年毎に三分の一を改選する。上院議員たる資格は兵役に

服した者でなければならぬ。大統領は上下兩院議員中より議員のみが選擧せる事になつて居る。

この室はルイ十四世が大夜會場として用ひたもので、之れに修理を加へて上院の議場と改めた。議長席の後方には國家に功勞あり、敬慕すべき大政治家の塑像が飾られてある、議長席の前面、直ぐ下に在るは演壇で、更らに其下に七人の速記者席が設けられてあるし、又左右兩側壁際に据ゑてある椅子は上院守衛の爲めに設けられてある。

此の莊麗な一室に、屢々佛蘭西經國の大業が論議せられる。殊に一九一四年の夏獨逸が白耳義の中立を侵すや、佛國民の激昂甚だしく、上院の輿論最も猛烈を極めた、爾來幾度か內閣の更迭があり、今の內閣の成立する迄、屢大論議が戰はされてゐる。

今や國運の分岐點に立つ佛國民の苦心經營は實に慘憺たるものがあろう、大統領ポアン、カレーは、双肩に重任を負ふて、南船北馬日も之れ足らず、されど內閣の動搖は聯合國中最も激しく、クレマンソーが首相の印綬を帶ぶる迄、七回に及んで居る。西部戰線の戰機漸く熟し來るの時、上下兩院の議政壇上靜かなる事林の如かれ。

英國國會議事堂（上）（前號口繪參照）

英國々會の議事堂はウエストミンスターホールと連接して一大建築物を成して居る。サー、チャールス、バリーの設計の下に、一八四〇年竣工したもので、以前の建築物は一八三四年に燒失したのである。

新建築は莊嚴を極めた舊ゴシック式で、面積八英町に亘り、一千一百室に區劃され、工事費三百萬磅を要したと云ふ一事を以てしても、其宏大を窺ふことが出來る。有名な時計臺セントステフェンス塔は建物の北端にあり、高さ三百十八呎、その頂上にある大時計は俗にビッグベンと稱し直經實に二十三呎重量十三噸、之れを卷くのに五時間を要すると云ふ。

建物の前テームス河に臨んだ部分は間口九百四十呎で、ウイリアム大帝以降歷代の皇帝の銅

像が並んで居る。内部に這入ると、之れ亦華美を極めたもので、上院議場は長さ九十呎、幅四十五呎の長方形で、赤いモロッコ皮の議席が所狭きまでに並べられ、南端の玉座は二三段高い所に在り、其の前に議長の椅子ウールサックと云ふのがあつて、議會名物の一である。下院議場は長さ七十五呎、幅四十五呎、樫木の鏡板を以て四面を繞らし、十二枚の裝飾窓璃玻には市邑の紋章を施してある。場の北端に議長席を置き、向つて右手が政府黨の議席、左手が反對黨のそれである。中央巨堂の西側に在る有名なセント・ステフエンス・ホールはセント・ステフエンス敎會堂の古跡で、四壁に沿ふてセルデン、ウルポール、チヤザム、ピット、フオックス、バーク其他の大政治家の大理石像が並んで居て觀る者をして坐ろに大英國憲政の根底深きを偲ばしめる。

英國國會議事堂（下）

英國上院の沿革を觀るに、アングロ・サクスン時代のウイテナゲモテイア（賢者の集會の義）なるものが其の濫觴である。次でノルマン王時代には大會議と呼び、幾多の部門に分たれて居たが、漸次組織の變革を見、エドワード一世の治下に及び、其の立法部は全然分離獨立して、遂に今日の上院を形成するに至つた。次に下院は古代の州會に胚胎し、初め地方政治の討議のみに局限されて居たが、其後中央會議に代議員を送つて國事を議するやうになり、殊に稅制の立案に重きを置いた。下つてエドワード三世（一三二七年―一三七七年）の時代に及び、明確に上下兩院の對立を見るやうになつた。而して苟くも大英國の爵位を有する者は悉く上下兩院の孰れかに議席を占むる制度にして、上院議員の數は常に不定であるが、現在は凡そ六百四十二名である。下院は英國本土四百六十五、ウエールス三十、蘇格蘭七十二、愛蘭百〇三といふ割合で、合計六百七十人である。下院議長は討議に參加しないことは日本と同一であるが、上院議長は發言權を有し、何時でも議席に着いて辯舌を揮ふことが出來る制度である。又皇帝は

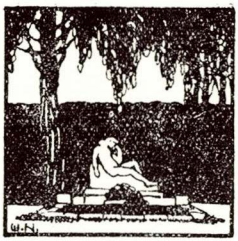
議會を召集し、若しくは之れを解散せしむる權能を有し、下院議員の任期は七年間で、如何なる問題と雖も、下院議員によりて請願又は動議され得ざるものは無いが、唯裁判所の判決に對しては之れを修正干渉する權を有たない。二大政黨の對峙は實に英國代議制の特徴で議會を以て政爭の具、射利の巷と化せしめざる點も確かに、他に匹儔を見ざる長所である。由來英人が政治上に惡戰苦鬪を試みて倦む所を知らないのは、畢竟政治は權力爭奪の府にあらざるの信念に基くからである。

露墺獨佛の風雲急を告げし一九一四年の初夏上下兩院の議場はアイルランド自治問題に沒頭して、亦他を省みる暇もなかつた樣であつた。好機逸すべからずとカイゼルは毒牙を可憐なる白國の上に加へたのであつた。外相グレーの敏腕によつて大英國の危機は見事に一機機を劃したのであつた。

今やロキドショージは衆望を負ふて廟堂に立ち、死中に活を得る底の覇氣を執つて、自由國民の結束を策しつゝある、首相の堂々たる獅子吼は、この議政壇上から迸しつて、東西兩洋の波を靜めつゝあり一大偉觀ならずとせんや。

鎖國の夢破れて茲に六十有餘年、帝國の盛運隆々として、一擧一動四海の耳目を聳動しつゝあるの時遼遠なる前途と諸般事業の遲々牛歩の夫れの如きを顧れば、議院建築の經營亦頗る愼重の考慮を要せずや、徒らに他國の華を羨むに非ず、他山の石無言の敎喝を示せるを觀るに外ならず。

爲せば成る。爲さねば成らぬ
　成るものを
成らぬ所は
　爲さぬなりけり



英國に於ける住居及都市計畫法令（一）

大阪高等商業學校教授　伊藤眞雄

余は大阪高等商業學校發刊に係る「商業及經濟研究」の第四冊に於て英國住居問題の由來を述べ之に對する國家の態度より觀れば、第十九世紀中葉に至るまでは全く放任無政策の時代とも稱すべき狀態であつたが。其後國家は漸く之に關する政策施行の必要を認むるに至り、爾來一九〇九年に至る迄は專ら住居改良に關する法制の時代であつて、此時代の法制は、一方には主として比較的優れる住居の供給增加を目的とするものと、他方には主として既存住居の改修を目的とするものとの二種に大別し得ることを述べ、而して右第四冊に於ては前者即ち優良住居の供給增加に關する法制の沿革を畧述し、次で同誌第六冊に於て、後者即既存住居の改修に關する法制の發達を要說し、當初以來四十年間に亘りて發布せられたる住居の供給及び改修に關する諸法制は、一八九〇年の勞働者住居條例 Housing of the Working classes Act, 1890. なる一大法典に統合整理せられて爾後此法典が住居改良に關する最も重要なる主法を成すに至つたのであるが其後尙ほ多小の修正が加へられ、殊に一九〇九年の「住居」及「都市計畫」條例 Housing, Town Planning etc, Act, 1909. の第一編の規定に依て、地方團体の權能及び之に對する中央廳の監督權は益々擴張せられ。其他の點に於ても益々實地施行を便ならしむべき改正を加へられたる事を述べた。而して此一九〇九年の條例は、從來の住居條例に如上の修正を加ふると共に、初めて都市計畫法制併用の時代を開いたものであつて實に英國の住居政策上一大新紀元を劃する最も重要なるものである。故に余は順序上更に此最近の新法制に就て略說せなければならぬのであるが、都市計畫に關する問題は、我國大都市殊に都市改良調査委員會を設置して鋭意諸般の改良に就て研究調査しつゝある我大阪市に於ては其發達膨脹の實狀に照して最喫緊重要の問題であつて、殊に晩近に至りて初て其制定を見たる英國都市計畫法の如きは、最も我國民の覺醒を刺戟し又參考の資料を與ふること多きものと信ずるから、余は特に之を稍々詳しく說明しやうと思ふ。

一九〇九年の「住居」及「都市計畫」條例は

四編に分たれたる七十六範の規定より成る法律であつて、左の如く編成せられて居る。

第一編　勞働者の住居（第一節より第五十三節に至る）

第二編　都市計畫（第五十四節より第六十七節に至る）

第三編　府縣保健醫員の任命並に其職務に關する規定及び府縣の公共保健及住居委員の設置に關する規定等（第六十八節より第七十二節に至る）

第四編　補充規定（第七十三節より第七十六節に至る）

右の中其の主要部を成すものは第一編と第二編とであつて、就中第一編「勞働者住居」に關する規定は全体七十六節の規定中の五十三節即ち本法規定の大多數を占め、之れに對して第二編「都市計畫」に關する規定は僅かに十四節より成るに過ぎぬ。是れ畢竟本條例は一方には既に過去半世紀以來相當の發達成熟を遂げたる勞働者住居に關する法制と、他方には立法上未だ曾て企畫せられたることなく今回創めて制定せられたる都市計畫に關する法制との、全く其の發達及び性質を異にせる別種の法制をば同一條例中に規定したるの結果であつて、決して其一方を主要視し他方を從屬視せる結果ではない。即第一の勞働者住居に關する規定は、一八五一年以來勞働者の住居供給を目的とせるシャフツバリー諸條例一八六八年以來個々の家屋の撤去及改造を目的とせるトーレンス諸條例、及び一八七五年以來更に進んで或地域全体に亘れる家屋の撤去及び改造を目的とせるクロス諸條例の巨多なる住居法規定を整理統一したる彼の一八九〇年の勞働者住居條例に對して、更に之れに廣汎綿密なる大修正を加へたるものであるから此第一編の條文數が同法典中最大多數を占むるに至つたのは敢て異とするに足らぬのである。

而して此第一編の規定は左の如くに編成せられて居る。

一、住居條例の爲にする土地の取得及び其他の事項の施行を便利ならしめんが爲めの規

定（第一節より第九節に到る）

一、住居條例の施行強制の權能に關する規定（第十節より第十三節に到る）

一、家主の契約に關する規定（第十四節より第十六節に到る）

一、住家の閉鎖命令 Closing order 及取毀命令 Demolition order の手續修正に關する規定（第十七節より第二十一節に到る）

一、住居の改修設計 Improvement schemes 及び改築設計 Reconstruction schemes に關する修正規定（第二十二節より第二十九節に到る）

一、財政事項に關する修正規定（第三十節より第三十五節に到る）

一、一般的修正規定（第三十六節より第四十六節に到る）

一、諸定義（第四十七節より第五十一節に到る）

一、蘇格蘭に對する第一編の適用に關する規定（第五十二節より第五十三節に到る）

今此第一編の規定を逐條的順序に依て一々之を說明することは甚だ複雜であつて且つ多くの紙數を要することであり、又此際余の主たる目的は前述の如く第二編の都市計畫の規定の說明に在るのであるから、必ずしも成文の順序に依らず其の主なる規定のみを摘出して其の要點を略說するに止め、而して先づ第一編及び第三編を前にし、第四編は之を省略しやうと思ふ。

以下單に主法と稱するのは一八九〇年の勞働者住居條例のことであつて、本法と稱するのは此一九〇九年の「住居」及「都市計畫」條例のことである。又條例の名を示さずして單に其節や項の番號を註記したるは、本法の節や項を示したのである。

第一編　勞働者の住居

（一）土地の取得及び其他を便利ならしむべき修正規定。

一、主法第三編（即ち勞働者の寄宿所建設を目的とせる從來のシャフツバリー條例を統一したるもの）は、從來は之を採用施行すると否

とは之を地方廳の任意に委したる撰擇法なりしも、爾後其撰擇を許さゞる强行法となす。（第一節）

而して右主法第三編にて目的とする所の勞働者の寄宿所とは、一棟の中に唯だ一戸の借家を含むと數戸の借家を含むとを問はず勞働者の爲めの大小の單獨家屋をも含むものとし（主法第五二節）又單獨小屋 Cottage とは一エーカー以下の庭園あるものをも含むものとしてある。（本法第五〇節）勞働者の住居の爲めに必要なる場合には、大小に拘らず其の住家を建設すべきことは、今や地方廳の義務となつたのであるが、地方廳は之が爲めに其の所有地に於て勞働者に適當せる住家を建設し又は既存の建物を之に改造し、又既設の寄宿所を買收若くは賃借することを得（主法第五七ー五九節）又其地方の區域以外の場所に於ても之を建設し又は之を取得することを得るのである。（一九〇〇年勞働者住居條例第一節）

一、地方廳は主法第三編の目的の爲に、本法第一附則の規定に從ひ、地方政務廳に提出して其認可を經たる命令に依て土地を收用することを得。（第二節）

從來は此場合の土地收用には主法第五七節の第二項に依て一八七五年の公共保健條例の第一七六節が適用せられ地方新聞に廣告すること、土地所有者並に借地人に通告すること、及び地方政務廳に請願することの三段の手續を含み且つ甚だ複雜であつたのであるが、今後は本法第一附則の規定に依り、地方廳は命令を以て其の購入せんと欲する土地を指定して、地方政務廳に提出して其の認可を得るを要し、而して認可を得たる後は法律と同一の終決的効力を有し、政務廳の定めたる規則に從て之を公布し且つ其土地の所在地方及び所有者、借地人並びに占有者に對して之を通告するを要することとなつたのであつて、土地收用は實地上著しく簡易有効となつたのである。

右の如く主法第三編の目的上土地の收用をなし得るのであるが、又地方には住居條例の何れの編の目的に依る場合にても土地及び金錢並に其他の財産の寄附を受くることをも得るのである。（第八節）

一、地方廳は主法第三編の目的の爲めに地方政務廳の同意を經且つ其定むる條件に從ひ、契約に依りて直接に之に必要ならざる土地をも取得することを得。（第二節第三項）

此は地方廳をして將來勞働者住居設備の準備の爲め、殊に偶然に買收の好機會を生じたる土地等を、將來の爲めに買收し置くことを許したるものである。又地方廳は第三編の目的上取得したる土地を、地方政務廳の同意（但し田舍地方區の場合には府縣會の同意）を得て、同法の下に勞働者の寄宿所を建設且つ維持すべき條件を以て、之を他人に貸付くることをも得るのである。（一九〇〇年條例第五節）

一、地方廳は主法第三編の目的の爲に取得又は收用せる土地の上に、自ら公共の街衢又は道路を開設若くは構築し、又は公共用に供するの條件を以て他人をして之を行はしめ其の費用を補助することを得。（第六節）

街衢又は道路の建設は、從來は主法第一編及び第二編にのみ限られて居たのであるが本法に依て第三編の場合にも之を行ふことを許されたのである。而して他方には、地方廳は主法第三編に依て建設する住家と共に（地方政務廳の同意を得て）店舖をも自ら建設し、又は他人と連合して之を建設することを得るから（一九〇三年條例第一一節）之に依て收入を得ることが出來るのであつて、隨て道路の建設も容易に行ひ得る場合少からぬのである。

（二）住居條例の施行强制に關する規定。

一、地方政務廳は、或地方區に家計を營める住民四名より、又は

（イ）田舍地方區の場合には、其の所在せる府縣會又は其地方區內の寺領區會より、又

（ロ）田舍地方區以外の地方區の場合には、其所在府縣の府縣會より其地方廳が必要あるに拘らず主法第二編（個々の家屋の取毀ち改築を目的とせる從前のトレーレンス諸條例を統一したる編。前記第六冊參照）又は主法第三編に依る權能の行使を怠りたることの抗議を受け審査の後之を是認したるときは、其懈怠を匡救する爲め、一定の工事及び其他の事項を指定し、一定の期間内に之を實行すべきことを命ずることを得。（第十節第一項）

政務廳は地方廳が主法第三編の權能の行使を怠りたる事を決定するに當りては、先づ其の地方區に於ける勞働者住居の設備を增加すべき必要の有無、必要なる住居設備が他の方法にて行はるべき見込の有無、其他の事情、及び地方稅の負擔をも考に入れ、地方廳自ら之が設備を企畫することは果して得策なりや否やを老慮したる後に於て之を決することを要する。（同第二項）

地方廳が右の命令を遵行せざるときは、地方政務廳は、適當と認むる場合には、其地方區會を强制する代りに、府縣會の同意を得て、府縣會に之が履行を命ずることを得。（同第三項）

此場合には府縣會の要する費用は其懈怠地方區の負擔にして府縣會に對する其の地方區の負債となし、地方區會は公共保健條例の施行に伴ふ費用の一部として之を支辨することを要す。又府縣會は地方區會が自ら資金を借入るゝ場合と同一の方法及び同一の條件に依て、地方區會に代りて借入金をなすことを得。隨て又府縣會は地方區會が自ら借入金を爲す場合と同じく、地方區の有する基金又は地方稅を擔保に供し、又其基金又は地方稅に對して其借入金の元利支拂の負擔を課することを得。（同第四項及び一八九四年地方政務條例第六三節）

右地方政務廳の諸命令は命令狀に依て之を强行することを得。（第十節第六項）

一、地方政務廳は、地方廳が主法第一編（比較的廣大なる或地域全体に亘れる家屋の取毀ち改築を目的とする從前のクロス諸條例を統一したる編。前記第六冊參照）に依る改修設計の遂行に關する義務を怠り、又は主法第二編に依る妨碍家屋に關する命令又は改築設計の遂行に關する義務を怠り、又は本法に依り必要なる視察を行ふことを怠れりと認むるときは、一定の期間内に於て、其懈怠を匡救する爲め、住居條例の目的上必要なる工事又は其他の事項を實行すべきことを命ずることを得此命令は命令狀に依て强行することを得。（第一一節）

本節に依る政務廳の行動は、前說の規定に依るものと異り、政務廳は他の者の抗議を待たずして自發的に爲し得るのである。主法第一編の改修設計に關しては、主法の規定には、政務廳に對して特に强壓的權能を與へず、單に地方審査會を開き、若し審査會が地方廳を怠慢と認めたるに拘らず尙地方廳が其義務を行はぬ場合には唯だ輿論の壓迫に一任しありたるに過ぎなんだのであるが（主法第一〇節）一九〇三年の住居條例當四節に依て其缺點を補ひ、政務廳は、地方審査の結果、改修の設計を行ふ事必要なりとの報告を受け之を是認したるときは地方廳に對して、主法第一編又は同第二編に依て設計を作り且つ之が施行に必要なる總ての事項を實行すべきことの命令を發布する事が出來、又此命令は必要なる場合には命令狀に依て强行し得ることゝなつたのである。然るに本法に於ては更に其權能を强め、政務廳は何等の報告をも待たずして自ら命令を發し、且つ地方廳の義務履行に期限を付することを得るに至つたのである

一、府縣會は、其管内の田舍地方區内の寺領區會、又は其の地方區内に家計を營める者四人以上より田舍地方區會が主法第三編の施行を怠れりとの抗議を受け、審査の後之を是認したるときは、地方區會の之に關する權能は、

（其地方全部又は其内の或特領區に關して）府縣會に移轉すべきことを決議することを得、此決議に依りて其權能は府縣會に移轉す。（第十二節）

一、府縣會は、理由の如何を問はず、田舍地方區が有する主法第三編の或權能をば自ら行ふを以て便宜と認めたる場合には、其地方區會に之を通告したる後、地方政務廳に其權能を府縣會に附與すべき命令を請求することを得。（第十三節第一項）

政務廳は之に對して該權能の全部又は一部を附與することを得。此場合には此等の權能に關する住居案例の規定は總て（公共事業債委員より借入金をなし、又其貸借條件を定むることをも含む）府縣會に適用せらる。但し、之が爲めに要する府縣會の費用は、府縣全般に關する費用として之を支辨すべし。（同上第二項）

即府縣會は田舍地方區が有する主法第三編の權能を全部若くは其何れの一部にても自ら之を行ふことを得るのであつて、之に依て殊に貧弱なる田舍地方區に於ても能く住居改良が行はれ得ることゝなつたのである而して府縣會が行ふ事を得べき地方廳の有する主法第三編の權能は、土地を收用する事、既設又は未設の寄宿所を買收又は賃借する事、所屬土地を主法第三編の目的に充用する事（主法第五七節）私人の醵金等に依て成れる既存寄宿所の保管委員の過半數の同意ある場合に其保管者より之を買收すること（主法第五八節）其取得したる土地をば住居條例に依て寄宿所を建設維持すべき條件を以て此を他人に賃貸する事（一九〇〇年住居條例第五節）遊園地及店補用建物を建設維持する事（一九〇三年住居條例第一一節）第三編の目的上一層適良なる土地を得んが爲めに其所有地を賣却又は交換する事（主法第六〇節）寄宿所の取締規則を制定し其他寄宿所を管理する事（主法六一―二節）寄宿所を七年以上經營したる後

之が維持を不必要となし又は其經營に費用を要する事過大と認むるときは（田舍地方區は府縣の同意を、其他の地方區は政務廳の同意を得て）正當なる最高價格にて之を賣却する事を得（主法六四節）ること等の諸權能も皆之に包括せらるゝのである。

府縣會が右の規定に依て田舍地方區に於て施行したる工事は、相互の協議に依て定めたる條件に依りて、之を該地方區會に移轉する事を得るのであつて（第一三節第三項）例へば、府縣會が貧しき田舍地方區の爲めに全府縣の費用を以て數軒の勞働者住家を建てたる場合に、其費用の一部分のみを取りて之を其地方區に讓渡し、費用の殘部は之を府縣稅の負擔たらしむる事も出來得るのである。

（三）家主の契約に關する規定。

一、本法通過の日（一九〇九年十二月三日）以後の契約に依りて、ロンドン府下にありては年四十磅以下、人口五萬以上の都會にありては年二十六磅以下、其他の地方にありては年十六磅以下の家賃にて、住家として貸さるゝ家屋若くは其部分は、其契約の當初に於て總ての點に於て人類の棲息に適せるものなりとの條件を含むものとす。（第一四節）

然れども、賃借人に於て住居に適當なる狀態を維持するの約束にて、三年以上の期限にて貸され且つ其賃貸契約は期間滿了前は當事者の一方が隨意に之を終了し得ざるものなる場合には、右の條件を含まざるものとす。（同）

一、右の條件中には、家主は契約期間中之を總ての點に於て人類の棲息に適せる狀態に維持すべき約束をも含むものとす。（第一五節第一項）

家主又は地方廳、又は其委任狀を有する者は、借家人又は住居者に二十四時間前に書面を以て通知をなしたる後、適當なる時刻に於て其家屋又は屋敷に立入りて其狀態を視察する事を得。（同第二項）

一、地方廳は、上述せる家主の約束が履行せられずと認むる場合には、家主に對し適當なる期間（二十一日より少からざる）を指定して其間に總ての點に於て人類の棲息に適せしむるに必要なる指定工事を行ふべきことを書面を以て通告すべし。（同第三項）

家主は之に從ふを欲せざるときは、其通告受領後二十一日以內に、地方廳に對し書面を以て、人類の住家として之を閉鎖すべき意圖を申立つることを得。（同第四項）

一、家主が地方廳の通告に從はず又之を閉鎖すべき旨の通知をもなさゝる場合には、地方廳は指定期間の滿了後自ら其工事を行ひ、其費用を私法上の負債として家主より之を回收し又は年五步以上の利子を附して五年以內の年賦にて支拂はしむることを得。此場合には年賦金又は其利息は私法上の負債として畧式裁判法に依て之を回收することを得（同第五項）

家主は、工事の執行を命じ又は費用の辨償を命ずる地方廳の命令に對しては、地方政務廳に抗訴することを得（同上第六項）家主とは、契約に依り家屋を住居として賃借人に貸す者及び其權利繼承者を言ひ、家屋と家屋の一部分をも含む。（同上第七項）

一、地方廳は一八七五年公共保健條例第九十節に依る地方規則制定權に依て、家主に工事執行の義務を負はしむべき地方規則を制定することを得。（第一六節第一項）

右の一八七五年公共保健條例第九〇節に依れば地方廳は左の事項に關して地方規則を制定する權を有するのである。

（一）二家族以上が住居し、又は下宿として借さるゝ、一家屋又は其一部分に住居を許すべき人數の決定又び其變更に關すること（二）、斯る家屋の登錄に關すること（三）、斯る家屋の臨檢に關すること（四）、斯る家屋の下水並に便所の設備を强制し、及び其空氣の流通並に淸潔の增進に關する事項、（五）、斯る家屋の定期掃淨及び消毒に關し又其路地中庭等の舖床に關すること（六）、

傳染病の豫防及び通知に關すること。

地方廳は此等に關する地方規則制定權を有するのであるが、本法は更に其規則の中に家主に對して此等の事項を關する必要なる工事を行ふべき義務を課するの規定を設くることを得せしめたのである。而して家主及び其他の者は其義務履行の爲め其家屋に立入ることを得（同上第二節）若し家主が其義務を履行せざるときは、前述と同樣の手續に依り、地方廳は二十一日以前に通知書を發して自ら其工事を執行し其費用を回收することを得。（同第三項）

（四）閉鎖命令及び取毀命令の手續修正規定

一、地方廳は、其管內の住家中健康に危險又は有害にして人類の棲息に適せざる狀態にあるものなきかを確むる爲め、時々檢閱を行ふの義務あり。且つ之を行ふには、地方政務廳が之に關して定めたる規則に從ひ、又其記錄を保存することを要す。（第一七節第一項）

地方廳は、保健醫員若くは其他の吏員の申告に依り又は其他の者の通知に依りて、或る住家が斯る狀態にあることを認めたるときは、人類の棲息に適すと認むるに至るまで之を住居用を供することを禁止する命令（之を閉鎖命令 Closing order と謂ふ）を發することを要す。（同上第二項）

試みに閉鎖命令の形式を觀るに、一九一〇年一月の地方政務廳令に依て左の如く定めてある（同令第五號樣式）

何町何番地に在る住家の所有者

何町何番地何某へ

一九〇九年住居及都市計畫條例第十七節第二項に依り、地方廳は、保健醫員若くは其他の地方廳吏員の申告に由り又は其他の者の通報に由り、或住家が健康上危險有害にして人類の棲息に適せざる狀態に在りと認むるときは、閉鎖命令、即ち地方廳に於て其住家が人類の棲息に適するものと爲されたりと認むるに至る迄之を住家として使用することを禁止する命

令を發するの義務を負へり。

而して當廳は前記の住家を以て、健康上危險有害にして人類の棲息に適せざる狀態に在るものと認む。

仍て當廳は一九〇九年住家及都市計畫條例第十七節第二項に從ひ、此命令を以て當廳が右住家が人類の棲息に適するものと爲されたりと認むるに至る迄、之れを住家として使用することを禁止す。

年　月、日

地方廳書記署名

閉鎖命令は直ちに總ての所有者（所有者とは二十一年以上の期限ある總ての賃借人をも含む）に通知することを要し、不服なる所有者は十四日以內に地方政務廳に抗訴することを得。（同上第三項）

閉鎖命令が効力を生ずるときは、地方廳は之れを總ての借住者に通知するを要し、借住者は十四日より少からざる一定の期間內に住居を已むることを要す。之れを怠るときは一定期間內に立退きを命ぜらる。（同上第四節）

其住家が人類棲息に不適となりたるは借住者又は借住者の責任に屬する者の故意又は懈怠に因る場合の外は、地方廳は所有者の同意を經て、借住者に對し移轉の費用として相當の給與をなすことを得、若し所有者が地方廳の決定したる其額に同意せざるときは、略式裁判に依て決することを得。地方廳は此給與額を所有者の私法上の負債として略式裁判法に依て之を回收する事を得。（同第五項）

其住家が人類棲息に適するに至らしめられたるときは、地方廳は其閉鎖命令を終了せしめることを要す。所有者が命令の終了を請求したるに當り地方廳が之れを拒みたるときは、所有者は十四日以內に地方政務廳に控訴することを得。（同上第六項）

一九一〇年七月一日以後にありては、床面が街路面よりも三呎以上低き室が平素寢室

として使用せらるゝ場合には、若し其高さが平均七呎に達せざるか、又は地方廳が政務廳の同意を經て定めたる空氣の流通光線の射入及び濕氣臭氣の防除に關する規則に違反するときは、之れを人類の棲息に不適當なる住家と見做す。但し之れに對して閉鎖命令發せらるゝも之れを寢室以外の目的に使用することを妨げず。(同上第七項)

一、閉鎖命令が三ケ月間行はれたる後は、地方廳は其住家を取毀つべきや否やの考量を行ふことを要す。而して地方廳は其考量を行ふべき期日(一ケ月よりも少からざる期限の後なるを要す)と場所とを定めて之を住家の總ての所有者に通知するを要し、所有者は考量に際して意見を述ぶることを得。(第一八節第一項)

地方廳は考量の結果、其住家が人類の棲息に適する如くに爲されざりしこと、斯く爲すに必要なる手段が適當の勤勉を行て行はれざること、及び其住家の存續が公衆又は其近隣住民の健康に危險又は有害なることを認むるときは、其建物の取毀を命ずることを要す。(同上第二項)

取毀命令は直ちに之を其建物の總ての所有者に通知することを要す。若し所有者が人類棲息に適せしむるに必要なる工事を直ちに執行すべきことを約し、地方廳が之を可能且つ適當と認むるときは其工事の施行に適當と認むる六ヶ月以內の期間、其取毀命令の執行を延期することを得(同上第三項)

取毀命令に不服なる所有者は、二十一日以內に地方政務廳に抗訴することを得。(同第四項)

取毀命令の形式は左の如きものである(一九一〇年一月地方政務廳令第十號樣式)

何町何番地に在る住家の所有者
何町何番地何某へ

當廳は一九〇九年の住居及都市計畫條例に從ひ、何年何月何日に前記住家に關して閉鎖命令を發し、而して該命令は三ケ

月間施行せられたり。

然るに當廳は一九〇九年住居及都市計畫條例第十八節第一項の要件を遵行し、且つ取毀に關する問題を考慮を行ひたる結果、右の住家は人類の棲息に適するものと爲されざりしこと及び之に適するものと必要なる手段が相當の勤勉を以て行はれ居らざることを認む。

仍て當廳は一九〇九年住居及都市計畫條例第十八節第二項に依り前記住家の取毀を命ず。

年　月　日

地方廳書記署名

（未完）

附記　本稿は特に伊藤氏の許容を得て掲載するものにして、都市計畫並びに都市改良問題の急要を認めたる世論の勃興しつゝある際に於て、建築家にとりては有用なる參考資料たる多大はざる也。尚同氏は大阪高等商業學校の發刊に係る「商業及經濟研究誌」第四冊及第六冊に於て夫々有益なる論説を發表せられたり。今や住宅改良の問題や、細民住宅の改善問題漸を追ふて眞摯なる調査研究の歩を進め、着實なる成果を擧ぐるに努力しつゝあるの際、英國に於ける住宅問題の由來や、之に關する諸法制の沿革は、其發達の道程に於て吾國現時の事務に最も適切なる參考資料といふべし。他日機を見て同氏の許可を乞ひ本誌に轉載する事あるべし。



國民保健に關する輿論

——都市衛生設備の欠陷——

國民保健の重大なるは今更詳述するの要はないことであるけれども、我國民一般の輿論として未だ一も之を聞かざるは寔に嘆はしい次第である。昨年內務大臣の諮問機關として保健衛生調査會の設置されて、政府に於ける施設準備の一端を示してより稍此問題は活氣を呈したようであるが、其の調査會も相變らず官僚一流の愼重主義に流れ、未だ一も其調査の結果を發表せざるが如き手緩き遣り方である。一体國民保健の如き國家の大問題を僅少の屬僚に下命して其報告の至るを待つと言ふ應揚な殿樣流の政治は不幸にして現代の國民を救ふの途ではない、國民保健の向上は什うしても大局より之を觀察して現代の衛生設備の遂行に努方するを第一策とするのであつて、唯部分的に結核菌の死滅を研究するとか、六百六號の改良を企つると言ふような病理衛生の問題にのみ馳せては、何時まで經つても其施設の着手を見るには至らぬではないかと思はれる。而して我國民の衛生狀態が現時已に憂ふべき傾向にあること、歐米各國のそれが近年著しく向上しつゝあるとに思ひ迫ぶ時には、吾人は今頃悠々と其部分的原因の調査に耽るべきではないのである。

農業國が漸次商工業の殷盛を來す時に著しく其國民の健康狀態を低下するは、已往の歐米各國の事例に徵するも、亦之を現時の衛生學より觀るも明かな事柄に屬じ、最早其の傾向を疑ふを要せぬのである、之を返言すれば、都市の

衛生狀態は其人口增加と共に低下するを一般の通則とするのである、故に歐米の都市に於ては其傾向を回復せんが爲めに、甚大なる犧牲を拂ひて鋭意其施設を畫策し、今や其大勢を換回し進んで都市住民の健康を增進しつゝあるの狀態にまで漕ぎ付けたのは、近代文明の誇とせられて居るところである。之を統計に見るに、衛生施設の不完全なりし時代は其死亡率甚だ大にして、其設備の進歩と共に漸次其狀態が改善向上さるゝのは寔に明白な事實である。

一八八〇年代にては、歐米の大都市なるものは、何れも高度の死亡率を示したのである。倫敦の千人に付き二十人九分、市俄古の二十一人五分を小なるものとし、巴里の二十四人四分、伯林の二十六人五分、紐育の二十七人五分、甚だしきはミユンヘン市の三十人四分の如きさへあつた、然るに三十年を絕ゆる今日に至つて都市集中の劇甚なる趨勢より考ふれば、其死亡率は更に增加すへき筈であるのに、實際は其後の覺醒せる衛生施設の斷行によりて、彼等の健康狀態に著しく良好の成績を示し、倫敦の死亡率は已に十四人以下に降り、市俄古は十四人、伯林は十五人と言ふ數字を發表するに至つたのである。

我國の都市衛生の狀態を見るに、明治四十年頃より漸次改善されたのであるが、まだ歐米の都市のそれと比肩するまでには至らない、固より歐洲の中にても、露西亞、匈牙利、等の都市は尚千人中十八人以上の死亡率を示し我國の都市よりも更に劣惡なる報告を見るのであるから敢て我國都市の健康狀態を甚だ低きものと言ふのではない、乍併近時我國の一般健康狀態は向上することの代りに、却て低下するにあらずやと思はるゝ節の彼處此處に現はるゝを遺憾とする。左に示す統計は必すしも正確なるセンサスと見る譯に行かないけれども、現時我國の市行政の力にては誤りなき確實のものを得ることは困難なれば大体に於て之に準據するより外に途はないのである。(內閣統計局の編纂書類より拔萃)

	東京	大阪	名古屋	横濱
明治四十一年	一七、六	二〇、三	一八、一	一七、九
同 四十二年	二三、四	二〇、七	一七、六	一七、九
同 四十三年	二一、三	一八、二	一六、九	一八、三
同 四十四年	二〇、六	一八、二	一六、四	一五、二
同 四十五年	一八、七	一五、八	一六、三	一三、五

之を實際に見るに、東京、大阪等の大都市は其接續町村の人口激增著しきものありて、其地區に於ける衞生狀態は特に低劣を極め、急性傳染病の蔓延等の場合には恐るべき危險地帶として都市を脅かすことを知らねばならぬ、而して我國の大都市の人口密集度合は漸次必迫し、現時に於てさへ世界各國の都市中稀に見る程の密度を有するのであるから、此の上に接續町村の不規律なる貧民部落が添加すること甚だしきに於ては、其密度の濃厚なる點から見ても、都市の健康狀態を向上せしめることは出來ぬのである。

都會名	一エーカーに於ける人口	都會名	一エーカーに於ける人口
大倫敦	一六	ミユーニツヒ	二七
倫敦市	六〇	ライプチツヒ	三二
紐育	二八	バルチモア	三〇
巴里	一四八	ケルン	一九
市俄古	一九	マルセーユ	八七
伯林	一三三	リオン	五二
東京	一一〇	京都	五九
費府	二〇〇	セツフキールド	二〇
大阪	九八	チユツセルドルフ	一五
漢堡	三三	華盛頓	九
バーミンガム	一九	カンサス	八
リバプール	三六	名古屋	四六
セントルイ	一九	神戸	五〇
ボストン	二七	横濱	四五

世界の模範都市と稱せらるゝ華盛頓は一エーカーの人口僅かに九人にして、其密度は東京や大阪の十分の一にも充たぬのである、又世界最大の都市たる倫敦は其倫敦市と稱せらるゝ部分に於て六十人を超へば、正さに東京の二分の一強の密度を有するに止まる、其他新進の大都市

なるものは何れも其人口密度一エーカー三十人内外を算し、唯巴里と伯林が百人以上を示すに過ぎない、而して現時の社會衛生觀は都市の群集狀態を輕減するを以て凡ての衛生施設の根本と見做して居ることは十分留意せねばならぬのであるから、我國の都市に於ても此點は最も切迫した問題であると言ふべき時期に達したのである。伯林や巴里は其郊外に於て廣大なる遊園地を計畫して其人口密度の調和を考慮しつゝあるのみならず、接續町村の如き不秩序の都市膨脹には十分の制裁を加へて居る、然るに我國の大都市は現在已に不整頓不健康の部落を以て四方を包圍されて、衛生上日々惡化さるゝ立場にあることを考ふると、接續町村の自然群集の狀態を其儘になし置くべきものではないのである昨年京都市は接續町村を市に併合して其部分の衛生施設に干與する準備となしたのであるが、京都市自身未だ組織的衛生設備を計畫して居ないような狀態である、大阪市は今日まで數度の町村包含を實施して現在の大都市を形造つたのであるが、現時已に十數萬の人口の部落は又々四圍を包繞してしまつた、東京の接續町村に至つては大阪市よりも更に一層群集の甚しきを見るのである。

都市の衛生設備とは何であるかと之れ實に廣汎なる事項にして單一の論述にて之を言ひ盡し得ざるのであるが、其根本に觸れたるもののみを列記すれば。

一、給水の完備
二、下水設備
三、住居改良
四、街路及公園の擴築改善
五、食料品市場の公營
六、衛生試驗所と結核療院の公營

等にして、世界各國の都市は凡て其實施の完備を期し、現實に保健上の好成績を擧げつゝあるは、敢て吾人の喋々を待たぬのである、然るに我國の都市は給水工事だけは稍行渡りたるも下水道の設備の如き殆んど措て省られざるの狀態にあり、家屋改良（衛生上より見たる）を初

め、街路の整理や公園の擴築、食料品市場の統一等殆んど其緒に就きたるものなきの有様である、近年大都市のみに結核療院の經營を強制せられしも、甚だ微弱にして到底都市住民を日々脅迫しつゝある結核病の殲滅に資する程のものではない、其他我國都市の保健衛生上の設備を考ふるに一も文明國として見るべきものないのである、一昨年我大阪に虎疫の流行あり、官民一致大に其撲滅に努めたけれども、容易に之を防止し得なかつた時に、始めて給水設備の不徹底なるを悟り、場末部落の貧民に無料給水をなし、一時の急場を凌いだことがあつた、僅かに給水設備に於てさへも、都市の保健上の立場を考へざる現時の施設は、寔に寒心すべき狀態であつて、官民叅私共に保健衛生の重大なる關却しつゝある現時の風潮は、一刻も早く之を打破して、吾人の生活を科學的組織の下に導くの方針を採らねばならぬ。

我國の都市は一般に給水を市營として之を經營しつゝあれども、市民の全部は必ずしも之に信頼せず、殊に京都市の如きは僅かに其半ばの人口が其供給を受くるに止まり、毎年赤痢、パラチフユスに惱まされながら、堀井戸の給水にて用を便するのである、下水に至つては我帝都を始め各大都市は殆んど全部系統組織ある疎水道を有せぬと言つても差支がない程に遲れて居るのである、東京市は約四千萬圓の豫算を以て大正十六年度に完成する下水計畫を樹てゝ、市民が之を承認したのは、已に六七年以前に屬する、然るに如何なる理由なるか、今日も其實施は行惱みつゝあつて、僅かに局部的姑息なる改修が施工されて居るのみである、大阪市は比較的早く其商業中樞區なる船場に下水道を完成したけれども都市全体より見れば僅かに其五分の一の地域に過ぎない、京都市は舊來の雨水溝以外には何等下水道を有せぬのであつて、其大計畫は數次唱へられた儘未だ設計にも着手せぬのである、名古屋市は最近に大下水道の一部を完成したと言ふことであるから、之も引續き市全部に亘り其實行を期したいものである、横濱、

神戸其他の都市に至りては何等組織ある下水道を有せぬのも無理はない、輿論が其必要を認めさるに先ち其實行を企つることは、實際不可能であるものとすれば、我國の各都市が下水を完備せざるのは之れ當然の結果であつて、敢て怪むの要はないのである、吾人は一刻も早く覺醒せる輿論の憤起を望むと同時に、局に當る先覺の士の努力を待ち少くとも大都市の下水系統を完成したいものである。

住居改良が保健上の見地から如何に急要なことであるかは、本誌に於て數次論せらるゝところであつて、今玆に贅言を費すの要はないのである、我國の大都市に於ける細民の住居が悲慘なる非衛生的狀態にあることは三十年前の歐洲大都市のそれにも優つて居るかも知れない、而して彼等細民の健康狀態の危殆に瀕することも歐洲都市の其當時のそれにもまして甚しいかも知れない、然るに歐洲の都市に於ては細民住宅の改善は計畫されて、國法により又自治体の經營により、今や其實績は著しく擧つて居るのである、我大都市も最早此問題に手を著けざれば折角少しく向上した我國民の衛生狀態も、更に逆轉して低下の方向を取るの患が生ずるであろふ、其他食料品の公設販賣と其試驗の如き、公園擴築、大街路新設の如き、更に進んで大規模の結核療院を經營して都市住民の結核を驅逐するが如き、何れも文明國の當然の施設にして然かも我國に於て閑却されて居る事業なのである此等の事業は個人衛生や病理衛生と相待つて、國民の健康を向上するのであるから、吾人は萬難を排して、其經營を急がねばならぬのである。（終）

三都の誇

倫敦は世界最大の都市であり、其繁榮殷賑は英人の誇とする處である。巴里は世界第一の美都であり、其壯麗藝術は佛人の誇とする所である。伯林は世界最良の衛生都市であり、其科學的萬般の設備は獨人の誇とする處である。倫敦の亂雜な市街から、巴里の統一ある街衢を觀て、更らに伯林の清潔な市區に入るものは、都市經營の眞味を理解する事が出來るさうである。



座習の利害

會員　葛野壯一郎　演

（於二月例會）

□　座習の利害と申しますれば、吾國今日の住宅改良問題には大切な關係があるのみで無く、國風改良の意義に於て延いては國家的大問題の一つであります、從つて吾々建築家にとりましては、最も適切な研究事項の一つであるのでありまして、何時までも是を不問に附する事は出來ない事柄であります。

□　畢竟、座習といふことは、御互に古來居住の慣習として、日本住宅には密接の關係を保つて居りまする、主要なエレメントの一つであります。今日吾々の居住は、全く疊の上に限られて居ります。古來武士道の上から見ますと、疊の上にて死ぬ事を恥辱の一つとして、武士の爲すへき道でないとされて居りました、それ丈如何に國民が疊と深い關係があつたかを、反証するものでありますが、此關係は今後も永久持續されるもので有りませうか、決して左樣は信ぜられないので、その利害については、今日の時勢に照し隨分議論が在る事であります。

□　之れを住宅改良問題に觸れて考へて見ますると、將來吾々は座るべきか、立つべきかといふ先決問題に逢着致します。何處迄も座ることを止めないか、又は腰を掛けて暮すべきが至當であるかといふ二つに一つの問題を解決しなければなりません。言葉を換へていへば、疊か、椅子か、何れを選ぶかといふ事になります。決局座習を如何にすべきやといふ大問題となります。

□　處で世間での議論なり、名士の住宅觀を見ましても、座習は什うも感心せん、椅子がよいといふ意見は可なり多くの人の一致する處でありますが、今日尙ほ、改められずに居るのは什ういふものでありませうか、實際この問題は研究を要するのでありまして、眞面目に取扱はねばならぬ問題の一つであります。

□　然るに本當に、眞劍に、本問題を研究し、其結果如何を發表して社會改良の實を擧げんと努力して居る人々がありませうか。寡聞の私は不幸にして眞面目な研究家を知らないのみでならず、吾々建築家の側に在つても、大に考究すべき必要を感じながら、まるで放擲して居る傾のあるのは遺憾に堪へないのであります。

□　私は平常此の問題に就いて、聊か頭を惱まして居るのでありまして、元より充分な研究を積んだ譯ではありませんが、茲に生理上、經濟上、並びに心理上の三方面から觀ました、種々の意見を綜合いたしまして、諸君の御參考に提供いたしたいと、思ふのであります。

□　第一に生理上より觀たる座習の利害を考へて見ますると、日本人の座習は、不自然に足を折つて座る習慣でありますが、日本人は此の習慣から特種な生理上の發達を遂げて居るのであります。醫學上の見地によりましても、日本人は座る爲めに、丈が短いといふ事は認定されて居るのでありまして、專門家の纏まつた意見はありませんが、國家的に觀て大問題であると思ひます。

□　すつと古い時代には　日本人も可なり丈の高い人間であつたそうでありますが、慣習の久しき、今日の吾々は、遺憾ながら此の習慣の影響を受けて、一体に丈けの短いといふ事實は否定すべくもないのでありまして、今日の學者、或は世間の識者は、新しい時代に應ずるために眞面目な研究を遂げ、新しい意見を立て、注意指導を怠らぬ必要があります。

□　生理上から觀まして、西洋人に比較いたしますると、我々日本人は、一般に、大腿部が短かいのであります。これは子供の時分から、座

らされる習慣のために、身体の全部に亘つて圓滿な發達が遂げられないで、脚部に變調な發育を成して居るのでありまして、いはゆる日本人の特長となつて居ります。

□　故に吾々日本人が立派な体格に進歩發達する爲めには、大に改良を要求するのでありますが、今日眞面目な研究の結果から、是が進歩改良に關する指導說を聞いたことがないのは、甚だ不可審議な事實の一つであります。

□　却つて茲に、座習のために吾々日本人は、脚部即ち腰から下に於て、特別な生理上の發達を遂げて居るといふ事實を發見するのであります。それは外でもありません、吾々は子供の時分から、脚部に不自然な運動を與へた爲めに、西洋人に觀られない特長を保つて居ります。自然的に腰部から下に巧みなる筋肉の運動を養成して居るのであります。

□　例へば吾々に最も深い關係のある下駄のために、吾々建築家は今日公衆建築の設計に當つて、殊に劇場だとか、公開堂だとか或は美術館の如き、夫々に此の下駄の所分に苦しめられて居りますが、吾々日本人は下駄を穿つがために足の指先に一種の力を養成して居るのでありまして、特別な性質を持つて居ります。

□　いはゆる一種奇形の發達を遂げて居るのでありますが、吾々の或者は足の指先で物を挾む妙技を自得して居ります。足藝の上手な藝人の多い事などは其著しい例である、或は腰から下に力を入れる訓錬からして、日本人は一体に相撲に強く、亦柔道の如き武術の發達を誇り得るといふ見方でありますが、この觀察は座習の結果から得られた、善い方面の發達であります。

□　現今の醫學上の統計から觀ますると、今日吾々日本人は全体として高くなりつゝあるといふ事であります。殊に都會に在る日本人は其發達が著しいさうであります。これは今日吾々が日中立つて仕事をしてゐる爲めであるさうです乍然丈が高くなりつゝある事實は果して善い現象でありませうか、什うか、これは問題といはねばなりません。

□　尤も日本では「大男總身に智慧が廻り兼ね」とか「棟木にならぬ獨活の大木」とか申しまして、兎角大男を輕んずる傾きがあります。又、「山椒は小粒でも、ヒリリと辛い」とか申しまして、小男を稱讃して居りますと同時に、實際丈の短い男で偉い人が澤山に出て居ります。從つて体格がよいからといふて、我國ではあまり尊重はされませんが、單に丈が高くなるのも考へものでありまして、目方も相應に增し、身体全部の發育が充分でなければ、何もなりません

□　殊に恐るべきは、肺結核患者の統計を檢へて見まするに、太くて短い人と、細くて長い人との比較では後者は其患者が多いのであります畢竟、今日の日本人の体格の進み方は、危險の多い方に近よりつゝある事實が認められるのでありまして、此等の點から觀て亂暴な結論かは知りませんが、寧ろ座習の長所を捨てるのを惜しむ論者もある樣で有ります。

□　のみならず、近頃流行して居ります、靜座法や複式呼吸法の如きも、座習を利用して工夫されたのでありまして、禪家の坐禪の如きも、身体の發育に對して相當の研究の結果から割り出された方法である樣であります。實際に靜座や座禪の形は、幾何學的に見ても、安定な保身法である樣で、あの姿整で立派に眠る事も出來るといふのは大に工夫された方法の一である樣です。決局生理上から見まするに、座習は必ずしも棄てべきでない、座習は害なきのみならず却つて利益が多いと觀察することが出來る樣であります。

□　第二に經濟上より見たる座習の利害に就いて、考を進めて見まするに、先づ座習は時間と勞力の不經濟を免れません、一々立つたり座つたりする時間や、之れに要する勞力は可なり大なるものがある樣です、從つて今日の銀行、會社、事務所或は各役所に於きましては、皆椅子を用ひて仕事の便を計つて居ります、此等は皆忙しい近代生活の必要から、從來の習慣を捨てゝ新しい時代に應じて居るのでありますけれども、此等の實務的方面と住宅に於ける場合とは

同一に考へる譯には行きません。

□ 住宅は個人生活の安易といふ事が主なる要件でありますから、必ずしも時間と勞力について、嚴密な計算を爲すことは出來ないかと思ひます。尤も住宅に在つても臺所等に於きましては、自然の必要から立つて働く風となつて居りまして、時間と勞力の節約を計つて居りますが大して問題とするには及ばないかと思ひます。

□ 次いでは場所の問題でありますが、座習に伴ふ場所（スペース）の經濟といふ點は大にあります。椅子や食卓を置けば置く丈、餘計の壞所を要するのでありまして、アコモデーションの相違は可なりの問題となります。

□ 今一つ吾々の習慣は、氣持に於て安易を得るに妙でありまして、茶室の如きは此目的のために、一帖代目迄も場所の節約を計つて喜んだ時代もあつたのでありまして、吾々は什うしても座る事を好むのであります、例へば親睦會の如きも其目的を達する爲めには、疊の上の方がよいといふ意見が勝つ樣でありまして、吾々日本人の九十パーセント迄は座習を喜ぶ樣であります。

□ 今一つは吾々の住宅が各室の共用主義を採用して居るのでありまして、客室も、書齋も、食堂も寢室も皆一つの室で兼用し得る至極便利な生活でありますが、これは主として場所（スペース）の經濟を產む第一の原因であります。若し吾々の住宅を洋風に變更いたしますると、假定しますれば此等の各室は或程度迄分離して行かねばならぬ爲めに、餘分の坪數を要する結果となります畢竟場所（スペース）の增大を來しまして不經濟の因となります。

□ 此度は衣服との關係について研究して見ますると、これは最も深い關係があるのでありまして、日本服の今日の形式は座習から發達して居ります。吾々が屋內で使用して居ります衣裝は袴がないのであります。上から下まで一枚の着物を着流し、必要に應じて幾枚も重ねる有樣で、上下に二分せしめない點は、住宅の性質に應じて自然的に發達したものでありまして、和

服は日本住宅にとつては理想的の衣服であります。

□　乍然今日は新時代の要求から、吾々は和服の外洋服の使用を初めまして、かれこれ五十年の歴史を送つて居りますが、今に和洋混用、二重生活の苦闘を續けて居ります。そしてこの二重生活の服制は誰しも不便を感じて居るのでありますが、是れが改良意見も一二耳にした事は有るに有つてもまだ〳〵解決の前途は遠い様で此の點に就きましては、特に適切なる改良を工夫しまして、什うにか解決を見る様にしたいものであります。

□　最後に器具調度等のフイテングに就いて考へて見まするとこれも吾々の祖先が住宅に相應して工夫作成いたしましたのであつて、餘程經濟的に出來て居ります、若し吾々が椅子や食卓（テーブル）を使用するといたしますと、場所（スペース）を要するのみならず、餘分の費用を拋つ事になりまして不經濟を免れぬのであります。

□　結局經濟上の立場から觀まするとと、利害相半ばするといふ結果になりますが、此等の點については、充分眞面目に比較研究をいたしまして最後の斷案を下さねばならぬ事かと思ひます單に好惡の問題ばかりでなく各方面より經濟打算の上から見て其是非を判斷するの必要があります。

□　第三に心理上の關係に就いて、利害の研究をいたしまするとと、先程も申しましたる通り、古來行はれ來りました坐禪や近時流行の複式呼吸法や、靜座法等が、座習の生活を利用しまして、心理上の工夫に特別の發達を遂げて居ります處から見ましても、吾々は座習によつて精神の安易、心靈の靜觀を得るは大なる便を得てゐる様であります。

□　又五六年前、社會政策學會で、或學者が「日本家屋の將來」といつた様な演題で、私共にも爲めになる演說のあつた事を私は記憶して居りますが、其學者の說によりますと、座習は椅子生活に比較して、其視線が低い爲めに、眼界の狹い嫌がある、眼界の廣狹といふ事は野外で

實見致しますると、よく解ることでありますが常に低い視線に慣れてゐる日本人は、兎角眼界が狹くて、眼先主義の惡習を持つて居る、畢竟座習は國民性に大なる影響を來して、日本人が大勢に暗い短所を持つて居る因をなして居るといふ結論であつたと思ひますが、この說は多少奇を弄し過ぎた嫌がありますけれども、亦一面含味すべき意見であると思ひます。

□　結局心理上から觀ますると、これ亦利害相伴ふとする樣でありまして、落ち付き過ぎる結果は、得て消極的となるものでありまして、安靜觀照の利は亦兎角因循姑息の弊を產む次第であつて大に研究を要するのであります、以上述べました事柄を綜合して考へて見ますると、座習の利害は相半ばする事になるのであつて、畢竟、今日の過渡時代に在つては結論がつかぬ事になります。

□　乍然今日の時代は、いつまでも昔の習慣に囚はれてゐる時ではなくて、進んで改良の實を擧げねばならぬ場合が迫つて來て居ります。日本人も、もう、曇に對する愛惜心より遠かる必要があると思ひます。住宅改良の根本義も茲に在るのでありまして、建築家としても、第一歩を座習の是非から出立しなければならぬ事と堅く信じて居ります。（終）

■四つの事■

無益の事をなして時をうつすを、愚なる人とも、僻事する人ともいふべし。國のため君のために、止むことを得ずして營む所、

第一に食物
第二に着物
第三に居所

なり。人間の大事この三つには過ぎず。飢ゑず、寒からず、風雨に冒されずして、しづかに過ぐるを樂とす。たゞ人みな病あり、病に冒されぬれば、その愁忍びがたし。醫療を忘るべからず。藥を加へて、四つの事もとめ得ざるを貧しとす。この四つ缺けざるを富めりとす。この四つの外を求め營むを驕りとす、四つの事儉約ならば、誰の人が足らずとせん。

（徒然草）



都市と建築

都市建築法令調査會設置に關する建議に就き當局の態度と吾人の希望

會員　都市研究生

二月六日我協會の代表者は建築學會、日本建築士會、都市協會の各代表者と全道して、内相を官邸に訪ひ建築法令調査會設置の急要なるを建議し、意見書を捧呈して其内容に就き交々趣意を敷衍したるは、先號に於て詳しく其事情を發表し置きたり、然るに二月二十三日内相より更に其事柄に付き意見を聞き度きゆへ、其當時の委員の來邸を求められたるを以て急遽之を各委員に傳へ、曾禰、塚本、長野の三博士だけ都合を繰合せ翌日内相に面會して當局の決意を聞き取り、大体に於て建議の趣意が直ちに採用されたるを知ることが出來た、當局に於ては、なるべく規模を大きくせず實績の擧らんことを旨とし、主として建築技術家の献身的努力に待つと言ふ意味にて、本議會に其組織を諮るか、或は議會後に勅令に依つて發布さるゝかと推測さ

るゝのである、吾人は其組織や豫算に付ては余りにコセコセしたことを當局に迫るの愚をなすものにあらずと雖も、吾人の最も希望する点は矢張り實績の擧がることであるから、其の爲めに規模即ち組織を大きくする方が良いか、狹小にする方が便利なるかは余程考究の余地ある問題であると思はれる、余り船人の多くして船山に登るてふ事例多きに懲りて、小規模のものゝ間に之を諮り、漸く脫稿するも、之を輿論に愁ふる時果して無事にそれが容れらるゝや否やは余程懸念に堪へない、吾人は調査會の内部に更に小委員會の設けらるゝは差支なしと考ふるものなれども、調査會其ものに國論を左右し得る程度のものにしたいのである、何となれば建築法令の如き都市住民の自由に甚大なる制限を加ふる法律案は唯建築專門家の意見を主として決定出來るものでもなく又政府當局の法律觀のみにても之を決定する譯にはゆかない、どうしても都市自治体の當局者、市民代表者、及貴衆両院の代表者を網羅せる大委員會を組織し、其中に特別委員を設けて實質的の案を作成せしめて之を原案とし各委員は自由に之を批判し、以て調査會案を作り上げねばならぬのである。特別委員は主として建築技術家なるを要すれども、衛生工學者、衛生當局者等も參加することは必要である。

我國の現時の狀態は、之を徐々に改善せしめるような歐米風の建築法規を以て取締ることは實際上不可能である、どうしても樞軸たるべき重要地區及幹線道路に面せる建物は一擧にして改善を企畫せしむるを原則として出發せねばならぬのである、其理由は、先般提出したる意見書に之を表明した通りであつて、中古式の木造都市を近代式の實質に改善するには、是より外に採るべき途はないのは、別に詳說するの要はないのである。

吾人の主張せんとする耐火、耐震及び耐爆彈の構造を以て、都市の中樞區域及幹線道路の建築を律せんとする方法は、常識論者の必ず一度は反對するところであるけれども、詳しく議論

の根底を知るに至らば飜然として贊意を表するは吾人の深く信ずるところである、一般論者は我國の富の程度なり、又余りに經濟上投資上大打撃を與ふるならんとの推定より之に反對するのであるが、そは唯一常識論に過ぎないのである、吾人はむしろ其意味の反對ならば其反對論者と全一歩調を取るに吝かなるものではない、何となれば、都市建築の經營は如何なる場合に於ても、經濟の大傘下を脱出するを容さぬのであつて、たとへ一二脱線したものを許すとするも、全般に亘りて經濟の原則を無視したる建築を都市住民に強ふることは絶對に不可能のことである。故に吾人の都市建築に制裁を加へて其統一改善を計らんとする方針は經濟上少しも不利益を來たさざるのみならず、むしろ有意義、有利なる經濟の原則に依ることを理想とするのである、一般論者は耐火、耐震の堅牢なる建築は經濟上贊澤至極のものにして、莫大の積立金を所有し其處置に窮せる大銀行、大會社等が、其見榮の良きを誇る爲めに、經營するものとしか考へて居ないようであるけれども、斯かる空漠たる常識觀は今日は全く顚倒して、少しも實際を吟味する價値なきものとなつて了つたのである。今此所に都市建築の經濟的經營には耐火耐震の構造物より外に其途なきことを詳論するの余白を有せざるも、事實上其可能なるを示しつゝある三菱地所部の家屋經營や、東京海上保險會社の建物の如きは、最も雄辯なる説明ではないかと思はれる。

而して都市建築の一大改革と同時に、最も愼重に又最も大膽に經營すべきものを都市計畫となすのである、東京に於ては已に市區改正條例ありて明治二十二年より着々其實施を斷行して來たことは、人の皆知るところであるが、吾人の此際特に當局者に望まざるを得ざるのは、市區改正委員會之組織の中に都市計畫の方法に相當理解ある建築技術家又は土木工學專門家を招聘して、我帝都の都市計畫を遺憾なからしめんことである、現在の我東京市區改正の計畫は不幸にして連絡統一を欠ぎ、今後來るべき交通激

南滿鐵道沿線の都市計畫

安東═奉天═大連═旅順

增の大勢を支ふることは出來ない、のみならず其系統を誤り、幅員の撰擇宜しきを得ず、且つ衛生上の設備との調節を顧みざるの嫌あり、什うしても此際更に一大計畫を樹てゝ將來の發展に備へねばならぬ時機に達したのである。

之を百二十年前北米華盛頓市が都市計畫案を樹てた事績や、五十年前巴里が市區大改正の立案を採用した賢明なる處置に見るも、吾帝都は遲れ馳せながら今日に於て將來の大計畫を立案せされば、到底文明的の都市となることは出來ないのである、論者或は之を空論又は理想に馳せた議論と言ふものあらん、然れども都市計畫は古來皆斯かる大理想又は大外科的手術を以てさせれば決して成効出來ない性質のものであつて、漸次に改善すると言ふが如き方法は局部改善より外に何等奏効するものではない。紐育市は百二十年前人口八萬の時に立案したる大計畫も、今や人口七百萬に上り、其市街系統は交通激增の大勢を支へ得ば、非常なる窮境に陷りつゝあれども、地下鐵道の增設を以て其處理を計りつゝあるは、必ずしも稱贊し得る手段ではない、之れ一は彼の地の都市建築は一箇にして數千萬圓を投したる如き高層の大建築を主体とするが故に、最早街路擴築は絕望の狀態に達した爲めである、我國の都市は其点に於ては今は尙安價建築のみを以て充たさるるが故に、紐育の如き高層の大建築が聳立する以前に早く市區改正の大計畫を樹立するの急務なるを感せさるを得ない、何れにしても我國の帝都や其他の重要都市は、建築統一の法規と共に市區計畫の大綱を定むへき時期に達して居るのである。

一、はしがき

余は昨年五月朝鮮を經て、滿洲に入り、南滿鐵道沿線の都市を少しく見聞したことに付き、詰らぬ意見やら見聞談を述べて見たい、固より之を學理的に經濟的に又將來大發展の積極的政策より緻密に批判するのではない、寧ろ岡目八目とでも言ふべき無責任なる表皮的見界に過ぎないかも知れぬ、其の点は讀者に御斷りを致して置かねばならぬ。又見聞の時日も短かく、都市交通の頻度や、天候の變化による各種の變態を觀察することは、全く出來なかつたから、到底完全な觀察ではない、況して衛生上の統計を得る能はざりし爲め、都市計畫の根底から研究さるゝ當局の人に對しては何等參考となるものでないことは深く謝罪して置く。

二、南滿洲の地勢と氣候

滿洲の地勢は廣漠無邊の大平原にして、安東縣より奉天の少しく手前に至るまでの山地を除けば、見渡す限り際限を見極むることは出來ない程の廣さであるから四時共に烈風吹き荒むのみならず、黃塵萬丈天を掩ひ、且つ冬季の寒威は溫帶圈内にては想像し得られざる程度である殊に北部地方にては冬季の氣溫氷点以下三十度以上にも及ぶこと珍しからず、地表六尺以下まで結氷し、數次構造物を破壞することさへある併るに四月頃より五月中旬に至る間は、輕暖最も肌に心地宜敷風穩に天氣晴朗の日を見ること少からず、八月に至りて最暑の時期に達し、海岸の地は華氏九十度前後にして内地と大差なきも、内陸にては九十五度以上に昇ること多く、日中は野天にては凌ぎ難きも、主として晝間のみに止まり朝夕は急劇に溫度の下降を見るのは大陸氣候の常として致方なき變化である。左に大正三年度に終る最近五ケ年間の平均最高最低氣溫表を示す。（（）内のものは氷点以下、度數は攝氏なり）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
旅順	最高 (〇・三)	(〇・八)	五・二	一三・四	一八・九	二三・五	二六・一	二七・四	二四・一	一八・三	九・五	二・八
	最底 (八・〇)	(七・一)	(二・二)	四・三	一〇・一	一五・八	一九・八	二一・〇	一六・二	九・八	一・一	(五・三)
大連	(〇・七)	〇・〇	五・五	一三・七	一九・七	二四・六	二六・五	二七・八	二四・一	一八・〇	八・八	二・三
	(八・四)	(七・六)	(二・〇)	五・〇	一〇・九	一六・五	二〇・四	二一・四	一六・二	九・五	〇・八	(五・九)
奉天	(六・五)	(三・六)	四・〇	一五・二	二一・五	二七・五	二九・六	二八・八	二三・七	一五・六	四・一	(三・七)
	(一九・一)	(一七・二)	(七・三)	一・七	八・三	一五・一	一九・二	一八・四	一〇・二	二・九	(七・三)	(一六・一)
長春	(一〇・六)	(六・〇)	〇・三	一二・五	二〇・五	二四・七	二七・七	二七・〇	二一・一	一二・九	一・六	(九・〇)
	(一三・九)	(一九・〇)	(一・二)	(〇・二)	六・七	一三・〇	一七・七	一六・七	七・九	(〇・二)	(九・六)	(一〇・三)

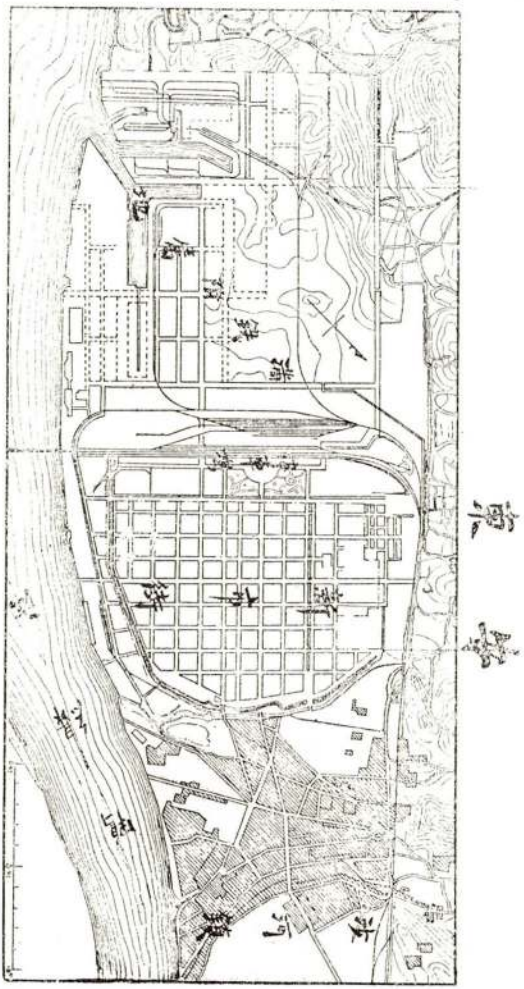
又雨量の少きこと及雨期の限られ居ることは滿洲の特徴にして、夏期の連日降雨の場合を除けば、普通は全く雨なく、遇々細雨を降らすことあるも決して大雨となることなきのみならず空氣の乾燥甚しく、內地の濕潤の氣候に慣れたるものには、非常に快感を覺へしめるのである。斯かる嚴寒と大陸風の關係は、住民の家屋に對する感念を非常に强からしめるのは自然の順序である、故に滿洲は到る處、麁末ながら家屋の設備に甚大の注意を拂ひ、對自然の問題の解決を試みるべく努方しつゝある跡を見ることが出來る。我國の建築が其表皮的部分には可なり發達を遂げながら、對自然てふ建築の根本問題がソッチのけにされて居るのは、全く温和なる氣候が累をなし、温室の花芽が植物の本來の發達をなし得ざると同じき徑路ではないかと思はれる。

三、安東と沙河鎭

安東は鴨綠江の對岸にある滿韓交通の第一驛にして、舊市街は之を沙河鎭と稱へ、古來漁夫農夫の一小村落たりしもの、清朝光緒二年安東縣衙門設定以來大に繁榮となり、人口今や三萬五千以上に及び、東邊一帶に產する大豆、高粱山蠶、玉蜀黍及鴨綠江材は此地を集散地として海路四方に輸出せられ、東邊百萬の住民が需要する綿布、麥粉、燐寸、茶、砂糖、石油其他の雜貨類は凡て此地を經て輸入さるゝの狀態である、最近の報告によれば一年間の海陸輸出入額

約三千五百萬圓に達すると言ふことであるから今後此地の發展は長足の進歩をなすは疑ふの余地がない。宜なるかな我新市街は古市街の西に連りて經營せられ、總面積百六十餘萬坪を一劃とし、基盤格子式街衢の計畫を斷行したのである、乍併今往いて之を見るに尙ほ寂寥として各處に空地を存し、建物も過渡時代の粗造、不体裁のもの多く、大体に於て見る影もなき貧弱さを感せざるを得なかつた戸數も二千八百に滿たず、人口は一萬一千を數ふるに過ぎざれば、今後の發展を待つて市街の殷盛を期すより外に方法はない唯此の依然たる市區の計畫が全く統一されて役立つのは果して幾十年の後であるかを思ふと、都市の建設程六ケ敷きものはないのを熟々と感ずるのである。

滿鐵附屬地は溝渠を隔てゝ面積百五十萬坪を算し停車場を中心として、大廣場、社宅市街、江岸荷揚場、貯木地及工場地區を計畫し、將來の發展に對して相當の準備をなしつゝあるを見



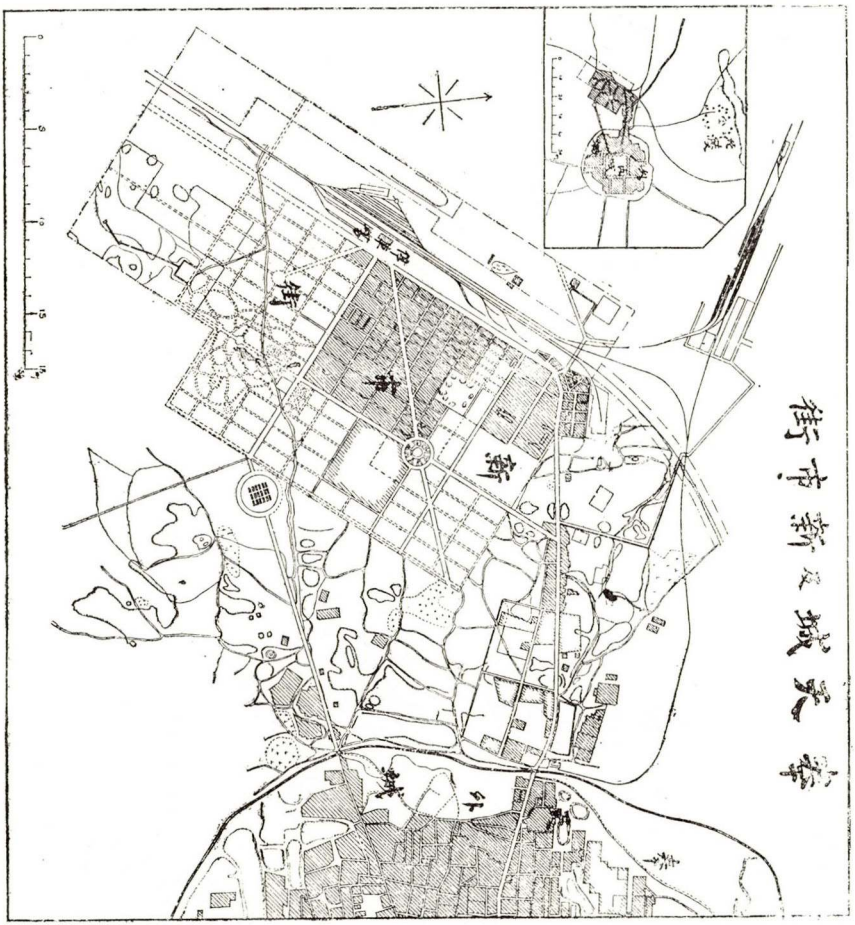
る。

安東驛より朝鮮に渡る鴨綠江鐵橋は、鐵道及一般交通用に供せられ、朝鮮總督府の經營に係る、工費數百萬圓を要したのである。全長三千九十八呎にして淀川の鐵橋のようなものであるが、其中央一桁は自由に開閉をなし得るように回轉式に出來て居る、一日四回一回一時間半離開して、橋下を往復する船舶の航行に便せしめると言ふことである、鴨綠江は上流は山地なるが故に遡江の航路はなきも、江口より大阪、大連、芝罘及天津の定期船あり、可なりの船舶の出入あれども、十一月下旬より三月下旬までは結氷期にて鴨綠江も何等役に立たぬのである。

四、奉　天

奉天は本名を瀋陽と稱す、此附近一帶は渤海時代の瀋州にして、城東の福稜は渤海大氏祚榮の居城を築きし東岸山の舊蹟であると傳へられて居る、瀋陽の名は元朝に始まり明は此地に瀋陽中衞を置きたるが、清の太祖帝業を創むるに及び、都を遼陽より此地に遷して盛京と稱し、四方に武威を揮ふたのである、其後順治初年都を北京に遷すに及び將軍を此地に置いて留守せしめることゝし、俗に留京と稱へられた、現在は奉天省の行政中心にして東三省軍政の樞軸となり督軍此處に駐在す、人口十七萬余を算し滿洲一帶の物資集散地として商業殷盛を極めて居るが、吾人は其商業的地位よりもむしろ我日露戰役の最大會戰の中心地として此奉天城を永へに紀念せざるを得ない。又更に一歩を進めて滿韓經營の積極政策を考ふると此奉天の位地は正さに將來大都計の中樞なるべき處ではないかと思はれると同時に、其都市計畫も唯一箇の殖民地の小都會の經營として看過する譯にはゆかない、奉天城は現在の新市街の東方約三十町にあり、內外二城より成り、內城は方形にして、周圍一里半高さ三丈余の堅固なる墻壁を廻らす、其壁上には各處に樓堞を設けて望樓となし、壁上一帶は野砲の放列を布くに足るの幅員を有す道路は八門により（東西南北の各方面に大小各二門あり）井桁形に貫通し、四大街を其商業區

とする、中央に宮殿、奉天督軍公署等ありて八旗の邸宅、宮吏の公館等と言ふ仕組にて寔に堂々たるものであるけれども若し之を親しく觀察するときは、門樓瓦落ちて、檀楹露出し、外濠半は淤塞して浚渫されたることなく、幾十年間風雨に曝されて營繕の工を加へさる其の慘狀は、如何にも亡國の兆を物語りつゝあるを氣の毒に感ずる、殊に外城は周圍四里に亘れる楕圓形の土城より成り、街衢不規則にして内城より更に一段劣等の矮屋を建並べ、支那一流の不潔惡臭坊間に滿ち、到底文



明的都市として見るべきものではない。

奉天新市街は滿鐵附屬地に屬し、滿鐵の經營に成る、其規模配置は之を地圖に見る如く、大体の計畫宜しきを得、街路整然たれども其範圍余りに狹く、到底將來の大都市たるの資格はないのである、今其面積を見るに

總面積　百八十二萬五千二百餘坪

內譯

鐵道用地	二十七萬二千三百三十六坪	
民政部用地	二萬三千三百六十八坪	
陸軍用地	八萬九千九百一坪	
耕地貸附豫定地	五十萬餘坪	
市街宅地道路其他	九十三萬四千餘坪	

即ち市街宅地は百萬坪に滿たぬのである、即ち九百エーカー未滿に過ぎぬから、之を世界各國の都市の比を以てすれば、一エーカー百人とし、僅かに九萬の人口を收容し得るに過ぎない然しながら現在僅かに六千未滿の人口を有するのであるから、當分は容易に其狹隘を感ずることはあるまい、むしろ到る處空地が雜草に掩はれて居るような始末で寂漠たること夥しいのである。

奉天新市街の經營は漸次其步を進め、今や上水は忠魂碑の南方丘上に吸水塔を設け深三十尺直徑三十尺の鹽井を爲り十萬瓦の水を貯へ、五萬の人口に給水し得るの設計を定め、目下其大通りなる瀋陽大街に口徑十二吋の鐵管を埋設し各要地の消火栓等も設備を終り大体の給水は成功したのである、下水も其幹線系統は完備し現時は其支線を着々進工せしめつゝあれば遠からず全体の下水は出來上る筈である。又停車場前廣場に沿ふて建てられた滿鐵經營の事務所建築は稍新市街の面目を施こし、東京丸の內の三菱地所部の經營の如きものあれども、未だ大規模の組織とはなり居らず。而して新市街と奉天城內との交通機關は東京に於て二十年前利用された馬車鐵道を以て之に便し、其不潔にして不愉快なること丁度其當時の東京を連想せしむるも可笑し。

奉天を記錄するに見拔かすことの出來ぬのは

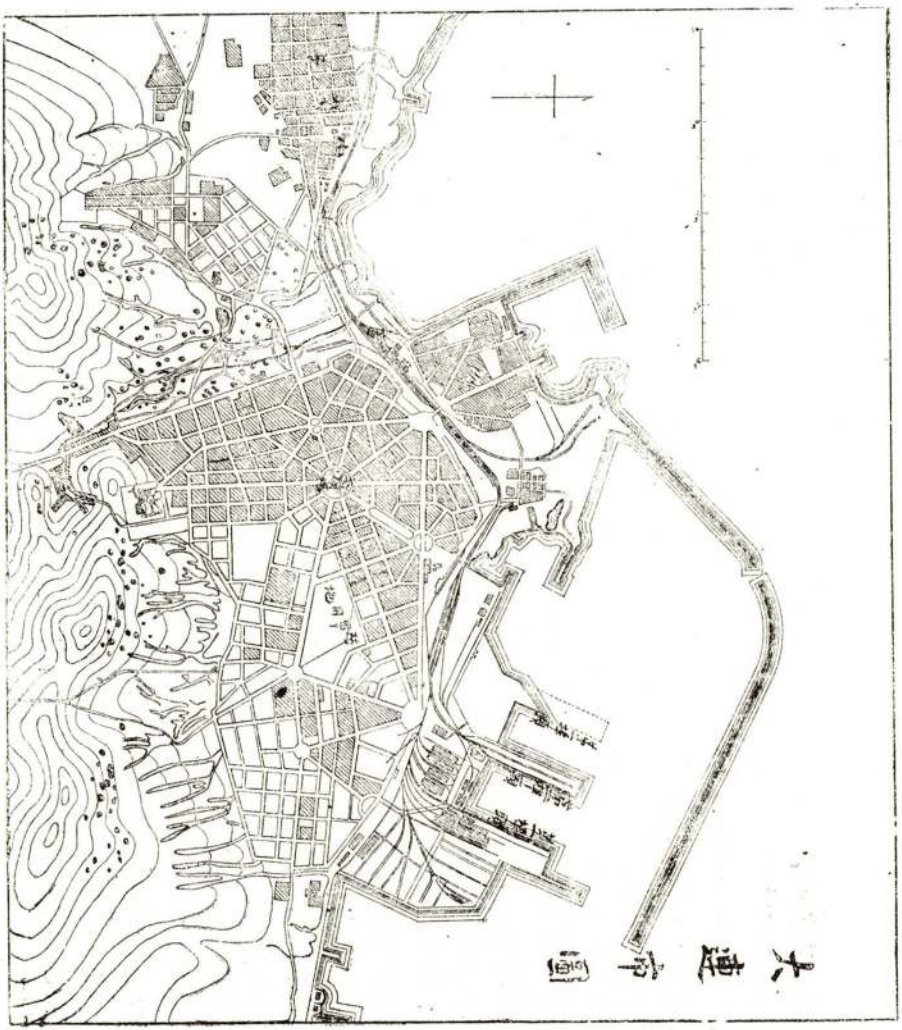
城内の宮殿と其西北十支那里の郊外にある北陵及東方二十支那里の外にある東陵である、其建築の手法に於て、材料の取捨に於て、又其規模の大膽なる點に於て、島國的小規模に慣れたる內地のものには、一種の印象を與ふるのは事實である、此處に其詳細を記述する餘白なきを以て之を他日に讓るけれども、奉天を過ぎるものは必ず之を見扱かしてはならぬ、建築技術家ならざるものも其受くる大陸的氣分は容易ならぬ高價のものであるべきを疑はぬ。

五、大　連

大連は遼東半島の南端に位地し、南は南山の丘陵を負ひて外海の波濤を避け、北は大連灣を隔てゝ大黑山に對する天然の良港にして、南滿鐵道の終點驛である。門司を距ること六百十四浬、上海を距ること五百三十浬、灣內水深く大艦巨船も直ちに岸壁に繫留し得るの便がある、往時は人煙稀なる小漁村に過ぎざりしも、李鴻章の直隸總督たりし時、軍事顧問獨逸人ハンヰツケンをして此地に棧橋要塞等を新設せしめしより、大連灣の價値は急に重きをなしたのである、一八九八年三月露國は清國と旅大租借條約を締結するや旅順を軍港となし、此地を一大商港と指定して着々其經營を進めた、先づ築港費一千萬留、市街經營費八百八十萬留、土地買收費三十八萬留其他百萬留合計二千十八萬留の豫算を以て、築港及都市計畫を創建した、然るに其後日露國交斷絶し明治三十七年五月二十八日に我軍之を占領し、露國極東の根據地たる此良港（ダリニーと唱へられて居た）を大連と命名し、明治三十九年九月に大連民政署の下に支配することゝなつた次て大正四年十月大連市役所を設置し、敎育衛生等に關して自治制度を採るまでに進んだのである、而して關東都督府と滿鐵會社とは此都市經營と其海陸連絡の改善に大全力を注いで現今まで努力した結果、露國經營時代にて人口二萬に充たざりし小都會も今や一躍して十二萬の人口を數ふるに至り、上水、下水の設備より、遊園地の設置、街路整理、大旅館、醫院、瓦斯、電氣の經營に至るまで一の

統一組織の下に出來上り、我大和民族の經營せる都市中最も完備せる文明式都市の体裁を備ふるようになつた

殊に其埠頭は露國時代に已に完成したる第二埠頭及び其後半成工のものを我が手にて完成したる第一埠頭は共に其長さ一千九百六十尺にして、水深は二十尺以上三十尺、優に一萬噸以上の巨船を横付と



なすべく、又第一埠頭の岸壁に沿ひ十萬坪の埋立をなして、埠頭設備を十分になしあれども、近時益々船舶の出入を增しつゝある爲めに、更に第三埠頭の築造に取掛り居ると言ふ狀況である、第三埠頭は其長さ二千尺幅四百尺の設計にして、陸上には埠頭事務所の大建築は今や工事に着手中である。

大連の市街は都市計畫論者の所謂蜘蛛式系統（スパイダーシステム）を發揮したるものにして、斯かる極端なる例は世界中僅かに獨逸の小都邑カールス、ルーエに之を見るのみである、而してカールス、ルーエの計畫は王宮を中心として周圍に三十六個の放射線の街路系統を有すれども、大連にては僅かに十箇の放射線を分岐するに過ぎず、從つて其隣接兩街が有する角度餘りに大にして、街路を辿るものは常に迷宮にあるの思を抱き、中心附近にて一歩を誤れば、先方にて數百間の差を生するの虞あるを免れぬのである、蜘蛛式系統は一の理論的の計畫としては、多少長所を見るも大連の如き極端なるものは、事實に於て甚しき不便と不利益を伴ふのである、巴里の如き街路系統は大体は蜘蛛式を骨子とすれども、地形と能く一致を保ち、歷史上の遺跡をも尊重し、又交通上の便益にも十分の注意を拂ひたる爲めに其廣狹大小等釣合宜しきを得るのであるが、大連の如き小規模の都市に於て、中心大廣場は其直徑七百尺を算し、大街は大低幅員十六間以上を有するが如きは、大体無謀の計畫と言はねばならぬ、現に近來人口少しく增加するや最早や本市街には收容の餘地なく新たに西方の丘陵に新市街地を計畫しつゝあると言ふことである。

大連市街を通觀して其最も成効せると氣付きたるは路面の築造であつた、大通りは固より大体の街路はターピヤ、コンクリートを敷き、コールタール、ピッチを以て仕上げ、掃除を怠らず遂行するが故に輕車を驅つて車上心地よく通行することが出來る、歩道はコンクリート敷石にて如何にも美事に出來上り居り、殊に植樹はアカシヤ、ドロヤナギ、ポプラ等何れも枝振り能く繁茂し其成績は大成功と言つても差支へがな

いと思はれる。人口僅かに十二萬に滿たざる都市に於て比較的廣大なる路面の築造と其維持費を負擔することは、事實上困難なるべきも、幸にして大連の土木工事は關東都督府の事業に屬し、滿州全体の經費の中より支辨することであるから、斯の如き成績を擧げ得るのである。

滿州の都市の內大連と旅順はたしか、關東都督府の管理にして、奉天とか長春とか其他滿鐵用地內に建設されたる都市は全部滿鐵の管理に屬すると言ふ不統一を示して居るのである、故に滿鐵に於ける土木工事と、都督府に於けるそれとは全然同一のものを都市の色別により管理を異にして居るのである、此等は將來永遠の國策より見て甚だしき不都合のものと言はねばならぬ。

大連の都市建設を一瞥せん爲め、先づ中心の大廣場を見るに其の正面に聳立せる大建築は、市の行政廳らしき四層建のレチッサンス式石造黃色化粧煉瓦張なるが、そは旅客待遇の爲め滿鐵が經營する大和ホテルである、此と對峙して聳ゆるゴシック式赤煉瓦の學校のような建物は都督府の民政署である、又其等と巴形に他の一方に陣取るものは正金銀行の支店にして、橫濱の本店に相類似のものである、此の三箇の建築は直經七百尺の大廣場に面するには稍副はしきものなれども、其他のものは一段見劣りがするのと、空地が多少散見する爲めに此大中心廣場も一向晴れ榮へを感せぬのである、其中心より稍南に片よりたる處に大島第一世都督の壽像が兀立すれども其周圍の調和は少しも其の威嚴を援助するやうに出來て居ないのを遺憾とする。

滿鐵の本社、圖書館等は稍人目を惹くに足るけれども大体市街の兩側を形造る建築は、凡て間に合せの煉瓦造なるは、急造の都市としては當然であるかも知れない、先づ橫濱の居留地のやうな体裁にして、實質の劣れるものが多いのである、而して其建築費の低廉なるを聞くに至つては其實質の甚しく低きものなるを知るのである。唯其外壁が大低煉瓦造なるが故に稍体裁を具ふるのみであつて、之れを詳しく視察すれ

ば比較的欠點多きを發見するであらう、殊に小崗子と言ふ一部をなせる支那街に至つては、建築の程度更に一段低劣にして、奉天城内のそれに似たものがある。

大連市街に連れる西北部方面は、主として露國時代の住宅地區にして歐式建築の官舍の甍を並べて聳立するを見る、今は滿鐵社員の社宅として利用さるゝのであるが、大体は貳階建の小柄の煉瓦造單獨住宅なれば、其周圍の環境上非常に心地よき感じを與へる、殊に屋根瓦の納まり方や破風の手法は、支那の形式を加味せる趣きあり何となし面白き建築趣味を發揮して居るが、少しく詳細に亘りて之れを見れば、大体建築技能の劣等なる職工程度のものが經營したことを見出すのである、之れ恐らく露西亞時代に其建築をなす場合一枚のエレベーションと平面圖とに依り、職工長が全体の指揮をなして仕上げたものであるならんと思はれる。

大連を去るに臨み其郊外に經營さるゝ滿鐵會社の沙河口工場を一巡した、其規模設備等は最新式のものにして門外漢のものも大に得るところあつたけれども、吾人の最も注意を喚起したのは其職工住宅の經營であつた、又下水清淨法の精緻なるものも見るの價値があつた、此等は他日更に記載することゝする。

六、旅順

旅順口は英人之れをポート、アーサーと稱し露西亞人はポルト、アルトルと唱へて居る、遼東半島最南端の地にあり、山東省の芝罘港を距る僅かに七十四海浬四面山岳屏立し一水其間に灣入して東西三粁南北一粁六の海面をなし、自然の良港を形成して居る、清朝の康熙三十五年山東より戰艦を送りて海岸守備を爲すに至り此地は始めて防備を固むる要塞地帶となつたのである日露戰役の時吾人の數次耳にしたる水師營は正さに其當時の遺跡だと言ふことである、其後千八百七年英佛聯合軍が太沽を攻撃するに當りて此地及大連灣を以て軍の根據地となせしより其防備の重要なること顯著となり、清國政府は遂に光緒六年に此地に堅固なる砲臺を築造し

北洋艦隊の根據地と定め、水陸二萬の兵を駐屯せしむることゝした、之れ旅順市街が出來た嚆矢である。

旅順の要塞も日清戰役の時容易に我國の爲めに占領され講和談判の際確かに我國に割讓したのを、三國干涉の結果支那へ逆戻りをなし、其後三年を出でざる明治三十一年に露西亞は之れを租借地となし、極東の根據地として堅固なる要塞を築き諸官衙を設置し、從來の支那街の西方西港の北岸に新市街を新たに計畫して着々其完備に工を進めたのである、現時吾人が稱する旅順新市街は即ち彼露西亞人の計畫して半ば成工したるものを踏襲したに過ぎない。

日露戰役の結果吾人は旅順の要塞も新市街も凡て之れを占領し其經營は我國に移つたのであるが、砲臺は破壞された儘之れを放棄し唯新市街のみは關東都督府の諸官衙所在地として利用して居るに過ぎない、故に世界的に有名なる旅順の市街も今は我國の一官衙が存在し居る外に何等價値なき小都市と化し去り、商工業其他都市として當然所有すべき經濟組織は全然缺亡したものとなつたのであるから、都市として之れを重要視する譯にはゆかない、吾人の之れを視察して最も驚きたるは、斯かる天然の良港も出入する船舶の皆無なることであつた、現代の都市は海面の連絡を以て其都市發展の最大要件とするに係らず、壹艘の船舶だも其良港に寄り付かぬと言ふ一事を以て見ても、旅順は今や火の消へた爐のやうなものであると觀察するを至當とする。若し日露戰役の旅順攻圍戰の慘痛なる歷史を偲ばんと欲せば、四面の砲臺に攀ぢて、我勇敢なる戰士の惡戰奮鬪したる遺跡を吊はねばならぬ。旅順新市街の都市計畫は相當に注意するの價値あれども、都市其物の發展なき以上其計畫は種を蒔かざる菜園と等しきもので如何に耕地整理が出來て居ても收獲時は永久に來らぬのである、それにしても現在淋しげに南面の丘陵に散點する數十の露國經營時代の官舍が、一種のパノラマのやうに天然の景色と調和して見るからに快感を與ふるのは、何となしに他人

のものを我物顔に振舞ふ現代の浮薄なる風潮を諷刺するやうな氣がする。

旅順の新市街を逍遙する時に、不思議にも淋しき感想の迫るのを覺ゆるのは、都市らしからぬ素質のものを無理に都市として仕立てゝあるからである。我國の官權なるものは、唯組織のみを以て現代の凡ての事物を左右し得る如く解釋することが、此旅順市街經營に於て十分に感得される。吾人は此天然の良港を如何に經濟的に利用すべきかと言ふ根本問題に觸れざる都市計畫の無意味なるを唱へざるを得ない。（終）

安政元年の關西地震と仝二年の江戸大地震

我國の都市は古來數次大小の地震に遇ひ、かなり苦き經驗を嘗めたのは事實である、之を地質構成上より見ても亦歷史上の記錄に見ても繰り返し繰り返し其災厄が今後も襲來するのは、凡そ想像出來ぬことはない。樂觀論者は大した恐しき結果はあるまいと信して居るけれども、少しく思慮を廻らせば斯かる樂觀說は少しも當てにはならぬ、むしろ今後來るべき震災の當然なるを推定せしめべき幾多の理由を發見するのであつて、吾人は其防備の研究を一日も忽にしてはならぬことを切に感するのである。震災の厄難より免かんことは、中々六ケ敷しき問題であるが、必ずしも不可能ではない、絕對的耐震の構造物は出來ぬとしても、相當強大の地震に對して破損の虞少きものは今日は左程困難ではないから、大低の震災には被害なきように都市の構造物を計畫すること、之れ今日吾人が子孫に對する大なる義務であらねばならぬ、唯從來

吾々の祖先が採り來りし主義は、現時の科學的組織を中心とする社會には斷然之を排斥し、永遠に安全なる計畫を樹立して其建築遂行を以て吾人の主義方針とせねばならぬのである。吾人は我國民の殆んど大部分が地震の災厄に對しては、深く考慮して居ないことを文明國民の恥辱として考ふるのである、殊に先覺の士にして地震の源因や其來るべき可能率に就き十分の理解あるものに至るまで、無智無能の樂觀主義者と相伍して、唯徒らに其日を送ると言ふ現時之風潮を見ては、國家將來の爲めに長大息を禁ずるを得ない、吾人は今此處に徹底的に現時の社會を覺醒せしむる底の正々堂々たる論述は之を抜きとし、我國の最近の大震災たりし江戸の安政大地震と大阪のそれとを記載して、多少なりとも都市震災の恐るべきことを吹聽して置きたい。

安政元年の大地震

安政元年には二回の大地震が關西方面を襲ふた。第一回は六月十五日にして其地域は伊賀、伊勢、大和を中心とし、山城、攝津、紀伊、丹波、近江、越前にまでも迫んだのである。第二回は仝年の十一月四日であつた、其範圍は畿内及東海東山に迫び、翌日又南海、西海、山陰、山陽の諸國大に震ふたので、被害の地域は非常に廣く、大阪も其一部を負擔したのである。其狀況は唯記錄により想像するに過ぎざれども、夏の分よりも秋の方が强かりしは事實である、先づ六月の地震より其狀況を記述する。

〔大阪市地震記之一節〕

十三四日の兩日は、此程に替りて暑さもまさりぬるは、けふより六月なればなどいひあへりしに、其夜子之刻過る頃、戌亥の方よりとも、辰巳よりともさだかならねど、ドヲウ〳〵と響き渡りて、大なるなゐ震ひ出たり、されば家の大小をいはず、ゆりうごく事、風荒き日、船にて海をわたるが如く、疊の上さへ歩みかれたり、さみにもふるひやますして、家のなる音、いはん方なく恐しければ、皆一まどゐにまどゐし、或は打臥などしてあるに、燈火をさへゆり消し、又は倒しなどしければ、女童は泣まどひ、たゞ神佛の御名を唱ふるより外なし、漸く明がた近くなりて、少し穩しく成ぬるにぞ、人々生出たる心地せしに、又强く震ひなどして、朝の五つ時迄

に、およそ三十五六度に及べり、あくる十五日も、きのふに替らず空晴たりしかど、猶ふるひやまずして、暮るゝまで長短強弱はあれど、十五六度に及びぬ、……

以上の記錄によれば大阪の震い方は極微弱にして被害らしきものはなく、唯塀の倒れたものや、石燈籠の顚倒が多かつた位にて、先づまづ無難の方であつた、併し此地震は大体大平洋の海底に起つた三大地震の余波であつたので、其余震は廿四日まで頻りに續いた爲めに、大阪市中は其間戰々競々と取るものも取りあへず、狼狽の極に達したことは其當時の記錄から十分に想像が出來るのである、若し今日かゝる地震の襲來あらんか、たとへ大した被害なしとするも一般の恐怯はかなり甚大のものであろふと思はれる。而して其時の震災には伊賀、大和、伊勢の方面の被害が甚しかつたと思はれる。

南都地震

一、當月十四日夜九つ半頃よりゆり出し、十六日朝まで大小ともゆり申候、夫に付町家たをれ、怪我人數不知、死人凡貳百人許、土藏、高塀不殘崩申候、町家之者、興福寺南大門へ寄集り、町々住居候もの、壹軒も無之、興福寺四町四方の高塀、不殘崩る、元興寺大塔大に損じ、……

勢州四日市驛

晦申、十四日夜八つ時之地震にて、過半潰れ、其上出火有之壓死、燒死其數數知、旅人も餘程死亡之由、十六日に往來せし飛脚之話に、潰家燒失等にて道を塞ぎ、其上臭氣甚敷、往來不相成、間道を登りし由。肥後家士泊り候處、座數は何方數不知、家來体之人、餘程之人數にて泊に付、裏手小座數にて騒居候折柄、地震に付、可立出勝手不相知、其内壁落候故其所より逃出、同道人亦家來も打捨、漸赤裸に大小を持、京着被致候、定而同道人は勿論、座數之家老も壓死せられしなるべし云々

伊賀、上野

町方の死人百三十人、怪我百二十人、潰家千百三十五軒、半潰九百四十三軒、鄕方は死人四百五十三人、怪我八百三十一人、潰家千五百九十三軒、半潰三千六百五十三軒、大手御門京橋御門崩れ、御本丸御殿向不殘崩れ、乘馬十八疋、家中女共二三百人餘、城内にて埋れ死候由、町方は崩れ家より出死黒門迄燒失、壓死燒死千人餘也とぞ……十九日に小役人へ黒米壹斗宛町中へ米千俵被下候由、何れも支米之儘粥に焚食申候よし、御救、家持、借家人に不拘、潰家の者一軒に付、金四兩、半四兩宛、傾候家は一軒に付、金二兩、半二兩宛……

以上の記錄は必ずしも正確のものと見るを許さぬけれども、其當時久しく地震の災厄に遠ざ

かりし關西各地方の人士が如何に狼狽困憊せしかの狀況を書き出すには、十分の資料であると信ずる。而して此災厄を經て五ケ月を經ざる十一月の四日再び大地震は襲來して、東海、東山南海、西海、山陰、山陽の諸國それぞれ被害を受け、殊に瀕海之諸國は其災害多大であつたと言ふことである。

〔鈴木大雜集〕

一、大阪表、當月四日大地震、五日夜五つ過頃津浪にて、近海に居候大船小船、皆々道頓堀へ流込、堀江川へも少々流れ込、長堀にては高橋、堀江は水分橋、黒金橋、道頓堀にては樋吉橋、蟹見橋、幸橋、住吉橋、櫂堀金谷橋落申候、道堀頓近邊人々、船にて逃可申積り、家形庫上荷船茶船に乘候處、大小船一般に流込候故、船込合、大船小船破船は數艘、水死之人不知數、又は安治川、木津川兩川口に掛居候他國、或は廻船共、凡壹萬艘許之內、貳千艘は無難に御座候、其餘は大半怪我船に相成、死人七千人許、誠に目も不被當有樣にて言語に難申盡候、沖に居候樽船、菱垣船は、仕合能皆々無難に御座候、……

〔嘉永七年甲寅地震海濤之記〕の一節

十一月四日、曇天、辰下刻、大地震ゆること須臾、人々家を出て道路にたつ、漸々にして止む、其後晝夜をかけて四五度ゆる……五日、つちに入る、晴天、申刻、大地震ゆること甚しく、家を出て道路に立つに、たちかれてころぶばかりなり須臾にして、海底鳴動して、津浪寄せきたり……

〔土州高知伊勢舍守より安田由助へ來翰「十一月八日出」〕

扨當國にても、當月四日より大地震にて御座候處同五日七つ頃より又々大地震、四日のゆりよりひどく御座候所、下町は大火事起り、下町八九分通り燒失に相成り、死人、怪我人等今以其數相分不申、寔以近年之大變にて御座候、上町は地震許にて御座候共、家々半潰、又潰家、此上もなき大變にて御座候。

伊勢舍の方も、重も家は堅固に御座候得共、壁、屋根等痛み申候、北庇も轉げ落飛散申候、土藏の壁も西側、北側潰、少し許殘り居申候、外輪は塀總崩れに相成、半分餘は相こけ申候……

十一月八日

伊勢舍守

十一月の地震は大平洋底に起りたる大波動の余波であつたと見へ、東は東京より西は九州に迄び、地震の被害よりも、海濤の損害甚しかりしは數種の記錄により想像し得るのである、東海道筋にありては、伊豆の下田港は其被害最も

甚しきものであつた、下田港は其當時開港場であつた爲めに、英國船一艘碇泊して居て、其れが津浪の爲めに半壞の狀態になつたのを、其の土地のものは瀕死の恐怖最中にも快哉を叫んだと言ふことである。其他伊勢灣、大阪灣、紀州の海岸、土佐灣は凡て海嘯の爲めに甚しき被害を受けたのであるが、地震としては割合に災害の少かりしものと見ることが出來る、乍併余震は十二月の半頃まで續いたから、各地とも其間人心恟々たるものがあつたと言ふことである、固より微弱なるものは翌年一月の半頃まで斷へなかつたのである。

〔土佐國群書類集所載地震日記の一節〕

十一月四日辰ノ刻地震ヲ、同夜二度ハ微細ナリ、五日申ノ下刻、他大震初リ、乾ノ方ヨリ鳴動スル音、恰モ暴風ノ山林ニ響ケルニ等シク聞ユ、地動搖スルコト大浪ノ如ク、良久シクシテ止ム、而シテ又頻リニ震スルコト間隙ナシ、暮ニ至リテ仍ホ止マス、酉ノ上刻頃ニ及デ津浪來ル（二淀川ノ潮ハ、京間ノ瀬ニ至テ止ル）高知大火（後ニ聞ケバ幡多郡中村町、同宿毛町モ焚ルト云フ）同夜震フコト七十度、寒強ク霜大ニ降ル）初メ大ニ震シ時地裂ケ、山崩、巖落チ、河水漲リテ涯上ニ騰ホリ、半ハ減リ、殘ル所ノ水ハ渾濁シテ泥ノ如シ、堤割レ、道碇レ、橋壞チ、家藏或ハ潰レ、或ハ倒レ、或ハ壁扉、一室モ破傷セザルハナシ、……幼童女婦ハ震慄シテ啼哭スルコト不止ハ、實ニ凄冷ジク亦憫シキコトナリケリ、斯テ唯忙然トシテ皆人家外ニ立集ヒ、驚嘆シテ居タリケリ、折柄遙ニ見レバ、高知ノ方ニ當リ火發リ、溫煙雲ニ入ル、夜ニ至レハ火炎天ヲ燎ガシテ赫々タリ、遠ク此地ヲ照スコト奐乎トシテ白晝ノ如シ、扨又初更ノ頃、俄カニ諸方大ニ騷動シテ喧シ如何ナル故ゾト尋ヌレバ、大潮ノ來ルトテ、周章轉動シテ山路ノ方ヘ遯ゲ走ル、其物音遠近ニ聞エ渡リ、暫ノ間鳴リモ諠マラス世界騷シキコト言許リナシ、其人々ノ中ニハ、取ル物モ取リアヘズ薄着ニ空腹ノ儘ナレバ、寒餓身ニ迫リ、患苦セシモ多カリシトナン、最ト哀レ、

六日、震フコト四十五度、晝ハ溫ニシテ夜ハ寒シ、今朝ニ至テ何ノコトモ無カリケレバ、前夜山邊ニ行ケル人皆家路ニ歸リ、暫シノ間少シ賑ハシカリキ、良アツテ又潮來ルゾト流言スルモノアリテ、諸人大ニ恐怖シ周章シテ、又山河ニ逃ゲ走ルコト前ノ如シ、此ヨリ妄說頻ニシテ老幼婦女ハ言ニ及バス淺智ノ輩大ニ迷ヒ、晝夜震慄シテ山ニ倚ルコト數日ナリ……

七日、震スルコト五十三度（晝二十四度四ツ時太ダ長シ、夜二十七度八ツ時太シ）

八日、震フコト四十一度…震勢漸ニ弱小ナリ、

九日、震フコト四十四度（晝十五度、夜二十九度、九ツ時八

ツ時ニ二度稍強ク長シ、統テ前夜ヨリハユレ太シ）……

右日記には翌年一月二十六日まで日々の余震の度數を記載しあり、殊に元旦歳首の慶賀を述べながら地震の襲來に恐れつゝありし有様は、さぞかしと思はる、土佐の國一圓は南海道中最も災害の多かりしことは以上の記事にて想像し得らるるけれども、紀州の沿岸、伊豫の各地、又志摩の國、伊勢地方も可なり永き間余震に恐怖しつゝ暮したらしく思はれる。

安政二年の大地震

安政二年十月二日壬辰、是夜四ツ時、江戸地大に震ひ、石垣崩れ、門櫓倒れ、諸侯の邸宅及び士庶の屋舍、倉庫多く倒る、已にして火を失せること五十余、延燒殆んど其數を知らず、壓死者及燒死者を合せ貳萬五千〇三十九人ありしと言ふ（安政年錄）又地震年代記によれば死亡十三萬二千四百人余、負傷十萬千餘人、治療を受くるもの三萬千二百人、又安政雜記によれば此回大地震の爲め死亡人諸寺院本山にて取調員數は左の如しと言ふ。

一天　台　宗	二萬千五百餘人
一淨　土　宗	三萬五千七百餘人
一古義眞言宗	一萬九千五百餘人
一新義眞言宗	一萬七千六百餘人
一臨　濟　宗	一萬九千五百餘人
一曹　洞　宗	七千六百餘人
一黃　檗　宗	七千五百餘人
一日　蓮　宗	九千八百餘人
一同勝劣派	五千七百餘人
一西本願寺	三萬三千九百餘人
一東本願寺	三萬七千八百餘人
一時　宗	三千七百餘人
合　計	二十一萬九千九百餘人

以上の如く貳萬と言ひ、十三萬とも亦二十一萬とも稱へらるゝ程の壓死者及燒死者を出せし震災は、恐らく古今を通して之を見出し得ない程悲慘なものであつた。然かも我國の最大最重の都市に起つたのであるから、物質上又精神上直接又間接の損害は、蓋し容易からぬものと推

定し得るのである。此地震は主として東京及其附近に限られたものらしく、他の地方の災厄として報せらるゝは水戸附近、下總、等の小區域に止まり武藏の北部や、甲斐の方面は僅少の損害に止まりしよしなり。其當時幕府の沙汰書の一節を見るに

安政二年十月二日

一今夜四時頃稀成大地震、且所及出火に付、紀伊守四時半打五寸廻り登城、其外老中、若年寄中、追々登城、鎭火に付、一同六打五寸廻り退出、

一、右に付、八時過御錠口より御表通り、御玄關より吹上御庭へ御立退被遊候に付、老中、若年寄中御供に而御同所へ相越、明ケ六時前、西詰橋より還御被遊候

……

大目付へ

御目付へ

此度地震並大火に付、諸向難儀之儀をも被思召候に付、當年中、月次御禮不被爲請、玄猪御祝の儀も不被仰出候間、一統不及出仕候事、

右之通、向々へ早々可被相觸候

十月

……

六日、

御座間

遠藤但馬守

右居屋敷類燒に付、可爲難儀と被思召候、依之金五千兩拜借被仰付也、

時服十　阿部伊勢守

右地震に而、居屋敷潰候に付、於御前御内々拜領之

同　内藤紀伊守

右地震に而、居屋敷燒失に付、於御前御内々拜領之

同五　本多越中守

同五　酒井右京亮

右地震に而、居屋敷潰候に付、於奥御内々被下之

……

八　日、

伊勢守殿御渡、即日觸、

大目付

御目付へ

今度地震にて居宅皆潰、又者及類焼候向、可爲難儀と被思召、當時御事多には候得共、格別之譯を以て、萬石以下之面々、地方取共、左之通拜借被仰付候、請取方之儀は、御勘定奉行可被談候、

九千石より五千石まで、　金貳百両
四千石より三千石まで、　金百五拾両
二千石より千石まで、　金百両
九百石より七百石まで、　金五拾両
六百石より三百石まで、　金參拾両
二百石　金貳拾両
百　石　金拾両

但百俵も同斷、餘者准之

右之通、類焼之向へ拜借被仰付候、

九千石より五千石まで、　金百四拾両
四千石より三千石まで、　金百両
二千石より千石まで、　金七拾両
九百石より七百石まで、　金參拾五両
六百石より三百石まで、　金貳拾両
貳百石　金拾四両
百　石　金八両

但百俵も同斷、餘者准之、

右之通、居宅皆潰家之面々へ拜借被仰付候

但半潰之分には、右之半減、拜借仰付候

其他幕府は震災の當日より連日社會救濟の布令をして其回復に全力を盡したしである、諸中にあつても、大身衆のものは、五千両乃至三千両の拜借を許され、屋敷の復舊工事も輕易質素ならしめ、又一方木材其他の急切需要の增すものに對しては、其價格騰貴を取締りたる等、善政を施し其回復に努力したことは目醒ましきものがあつた。

左に時風錄所載の記事より拔粹せる一文は其當時の狀況を可なり明かに言ひ現はして居る、

安政二年十月二日の大地震は、昇平の世の大變なり、よりて

こゝに其のあらましをしるし置きぬ、

今を去ること百五十三年、元祿十六年十一月二日夜、江戸、小田原大地震、其頃天野彌五右衛門といへる老人の曰、星ひきく見へ、冬溫かなる年は、地震あるものぞとて、家にかすがひうち、繩からげなどして置けるに、果して其年大地震ありしとぞ、こゝに思ひあたれることあれ、頃年冬暖かにして寒中雷ふること稀なり、また今年夏入初めより、雲にあたりて大なる星いづ其光甚しく、人々怪み思へり、是ひきく見ゆる故なりしが、茲に十月二日は、ひねもす空曇り、小雨そぼふり、巳申刻頃、また雲にあたりて、虹の如くその長十丈ほどなるすぐの氣たつ、夜は殊に寒くして空はれたり、其過日頃怪しき光りもの四方にひらめきわたるやいなや、大地俄に鳴動し、山川を覆へし、人屋を震倒す事、一時に數萬軒、其響恰も百千雷の落かゝれる如し、いまだ二更の皆なれど、たまく〳〵ふしどにいりしものは、その物音に夢覺て、こはそもいかにと、こけつまろびつ泣わめきつ逃げ迷ふ、或はその儘押しにうたれ、あるは瓦にあたり。石につまづき、溝におちいり、傷つくものも少からず、うからやからを救ふとて、其身もろとも死するもあり、漸く我家をのがれいでて、隣れるいへに打倒さるゝもあり、斯る處々に火煙俄に天をおふひ、夜も猶白晝の如く、凡三十餘口の猛火、火炎空を焦すといへど、これを防ぐにいとまなければ、たゞ風のまに〳〵燃ひ移り、炎ほに焦がれ、煙りにむせび、呼べど叫べど救ふ人なく是が爲まゝ死するも多し、實にや深窓に長となり、錦繡にまされし身も、歩行はだしにして、四方にあこがれ、君にさき立、臣におくれ、親に別れ、子を失ひ、夫婦兄弟ちり〳〵に血に染み、なみだを流して逃まどふさま、佛の所謂修羅道もかくやと思ふばかりにて、哀れといふも愚かなり、大君にも吹上の御園瀧見の御茶亭へ渡せらる、御城御櫓、多門、御門々、塀、砂垣など、震崩されずといふことなし、又西丸下には松平肥後守、松平下總守、内藤紀伊守、大手前には酒井雅樂頭、森川出羽守、八代洲河岸には火消屋敷、松平因幡守遠藤但馬守等、類焼す、その外諸侯伯權門の舘々、震倒すこと大半なり、扨又御廓外は大小名の邸をはじめ、武家、町家近郷の民家に至る迄、家藏の震潰れ、焼失すること夥しくして、盡くしるすあたはず、死亡する人、また擧て數ふるに暇あらず、そが中に小川町、下谷、根津、淺草、本所、深川、吉原、千住のわたり、潰家あまたにして、一時原野となり、人の死傷も思ふべし、殊更吉原は遊客の夜興いまだにたなばならざる時なれば、數千の男女、樓上樓下に立さわぐうち、忽ち震倒され、廓中一時に猛火となりて、生殘りしはまれなりとぞ、げだし高恩は震ふごと報きにや、潰家、死人共少なく、出火もまたなけれど、一軒として藏壁の全きはなし、

山王、神田の両社、東叡、三緣の両山、つゝがなく、淺草の塔の九りんまがる、天王寺の塔の九りんちる、……扨其夜は何れもちまたに奔走して、明日を遲しと待わびけり。次の日巳の刻頃火漸く鎭りぬれば、人々少しく心おちゐて、家をやきたるものはいざ、さなきものもあるは庭、あるは原野、路

上に竹木をゆひ、むしろなどもて、おのがさまざま小屋しつらひ、漸く雨露を凌げども、いまだ夜となく晝となき小地震に、氣も魂も身にそわず、夜もいを安ふせずして、ひと日ふたよ送りける。

斯る中にもうからやからを失ひしものは、そが亡がらをこゝかしこより押わけ掘いだし、何れも寺院へ退れるとぞ。はや桶又は瓶にいるゝはまれなり、或るは酒樽、油樽、砂糖樽、素麵箱、あるは町々の天水桶、何くれのくぼかなるものにいれ、また莚にまきて車につみ、蒲團につゝみ、莚に卷て脊おふて行くもあり、多く送れる寺々は、穴をうがつにいとまなければ、かたへにつみ置て、つち堀埋め杯する、誠に目あてられぬさまなりけり、……

かゝる天災ありて、さしも繁華なりし大江戸の、かく暫時に灰燼曠野となり、多くの人民をそこなひ、上下の困窮することを哀むべし、かなしむべし、されどもかく世上人民の憂苦を思召給へる、明君の御仁惠に、町々に食を賜り、所々に御小屋を建て、貧民を救はせ給ふ、また類燒、潰家の大小名をはじめ、御家人の面々へは、夫々御金を貸し、或は賜り、又彼變災に横死する者少からざるを歎かせ給ひ、上野凌雲閣をはじめ、十二ヶ寺に命ぜられ、二夜三日の大法會修行させ給ふ。……こゝに又五穀其他竹木の價、修理、作料、過分に貪らざるやうとの嚴命下りて、人々其惠みを仰ぐ也。

以上の日記は其當時の慘狀を比較的細かに言ひ現はしたものではないかと思はれる、其慘狀の甚劇なりしこと古今東西を通して恐らく其右に出つるものはないのであろふ、同時に其復舊に困難したことも各大名が德川家より借金を許されたに見て其一端を知り得るのである。若し今日斯かる大地震が我東京や大阪に殺到したならば、其慘狀と損害は幾何であるやは、考ふだに戰慄を覺ゆるのである、嗚呼吾人は何故に天より呪はれて居るのであるか、吾人は如何にしても其恐るへき魔手に對して防備を講究すべき天命を有つのである、唯其魔手のまにまに飜弄されて喚叫するが如きは現代の文明國民としては余りに劣弱である、我國先覺の士は我國將來の爲め宜しく我都市の震災防備を講究することに努力すへき時代ではないが、唯文部省内に於ける震災防備調査會の研究にのみ之を一任して省ざるが如きは、餘りに冷淡なる態度である。

米國の火災損害高

北米合衆國及加奈陀に於ける火災損害高は昨年度に於て其最高記錄を示した、其金高二億六千七百二十七萬三千三百弗にして、一九〇六年の桑港震災を含める年度の損害高四億五千七十一萬弗を除きては之に迫ぶものはないのである之を前年度に比すれば三千六百萬弗の超過にして前々年度よりも八千四百萬弗も多い計算となる、而して其主要なる原因は軍需品工場の災害にして各保險物件の金高の嵩まりしことも合計に於て前年度に增した理由をなして居るのである、乍併數多の大規摸の軍需品工場が火災保險を附せざりし爲めに幸福にも火災保險業者の其賠償を免れたのは著しき事實である、左の軍需品製造の工場は罹災者中の主なるものである。

工場名	所在地	損害
加奈陀車輛及鑄鐵工場	キングス、ランド	千二百萬弗
ジュー、ポン火藥工場	ハスケル（ニュージャーシー州）	千五百萬弗
ユニオン、スウキッチ、エンドシグナル會社	ビッツバーグ	四百二十萬弗
ウオツシュ、バール電線會社	紐育	百十萬弗

而して食糧倉庫の安全保管に關して、國論沸騰し大に注意せらしに拘らず、矢張り著大なる災害を生じたのは甚だ遺憾であつた、又西南部地方の油槽が甚大の損害を受けしは本年度の罹災金高を高めた一の原因である。

一八七八年より一九一七年度に至る己往四十年間の火災損害高は六十四億八千二十六萬七千五百六十弗に達し、之を一ヶ年に平均すれば一億六千二百萬弗である、而して之を火災防禦研究者の意見に徵するに、此等の約六割五分は注意深き方法を採用すれば十分之を豫防し得ると言ふことであるから、己往四十年間の損害中之を防ぎ付たりし金高は正さに四十二億一千二百萬以上となる。（記者曰く約八十億萬圓は我國の

一ヶ年の全生産力の倍額なり）

左に已往十五年間の火災損害高を示す、

一九一七年	二六七、二七三、一四〇弗
一九一六年	二三二、四四二、九九五
一九一五年	一八二、八三六、二〇〇
一九一四年	二三五、五九一、三五〇
一九一三年	二三四、七二八、三五〇
一九一二年	二三五、三三〇、九〇〇
一九一一年	二三四、三三七、二五〇
一九一〇年	二三四、四七〇、六五〇
一九〇九年	二〇三、六四九、二〇〇
一九〇八年	二三八、五六二、二五〇
一九〇七年	二二五、六七一、二五〇
一九〇六年	四五九、七一〇、〇〇〇
一九〇五年	一七五、一九三、八〇〇
一九〇四年	二五二、五五四、〇五〇
一九〇三年	二五六、一九五、七〇〇

（一九〇二年度以前に遡りては一ヶ年損害高一億六千弗を最高位とし二億弗臺のを見ず）

亞米利加に於ける火災防禦の學術的研究は可なり進歩したるものであるのみならず、行政的處分や、火災保險業者の細密なる注意は、歐洲各國の遠く及ばざる程に發達したものであるのに其罹災高の甚だしく大なるは、常に吾人をして迷はしめる材料である。吾國の都市は今後亞米利加の如き恐るべき罹災國とならざるよう心懸けざれば、今後凡ての産業組織の發達や、經濟的活動の進歩と共に、漸次火災度數を增し、罹災金高の嵩上を見るは明かである、然らば其方法は如何にと言ふに、木造建築の構造物を漸次に排斥して防火構造の堅固なる建築に移るの準備をなすことより外に其途はないのである。

× × × × × ×

× × × × × ×



紐育市の交通問題（一）

會員　伊藤正文　譯

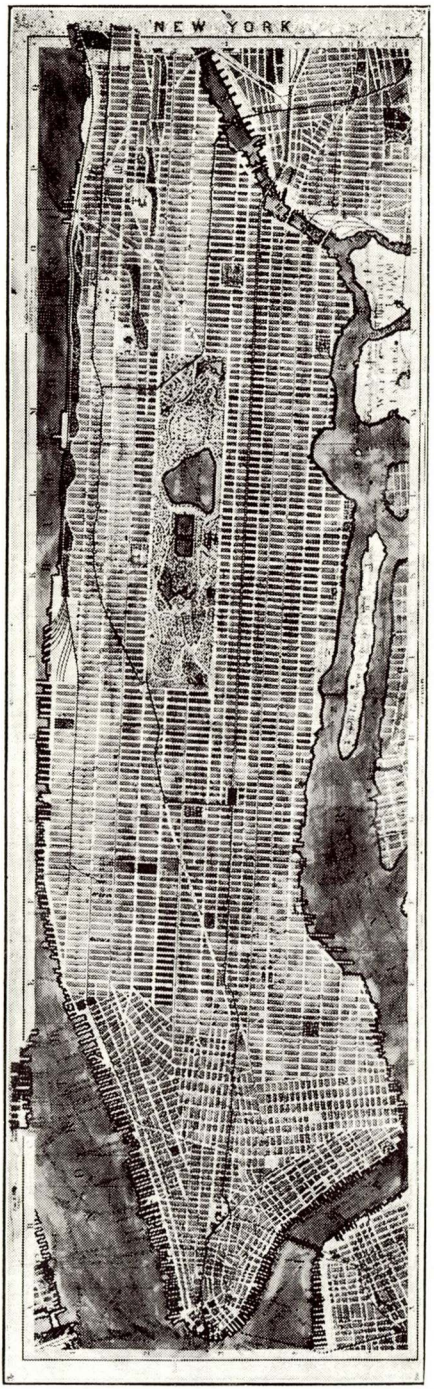
都市計畫と云ふ大きな河流を合成する色々の流れがある中その一つとして都市の交通問題がある。現今東京市に地下鐵道布設の聲を聞くが、蓋し東京市に於ける當問題に就ての解決法實施の第一歩であらう。茲に千九百十五年桑港萬國工學大會に於けるリーブス氏の講演米國都市の交通問題の中から紐育市の部分を抄譯した。

■交通機關の歷史及び發達の順序

當紐育市は十九世紀初頭に於てはマンハッタンアイランド上の一定の中心地から五哩若くば十哩位以内に限られた場所であつて、未だ交通時間を迅速にして時間經濟を計ること等には思ひも及ばなかつた。馬にのつて行く人とか非常に多忙な人は彼等の住居から執務場迄規則的に通はなければならなかつたものである。若し相當の道程を急いで行かなければならぬ時には、當時の最新交通機關と目されてゐた馬車にのつて、どんなにあせつて只その痩せ馬の足の速さにたよつてゆくより他に手段はなかつた。その最初の公衆馬車が乘客の爲めに紐育市全体に走る樣になつたのが千八百〇一年の事で、當時マンハッタンアイランドには約六萬人の人口があつたが此幼稚な方法で動物を使役するより他に仕事がない有樣だつたのである。當市の交通の歷史をもつと精しく調べる爲めにもう少し時代を逆上つて見やう。

千七百七十二年六月廿五日の調べで當時紐育市の人口は僅か三萬人でその時に、最初の驛馬

紐育市街系統地圖



紐育市は千八百七年に人口漸く八萬五千人であつた、當時初めて市の將來の計畫を立つる爲めに調査委員を選出し、マンハツタン島全部を市に編入し、直角式格子形の市街系統を確立した、同十一年に調査委員の報告に基きマンハツタン區の交通路を定めたのであるが、市の膨脹は急激に發展し、一八六〇年には人口既に八十萬を超ゆ、西はホドソン河に限られ東はイースト河に遮られて、東西に延びる事を許されぬ爲め、南北に發展し、南はロングアイランド島へ膨脹し、ブルツクリン區及びロングアイランド區との交通連絡のためブルツクリン橋を始め三大橋を架設し、現今五百萬の人口を有す。西の方ホドソン河を距てたるニュージャーシー市及び北の方ハーレム河を挾みたるマリサニヤ區を合算すれば正に七百萬以上に達し世界最大の都會となつたのである。

マンハツタン區の南端は摩天閣の群立せる部分にして、市の中樞たり。當初の市區系統なれば多小亂雜なれども、以北は整然たる市區を劃し、唯一のブロードウエー街の斜に延びたるあるのみ。セントラル・パークは略中央に位し、第五十九丁目より第百十一丁目に達す。東は第七街と三十二丁目との交叉点にグランドセントラル鐵道終點驛あり。西は第四街と四十二丁目の交叉點にペンシルヴエニヤ鐵道終點驛あり。

車が當市とボストン市との間に設置され、上記の日の新聞廣告にはその交通狀態での權威であると迄云つてゐる。數年後即ち千七百八十五年の頃驛馬車は紐育市とアルバニーとフイラデルフイアとの間を走つてゐた。

四頭立で朝の三時から夜の十時迄走りボストンへは六日、アルバニイとフイラデルフイアへは三日、時によるとそれ以上に日數がかゝつたものだ。其上に此旅行は旅客の身體を激動するので非常な練習と忍耐が必要であつた。けれど記錄によると多くの危險と冒險があつたらしく、そんな旅を二度とする位なら少し位の用事なら家に居た方が增だと思はせる位だつたと云ふ。

紐育で千八百一年に出來たと云ふ最初の公衆馬車はブルスヘッドからマンハッタンビルとハレム迄であつた。千八百〇六年に馬車の路がハレムの第百廿五番街(125th Street)とバークローの間に出來朝早くハレムを出發し午後には歸途に就いて、値段は廿五セントであつた千八百二十年にはバウリーとバークローから市の各方面への馬車が通ふ樣になり、市の迅速な交通事業を獨專してしまひ、千八百三十二年頃プリンス街とバウリーとハレム河の間にある第四街(Forth Avenue)に最初の鐵道馬車の出來る迄繼續してゐた。當時マンハッタンの人口二十二萬であつた。此鐵道馬車は公衆の大した便益にもならず成功もしなかつたので、同情をなくし千八百卅七年に廢業の止むなきに到つた。千八百四十五年迄は、中途に汽車の發明があつて運轉されたが、矢張鐵道馬車は復興されなかつた。

其後千八百五十二年頃第六街(Six Avenue)に競爭の交通機關の出來る迄汽車が交通を獨專してゐた。次の年第三街線(3rd Avenue)が開始されて以來市街線が非常に增加して、合衆國國勢調査によつて見ると千八百五十年から千八百五十五年の間に紐育其他の市を合せて六つの線路が出來、千八百五十五年から千八百六十年の間に三十の線を增し、尙千八百七十年迄に更に三十の增加を見た。千八百九十年にはすべての線が運轉され、合衆國主要都

市を合せて八百七十六の線が出來てゐた。

■ 迅速交通機關としての高架線ー マンハツタン及びブロンクス

最初の迅速交通が初まつたのは千八百六十七年に紐育のバッタリープレースからコートラント街迄グリーンウイッシュ街の東側に沿ふて最初の高架線が出來た時である。これは街路上の足場の上を、新しい運轉法で車輛を進行させることが可能であると云ふ一の經驗を劃したのであつた。新しい運轉法は輪になつてゐる鎖をドラムの上を、道路の下にある据付の蒸汽機關で廻らせる樣になつてゐるものであつた。當時マンハッタンの人口は激增して千八百六十九年には九十萬人に達し、迅速な交通方法の必要に迫られた爲めに、その年に單線短距離の高架線がグリーニッシュ街の東の曲り角から、第九街の西の曲り角から先へと擴張され、間に第廿九番街のステーションを いて第卅番街迄のび紐育中心地とハドソン河鐵道終點驛とを結び付けて仕事を終つた。當時のステーションは第十街と第卅二番街とにあつた。千八百七十一年になつてエンドレスチェインの運轉法を廢して汽車にした。千八百七十六年に規模が擴張され第九街の西を曲つて北端の第六十番街迄のび、最後に第五十九番街の一本足の構造のステーションが出來た。此時紐育市の人口は百萬を越し、裕にこんな構造物——高架鐵道——が出來て當時の迅速交通問題に解決を與へてしまつたのである。

斯くして他にも高架道鐵會社が設立せられ紐育市内の多くの町に高架線を布設したり、計畫されたりした、しかし一般にこんな構造にはおちけ付いてゐたらしいが、それでも千八百七十八年、千八百七十九年、千八百八十年には現時のマンハッタンアイランド鐵道の高架線が出來て、充分に運轉された、時にマンハッタンの人口百二十萬に到してゐた。其後千八百八十六年から千八百九十一年にはブロンクスへの擴張と連絡工事が出來た。千八百九十一年のマンハッタンの人口は殆んど百五十萬、ブロンクスは八

萬九千になつてゐた。千九百〇二年にはマンハッタン管内の人口殆んど二百萬と云ふ盛んな勢を示してゐる。ブロンクス管内が廿五萬で、十年前のブロンクスの人口の三倍を增してゐるが、これらは皆迅速な交通機關による便利の賜である。千九百〇一年から千九百〇二年の間に鐵道會社は迅速交通機關の運轉法を改め、蒸汽機關を捨てゝ電氣の三線式を採用し數年間に、すべてを此設備に更めてしまつた。マンハッタン鐵道區として設置されてからの高架線の哩數は、架構三十七哩六八、乘客收得の軌道百〇二哩一五で此有樣は千九百〇二年から千九百十五年迄續いてゐた。

迅速交通機關地下鐵道

十七世紀の初期に初めて乘客用地下鐵道が紐育市内のマアレイ街からパークプレース迄の大通の下に秘密に出來た。それは二百尺許りの間で、車輛は此隧道内に備てあつて壓搾空氣で運轉した。所が更に擴張する爲めの特許地を得やうと數回試みたけれども徒勞に終つてしまつたので此ビーチペニウマテイック鐵道會社と云ふ會社は解散の止むなきに到り、トンチルは放棄せられ、後には酒庫に用ひられてゐたし、車輛は朽ち果てる迄穴の中に殘されてあつた。此トンチルは後に、強い者勝ちの世の中の例で、今の所謂レキシントン街地下鐵道が大通を横切る爲めに、千九百十二年に破壞されてしまつた。

紐育とブロンクス間の地下鐵道は問題になつてゐたのであるが電力輸途が發達したので解決がつき千九百〇三年には確定して構造にとりかゝり、紐育市から投資して布設したが、千九百〇四年十月には市民非常な誇として、又市の模範的實例として、初めての地下鐵道は電氣三線式によつて運轉された。そして管内迅速交通機關會社が借り受けて運轉し、すべての設備をとゝのへて公開した。其時紐育のブルックリン橋即ち市廳舍の邊から第百三十七番街とブロードウエーまで延長され、哩數約八哩半に及んだ。次いで他の方面の延長擴張が加へられ、其後市營となり遂に現時の地下鐵道は完成されたので

ある。それが千九百〇八年の八月全線の連轉開始の運びを見たのである。そしてブルックリン管内のアトランチック街から第二百四十二番街とブロードウエー迄とマンハッタン管内迄ものび、更にブロンクス管内の第百八十番街とボストンロード迄も擴張された。此線は地下十八哩一〇、二つの河底の水中トンネル一哩四六、陸架橋六哩一六で全長廿五哩七二、即ち七十六哩一八の單線の乘客用軌道が、マンハッタン區とブルックリン區とブロンクス區とに跨がつて役立つてゐるわけである。その上また管内鐵道會社によつてマンハッタン區の擴張及び三軌道にする工事の爲めに廿五哩以上の增設線があるし、マンハッタン、ブルックリン、クキーンスに百四十六哩以上の地下線及び高架線が會社と市の共同作業として工事繼續中である。

■ ハドソン、マンハッタン鐵道

千九百〇八年と云ふ同じ年に他にも地下鐵道と隧道との重要視す可き發達のあつたことを忘れてはならない。ハドソンアンドマンハッタン鐵道會社は紐育市の第十九番街と第六街から地下鐵道を構造し、第六街とクリストファ街の下を通り、ハドソン河をくゞつてニウジアシーのホボケンに到した。

斯くの如くして紐育市及びその交通機關に、經濟的に從屬す可きニウジアシーの内の發達した所も未開の地も、大きな區域のすべての所ろを接近せしめ直接に結び付けたのである。此部分のトンネルは千九百〇八年二月廿五日貨物輸送の目的で開鑿され、同年六月十五日第廿三番街と第六街迄延長され、千九百十年十月十日更に第卅三番街と第六街迄擴張された。下町の支線は千九百〇九年七月十九日に開始され、コートランドとチャーチ街からハドソン河をくゞつてペンシルバニア鐵道驛及びジアセイ市の貨物線驛とに事實上の連絡を取つて擴張し、尙進んで千九百十一年十一月廿六日にはペンシルベニア鐵道を越してニウジアシーのニウワークに於けるパークプレース驛へ引き込んだのである。そして千九百十四年に運轉した全長は紐育の主

要線六哩三、ニウジアシー九哩四、合計十五哩七となる。

ブルックリン高架鐵道

合衆國の都市では色々改良された交通の方法がよく行はれるがブルックリン區にも又出來たのである。此の最初の軌道特許地をブルックリン區に許された時には人口二萬五千であつたが今日ではその管內の人口地が八十平方哩以上にもなり人口二百萬と算へられ、到る所發達し到る所人口增加しつゝある有樣である。そして此區も紐育市と同樣に馬車から鐵道馬車、汽車、高架蒸汽鐵道、架空線、街上及び高架電車、地下線と橋、と云ふ順序で進んで來た。而してその連續的に發達して來た交通の便が、未開の地方や、都市の塲末、工業地、住宅地、公園地等の開發に就ては、直接の先驅者となつたのである。

マンハッタン島の迅速高架線の第一次及び第二次の二回の成功を見てブルックリン區にも布設することゝなつた。そして千八百八十五年から千八百九十年の間には色々の線が出來たのである。ブルックリン區は千八百九十年に人口八十四萬を有してゐた。それらの線は夫々異つた會社の手で經營され、初めの中は不景氣な、人口も少い地方へ布設したのでお互に調子を取つて多くの困難と戰つて行つた、その時分はマンハッタンやブロンクス地の高架線特許地の樣な成功は夢にも思ひ及ばぬあはれな有樣であつたけれども此等の軌道が統一され一の有力な支配下に屬して以來、賃金を低減し、後には中央市衝地下鐵道の循環運轉によつて、マンハッタン迄の乘客の用を便じ得る樣になつたのが千九百十三年八月十四日の事である。之れはウヰリアムスブルグとマンハッタンとブルックリン橋を結びつけ、その時の次の國勢調査にはブルックリンの人口の激增を豫期されてゐた位である。高架線の裝置は改良を重ね、その事務は益々よくなり擴張された。千九百年にブルックリンの人口は約百十六萬七千八、千九百十年には百六十三萬四千人、千九百十四年には百九十五萬を

越してゐた。

移り住む地域が段々に擴がると共に交通機關に便利な方へ特にかたよつてゆくのが自然の趨勢である。今日ブルックリンには單線百〇五哩と高架線の五十八哩があるが、尙追加工事として現高架線の延長をなしつゝあるし、地下及び高架の百十哩を紐育市とブルックリン間に增設する見込で、紐育市當局と會社が共同して工事を起す筈である。

マンハッタン、ブルックリン、ブロンクス、クヰンス、リツチモンドの各區の迅速交通機關の將來は殆んど今の六百萬の人口を結合することだと豫言されてゐる。現在年々の人口增加二十萬の割である。即ち衞生局の記錄によると、毎四分間四分間に一人生れ各七分毎に一人死ぬ割合だと云ふことである、して見ると廿四時間には出生は死亡より百六十多いことになる。此は皆紐育市內だけに限つた範圍でのことである上記の增加の割合は千九百十五年に紐育市人口調査によるもので、紐育のシテイホールから十九哩半以內に住む人口七百六十八萬千五百四十六人であつたと云ふことだ。ブロンクス區は人口增加率は第一位を占めてゐる。現在此區は四十五哩の水路、七つの鐵道貨物終点驛、四千二百エーカーの公園高架地下蒸汽鐵道の五十哩、電車の百六十哩とがある。大紐育市のすべての區の面積人口、エーカー毎の人口增加及密度の比較は、最近の記錄による次の表の明になるであらう。

管區	面積	千九百十年四月國勢調査	千九百十四年七月の人口	四年間の增加	エーカー毎の增加率	エーカー毎の密度
ブロンクス	二六、五三	四三〇、九八〇	六四一、九八	二一、〇〇〇	四九	三三、九
ケヰーンス	八一、七一〇	二八四、〇四一	三八七、四四四	一〇三、四〇三	三六	四、六
ブルックリン	五一、七九七	一、六三四、九八一	一、九一六、六五五	二八二、三〇四	一七	三七、六
リツチモンド	三六、六〇〇	八五、九六九	九九、一八六	一三、七一七	一六	二、七

マンハッタン	二、三、三六	二、三二、五四二	二、三八、六〇六	二〇七、〇四四	九	一九一、九
大紐育	二〇九、八六五	四、七六六、八三	五、五八三、八七一	九二六、九八八	一七	二八、六

表に於て見られる差異の原因は明に迅速運輸の便益にあると云ふ簡單な推定を下し得るのである。又此等の市街は皆此安價な乘車賃金の便利な機關を備へてゐると云ふ事柄が、その人口の增加と建築物の發達によい結果を與へてゐるのである。それであるから廣がる可き地方は益々擴張され發展してゆく傾向がある。ブロンクスは地下鐵道と橋架と高架と鐵道を有し、クキーンスは新しいクキンスボロ橋を有し貨物の入口としてすべての電車に接續し、マンハッタンと直接關係を有してゐる。ブルックリンは多くの貨物の入口を有してゐながら表の上に示された結果を見ると第三位にあると云ふ理由は高架鐵道が貨物のキャパシテイの標準となる程迄に改良されてない爲である。それが爲に前に云つた通り近年之に多大の改良を加へ、尙改良に向ひつゝあるのであるから近い將來に人口の激增を豫期されてゐる。

リッチモンドとマンハッタンは未開の地多く特にリッチモンドは著しいので、其區の間には迅速交通機關はあるもの〻人口增加の点は甚だ思はしくないのである。けれどもブルックリンの第四街の下から、リッチモンド區の方向へ出でステイッンアイランドへ入る豫定の新しい地下線の運轉の將來に多大の囑目をしてゐるのである。マンハッタン區は表に於ても最下位にあるが、此理由は自ら明であると云ふのは交通機關が割合に貧弱であるのに對して人口過多の爲である。その上主要の原因は大部分の仕事は皆此地でなされ、しかもどん〳〵增加の傾向がある位で、下町も、山の手も皆事務と娛樂の中心地が出來て住宅は事務建築や行政建築の改良の爲に驅逐され、結局多くの市民は地形上の計畫の爲に止むを得ぬのでマンハッタン島の東部か西部に散在小さな空地を探し求めなければならぬ羽目になつたのである。或物は近くの區へ移

動して行つて住つたが、それも大抵は交通便のよく運賃の安價な方へ向いたのである。

人口の現象的增加は現時ブロンクスに於けるすべての狀態に關係があるので、取引の狀態を見て迅速交通機關の完成と同時にどれ程人口が增加したかをよく知ることが出來ると云ふことだ。千八百八十年から千八百九十年の十年間に、人口は八萬九千に增加し、千八百九十年から千九百年迄に二十萬を越した、千九百年から千九百十年には四十三萬以上になり今は六十四萬の人口になつたのである。建築と人口は新しく迅速交通の便が出來ると同時にすつと增加し、古いものゝ改良も行はれたのであつた。千九百〇二年以來建築の經營は盛な記錄を作り未開の土地を如何に覺醒せしめたかは迅急交通機關の便利の結果を次表に於て見るとよく明ると思ふ。

今茲にはブロンクスに就てのみ特に示したのであるけれども、の現象的で早い進步は大紐育に於ける迅速運輸問題を起させた貨物輻輳の主要原因の一であると見られる。歷史は繰返さると言ふが不變の事實として町も市も管區も何所も此迅速交通機關が採用され、或は在來の運輸便に改良が加へられた。そしてその地方を築き上げる直接の効果が見られた。財政上の價値もそれにつれて向上され人口も增加し從て人の乘車度數も增加した。紐育市內の名新しい方面へと此機關が布設され非常に乘客が增し、取引狀態に改良が加へられたことは僅かでない。

千九百十四年紐育市は種々の建築物三十七萬五千〇三十七戶を有してゐた、それを區に分けるとマンハッタンが八萬四千八百四十九、ブロ

年	人口	新家屋	價格
1890	89.000	記錄ナシ	弗 記錄ナシ
1902	227.544	818	6.211.054
1903	241.788	802	6.537.859
1904	256.924	1610	21.061.910
1905	273.781	2242	38.186.720
1906	300.973	2284	28.648.030
1907	330.866	1998	21.271.449
1098	363.728	1812	19.861.225
1909	399.853	2255	37.163.110
1910	439.551	2138	46.884 055
1911	483.224	1346	22.536910
1912	531.219	1285	33.845.325
1913	583.981	846	20·072.489
1914	641.980	735	16.347.382
1915	705.742	.....	.....

ンクスが三萬五千百六十三、ブルックリン十七萬二千三百八十、クキンス六萬二千五百二十五、リッチモンド二萬百二十、と云ふことになり、マンハッタンのみ八百十三戸の事務建築を有してゐると云ふことは結局マンハッタン區が日々の貨物の移動を掌握し支持してゐるのだと云ふことを示してゐるのである。

乘合自働車

紐育市では乘合自働車が電車と對抗す可き程の位置にあるもので、十九世紀の初めに紐育に運轉してゐた乘合馬車の形式の跡方とも見らる可きものであるが、古の馬車とは全々比較にもならぬものになつてしまつた譯である。併しながら以前乘合馬車が旅行した方法が進歩した極致を示してゐるのである。フイフスアヴエニウコーチ會社は千八百九十六年に併合されて他の會社の後をついだが現今迄紐育市では唯一の乘合自働車の經營者であつたのである。千九百十二年に八十一台の自働車を有し、それらは大抵二階になつてゐて、全体の席數を合算すると二千七百二十人を收容出來た。そしてマンハッタン區内の大通道路を合せて全距離約二十哩に及んだのである。公衆の便利になる程度も可成多いし賃金も相當であるから電車のよい競爭者として考へられるのである。併し之は散策の人や見物人に對して丁度よい供給であると云へるのであつて、見物人の爲に會社が作つた道は興味ある個所に沿ふて面白く布かれたので乘客の見物には仲々都合がよい。マンハッタンの最下端即ちサウスワシントンスクエアから出發して、見物に興味ある樣な道に沿ふて北進する。又見物の人々は沿線の最もすぐれて面白い場所や町を見ようとして來るのである。特に紐育市に重大な事柄や大きな式典でも擧げられる時にはその需要が多きいのである。此線はホドソン河と平行のリバードライブに沿ふてゐて最も景色もよく水流の面白味も味ひ得る。此自働車線は新しい立派なペンシルバニアステーションに連絡する樣に道を取つてあるし、セントラルパークに沿ふて進むと、公に提供された八百四十三エ

ーカーの場所に色々の娯樂を求めることが出來る。會社は昨年（千九百十四年）の事業に於て漠大の進歩を示した。千九百〇九年以來の乘客の表によつて示される通りである。千九百十五年會社は百五十台の自働車を運轉し、皆二階で二倍大のものを用ひ一台三十四人を收容し下に十六人上へ十八人をのせた。もう一つの型は四十五人の收容人員で下へ二十三人上へ二十二人を乘せ、乘車賃は均一十セントであつた。

年度	乘客數
一九〇九	三、六〇九、三〇四
一九一〇	六、三〇五、一七五
一九一一	五、九九七、三七二
一九一二	六、三三九、〇七二
一九一三	八、七四九、六一〇
一九一四	二、二七六、四三〇

千九百〇九年から千九百十四年迄の此會社の乘客人員數を右の表に示してゐる。フイフスアベニウ會社の自働車は最近ホドソン河へ合衆國大西洋艦隊が碇泊した時には其間に七十壹萬を運んだと云ふ。當會社の十日間の乘客の確實な數は七十萬五千五百十二で、一日平均七萬人以上であつたのである。此時の割合は會社の統計によると普通の狀態の下にある時より五十パーセントの增加であつたと云ふとだ。

市街線

大紐育市の市街線は千八百六十年迄は大した發達は見られなかつたが千八百六十年頃になつてもつと市街線としての交通機關の必要を感じ、其年にグリッド、アイアン、アクトとして知られてゐる條例が通過して市中の多くの十字街に於ける市街線の線路の構造に制限を加へたのである。而して線路の增加は急激で年を逐ふて盛になつた。千九百十五年パブリック、サービス、レポートに記載されてゐる所によると、千九百十四年六月三十日の調べで地下、高架、市街の各線合せて十五萬七千六百四十七哩の線路があり、同年の乘客總數十八億千三百二十萬四千六百九十二人の客を運んだと云ふことであるつまり一人に就き三百三十七回の乘車をした割

になる。市街線のみで、マンハツタでは二萬六千百四十五哩の線路、ブロンクスが二万一千百七十六哩、クヰンスが二萬一千七百六十四哩、リツチモンドが六千二百三十哩、ブルツクリンは全体で六萬二千七百五十九哩と云ふことになつてゐる。マンハツタンの線は殆どすべて一會社の手によつて經營されたけれども全体として街の交通の要路を掴握してゐた。運轉は電力運轉の最も改された方法によつてゐたし、車輛は最も科學的でうけのよい型をとり最近に又改良された。電氣誘導の方法は特に紐育市の他の狀態に適應する樣にされてゐた。紐育市の市街線の車輛の進行方法の發達順序は馬ならケーブル蓄電池、壓搾空氣、ガソリン最後に電氣誘導と云ふ順に、他の大都市に於ける進歩と殆ど同じ狀態である。紐育市の市街線の動力の變化の種々の時代に就て書いても興味ある問題である。各線の推進力の變化は茲に擧げる余地もないが一般の狀態として云ふならば、千八百九十四年から千九百九十八年の間のマンハツタン南北各線の變化は馬からケーブルにうつり、千八百九十七年から千九百〇二年の間に、之が電氣のサブ、トロリー、式に變つた。之は法律が頭上にトロリーをつけることを許さなかつたゝめである。而して此最後の變化が後に述べる如く高架線に重大な關係ある問題になつてゐる。

紐育市に於て迅速交通機關問題及び他の交通の問題とは他の都市に於けるより以上に解決に困難を感ずるのは明なことであるから、ローカリティに重きを置いて人口的に、又理論的に事業の中心となる地方としてマンハツタン島を特に詳述した。マンハツタン島は乘客交通の運動の源であり、近傍の活動的の管區とは遂には分れて獨立する樣に發展しつゝある。交通問題は毎日起つて來るのに解決は益々困難になつて來た何故ならば狹い制限された島の範圍に於てゝはあるし、又公衆の要求も偏してゐるからである市街の必要な色々の條件が公衆によつて呈出されれる、がそれが道理でも不合理でも殆ど不可能な位である、交通問題に就てもそうであるが、人民の其なやみが集つた運動は、あらゆる方向に進み結局は落付所がない始末である。（未完）

雪と建築

會員　木子七郎

はしがき

何事にも程と云ふ事が大切である樣です。「過ぎたるは及ばざる如し」と權現樣も申された通り、雨乞が過ぎて洪水を齎らし、焚火の惡戲が大火の因となる事は、往々世にあるならひでありますが「雪見に轉ぶ處迄」位の雪ならは、一興を携へて東山三十六峰の薄化粧に出掛る氣にもなりますが、扨て家を埋め、河を堰く程の大雪となると、風流や酒所でなく殺風景極まりないものとなります。

水攻め火攻めの春秋を過ぎて大正六年の暮になつて、北陸一帶近年稀有の大雪害を蒙り、新年早々東海道線亦不通の不幸を見ました、其災害の及ぶ所は、到底温暖地方民の想像の外であつて、私は本年になつて、彼の地方へ出張中、二度目の交通機關の途絶の爲に計らず雪害の眞想を知る事が出來ました。此度の大雪は元より稀有の現象であつて、彼地の古老も舌を巻いて歎息した位いでありますが、交通を阻害し、物資の供給を途絶せしめ、家屋を倒壞し、人命を奪ばふ樣な積極的の損害の外に、避難防害等の消極的損耗を生せしめ、更に戸外運動の勇氣を消滅せしめ、遊惰の民を造る結果を生みました誠に國家の大損害と言はねばなりません。北陸の人天を仰いで曰く「降る雪が、砂糖か塩であるならば、大成金が、國中に湧く」とこれや既

大乘寺本堂屋根の破損

大乘寺本堂妻の破損

金澤市乃木堂（屋根及天井の破損）

乃木堂屋根及び天井の破損
（屋根裏の如く見ゆるは假設屋根なり）

金澤市街の積雪









に消極的の思想の發露せるものと見る事が出來ます。

茲に雪と建築と題して報告いたしますのは、私が金澤地方の所見と感想とを述べるに過ぎないのでありますが、同時に一般の情況の御推測をも出來るかと考へられます。

■ 交通の途絶

大正六年十二月廿五日頃から降り出したる雪は、北陸線の木の本以北を埋め盡し、最も激しい時に

柳ケ瀨　九尺　　敦賀　五尺
杉津　五尺　　大桐　一丈
今庄　八尺　　鯖江　六尺
福井　四尺　　金澤　四尺五寸

といふ風に積りました。到底人力で交通を開といふ事が出來ない爲め、鐵道院では「ラツセル」汽鑵車を使用して、人夫幾百人を貨車に乘せ、突破計畫を立てゝ、除雪に從事しましたが遂に一週間に亘つて、尚全通する事が出來なかつた、斯くの如き事は近年全くない話で、沿道の支線や、温泉電鐵、越前電鐵等皆交通斷絶して、歳末の大切な場合に、進退谷まつた多くの旅客が、空しく敦賀邊に數日を籠城したさうでありますが、勿論敦賀、福井、金澤等の市街地區では、除雪の困難のために、市内の交通途絶し、近郊諸村落等皆交通遮斷の悲運に相遇したのでありまして、如何に各種各方面の損害の大勢を窺ふ事が出來ませう。例へば市内に在つては、積雪二尺以上となりますと、家屋が持ちませんから、危險を防ぐために、什うしても除雪を始めなければなりません。往來へ積つた雪が相當の量に加へて、両側の屋根から落す雪のために、大切の往還はわらい雪の連山が出來上ります、從つて愈々窺狀に陷るのでありますから當者局は命令を下して、街道の中央に交通路を穿たしめまして、或町では路面の見わる迄、やかましく手を加へました處、意外にも却つて物資運搬の橇を使用する事が出來なくなり、益困却したといふ、滑稽もあります、寫眞に御覽になります通り、往來に積み上げた雪の壁は、両

側の民家の軒を沒する有樣ですから、住民の困厄窮狀は、倒底暖地の市民には想像の外であります。大阪などでは一寸も積ますと各商店では店前の雪を排いて雪達摩の一つ二つを造りますが、其所へあの樣な雪の連山が出來上つたら什うでありませうか、面白い處ではありませんと思ひます。

物資の供給阻害と其影響

交通が途絶したので、物資の供給は平衡を保たれないのは當然であります。京阪地方から供給を受けて居つたのは勿論、市外より日々の野菜さへも運ぶ事が出來ず、生活の上に大逼迫を起す樣になりました、從つて物價の大暴騰となりました、縣市當局は夫々調節令式の取締を斷行しましたけれども、奸商の射利のために五割十割の暴騰は止むを得ない現象をあつて、人夫の供給は全く異狀を呈し殆んど奪ひ合ひの有樣となり、平日六七十錢位の雇人夫が一圓五六十錢でも應じないといふ位で、下級民の困難はいはずもがな、資產家の連中も大に苦しめられたのであります、一例を申せば糞尿汲取りの如きは市中一般に從事するものがなく、黃金山積といふ醜態、否臭態でありました。

そればかりではありません、市內村落を問はず、家屋の危險を防ぐ手段として、屋上の積雪を排除するの必要に迫られ、各戶共排雪人夫を雇ふて連日作業せしめるために、多額の失費を要します、況んや家屋の損所の修理もしなければなりませんから、平均一戶に就いて五圓內外の臨時出費を雪のために餘儀なくせられるのでありますから、金澤市丈でも三萬戶として十五萬圓の損害を蒙るに至つては、雪害の甚大な事は非常なものであります。

家屋の倒壞、破損、人畜の死傷

金澤の一般民家は御承知の方もありませうが勾配の緩い板葺屋根に配列よく經五六寸乃至一尺位の玉石が乘せてあります。一つには強風のために板を吹飛ばされるのを防ぎ、二つには雪を阻む爲めの大切な効用をして居ります。大体に於て粗末な民家は積雪二尺になりますと、戶

障子が動かなくなつて雪下しをしなければならなくなります、一晩に三尺も積る様な時には除雪の手段を講ずる間もなく羸弱な家は全壊の憂き目を見るのでありますが、これは全く柱が積雪の重量に堪へなくなつて來るのであります、

此の外北國では雪崩（ナダレ）のための損害が非常であります、一晩降雪の翌日、晴天にでもなりますと温度のために積雪の下層が解けて來て、屋上の雪は辷り落ちて來ます、其の豫防のために雪止として玉石を載せて居る習慣があり、又新しい建築では鐵物を使用して雪止めの装置をやつて居ります、瓦葺の民家では板を横に使用したり、或は特別な瓦（凸起のある異形瓦）を使用して之を防いで居りますが、此等の豫防方法も積雪の量の如何によりては見事に破壊されてしまい、屋上の雪は非常の勢で滑走を始めます。從つて高い建物の附近にある民家は此の雪崩（ナダレ）のために思はぬ損害を蒙るのであつて、住宅の下屋の如きは本家の雪崩で大体破壊されます。

此の雪崩（ナダレ）の被害は恐ろしいもの丶一つであつて、屢々山麓にある様な村落は、山の積雪の落下によつて全滅の悲運に相遇するばかでなく、一時に百餘人の死傷者を生ずる事があります、此度の雪害にも富山縣下に於て大分猛烈な慘事を報道されて居りますが、金澤附近でも簡單な小雪崩に人畜の死傷は可なりの數に上つて居ります。杉浦町の或民家では、本屋から落下した積雪が、下家の中で炬燵に樂しく語り會つて居つた親子三人のものを、無慘にも壓死せしめたのであります。又往來が通行出來ぬため市中では各商店の軒下が一種の人道になりますので、此の處へ辷り落ちた雪が下家を破壊して通行人を埋めた例もあります。

でありますから一金澤市の損害でも非常な額に上つて居りますが他は推して知るべしで、我々建築の專門家は何とか之れが豫防策か耐雪家屋の奬勵を講ずるの必要を認めますけれども、斯の様な不時の大雪害は到底人力の如何ともすべからざるものがありまして、耐雪家屋といふ様な理論上の研究よりは都市全体としての抵抗

力を養はしむる必要がありはせんかと考へて居ります。

今金澤附近に於ける損害の程度を擧げて見ますと

一、金澤市の人口（最近）十二萬七千九百四十四人

一、金澤市の戸數（最近）二萬九千四百五十戸

一、大正六年末より現時迄倒壞せる家屋數

市內、全壞二十八、半壞五十六

縣下、全壞百八十八、半壞百二十五

一、同上死傷者數

市內、死者四　傷者三

縣下、死者五十三　傷者十二

一、主なる損害家屋

乃木堂　屋根天井の大破損

大乘寺　同上

裁判所　屋根一部小破

十二銀行　同上

金澤倉庫　同上

尙石川縣保安課の調査によりますと、大正六年十二月二十四日より、大正七年一月二十四日迄に於て大樣左の如き損害を受けたのでありますが、此の調査は往還より視察し得たる丈の數であつて、實際は約二倍に達するといふ事であります。

種類 / 市郡別	死者	傷者	住家全潰	住家半潰	其他建物全潰	同上半潰
金澤市	四	三	一五	一四	一三	二
石川（郡）	一七	一五	一七	一七	一四	四
能美同	三〇	二	三六	一六	一五	九
江沼同	二	二	一〇	六	五	二
河北同			二	二	一四	
羽咋同	二	二	三	一三	五	一
鹿島同			二	三		
鳳至同	二	一	六	一七	八	二
珠洲同			一	三	一〇	一
計	五七人	一五人	一〇二戸	一六〇戸	一四戸	二戸

建築家に與へられたる教訓

「鄕に入つては鄕に從へ」といふ事はよく云はれますが、此度の雪害に徵しても、雪國の建築は雪國を知つて後に設計すべきであるといふ事を敎へられます。雪に限りませんが、吾々建築

を實施すべき地方の天然や氣候や風土を或程度迄理解した上でなければ、輕々しく設計は出來ないものと思ひます。「百聞は一見に如かず」であつて、人から聞いた事、注意された事柄でも想像と實際とは大に掛離れて居ります。

金澤市では年々相當の雪害を經驗したる結果數年前屋根を瓦葺にすべき縣令が發布されてありました。

勿論市民住家を悉く取締る方針であつたのですが、只今の處で先づ半數は瓦葺となりました、從來、木造板屋の上に玉石を乘せて居つた貧弱な家屋を改善せしめい希望であり亦防火的考慮をも加へた譯でありますが、此度の雪害で見ると、瓦葺の損害は可なり多かつた樣であります。雪止用として特種の瓦を用ひたものは其突起して居る部分が大低破壞して居ります。これは瓦の製法がまだ不完全のためであります。それから普通の瓦を用ひたものは要所々々に雪止め用の鐵物を取付け、塲合によりては板を使用して居りましたが、其板は大低雪の辷り落の際に破壞されて了つたし、鐵物を使用したものに在りては、全体の瓦が剝脫して了つた。それから瓦の多孔質のものに在つては寒氣の爲めに冱(イテ)て了つて居ります、北國ではそのために藥掛の赤瓦を使用して居ります。從つて市民の一部にも縣令强制の將來に一つの暗影を認めて居る樣であります。「スレート」は新しい建築には大分使用されて居りますが、塔屋の樣な急勾配の部分を除いては、あまりよい成績ではない樣です、それは荷重のために割れるのであつて、多孔質のものに在つては、寒氣の爲めに冱(イテ)るのが多いのでありますから、雪國には考へものかと思はれます。溫暖國でも屋上に素人が乘れば忽ち踏み割つて終ふのに、雪國ではどうしても雪積の排除のために多人數が乘つたりするのでから面白くない樣であります。

鐵板或は銅板葺の屋根に在つては、割合に成績がよいのでありますが、積雪が雪止金物に支へられて下層が解け始めるとなると水は逃げ塲

がなくて逆流し、剝ぎ合せから屋根裏へ浸入するの憂があります。雪止鐵物も柵が込み過ぎると、雪塊を支へる量が多くなつて屢々解水の逆流を引起します。

それから軒先の出の多い建物は、大低雪崩のために損害を蒙つて居ります。金澤では地方裁判所の軒先や、區裁判所の軒先は大に損害を受けました。日本銀行の金澤支店の建物は雪止鐵物を破壞されて居ります、[形の鐵物は鉛の様に垂れ下つて了つたのであります。又大乘寺の本堂は瓦葺の屋根でありましたが、切妻や軒先の處に大損害を受けて居りまして瓦葺は甚しく剝落の憂き目に遇つて居ります。

木造の民家に在つては、一晩に積雪三尺餘を負ふて、之の荷重に堪へられないで全壞の悲運に遭遇した住宅が可なり多いのでありまして、元より家屋構造の修理を怠つたものに多いのであつて、近郊の豪家などで多年の雪害に抵抗して來た經驗を誇つて、修理を忘れ、積雪の排除を怠つて今度全壞した家が多い樣子であります

これ等は半可通の經驗が災害の因をなしたものであつて、注意すべき現象の一つであります。

雪國の建物だと申しても我國の現狀では、大した耐雪家屋のある譯でなく、多年の經驗で姑息な手段を講ずるの外はない爲めに此度の樣な不時の被害を受けたのであつて此際大に將來を考へる必要があると思ひますが、多くの木造家屋は雪解の時機に於て、基礎に近い部分が常に濕氣を受ける爲めに柱の下部や土臺は早く傷められて居りますから、不慮の荷重のために豫想外の失敗を招いた家屋が多いのであります。

建物の外壁や塀垣の被覆に用ひらるゝ「モルタル」塗は大体失敗に終つて居ります。それは寒氣のために被覆と壁の間の水分が凍つて、被覆を剝落させたのであります。從來の板張の家屋は此の点について相當の効果を擧げて居りますが、洋風下見張の壁も、此國では大いに成績がよい樣であります。

以上を要するに、失敗せる建物に二樣の別があります。從來の風習に從つて居つた建物は小

さな損害のない代りに大損害を受けて居り。雪國の經驗を無視した樣な建築にあつては大損害を受けなかつた代りに局部々々に小損害を蒙つて居ります、從つて、將來の耐雪家屋に相當の暗示を與へて居る事と信じますが、吾々は雪國に建てる建物には其地方の風土氣候の相當の理解があつて欲しいと深く感じたのであります。

結論

何事も結果を觀て一驚を喫する事が多いと同時に苦い經驗は將來のためには良い敎訓を與へるものでありませう。從つて私は今回の雪害を視察しまして得たる感想を綜合して茲に愚見を述べて見まするとと

第一に都市全体に亘つて改善策を講ずるの必要を認めない譯には行きません。從來吾國の都市は多く往還が狹いので今日の樣に交通の頻繁時代には夫々擴張改善の實を擧げて行かねばなるまいかと思ひます。殊に雪國に在つては屋上の積雪を搬除するの必要から、往還は交通の途絶を餘儀なくされます。まして金澤市の樣に街路の中心に路を穿つためには、非常の勞力を要するのであつて、積み上げた雪の山を更らに穿つの苦を味ふ事になります。でありますから、交通の要路丈は是非道路の巾を擴張して、不時の際の途絶を防ぐの用意があつて欲しいと思ひます、停車場から都市の中心地へ或は主要な官衙から商業地への要路等は是非改善の實を擧げて置く事は都市としての將來を慮る策であろうと思ひます。

第二には商店の軒並びの町に在つては、元より道巾の擴張も一策でありますが、各戶の軒下が人道となるの經驗から觀まするとと、店頭の下屋を丈夫にして、外國の市場の樣に拱廊（アーケード）又は柱廊（アーケード）として置くが最も適切な方策と思ひます。若し此等の步廊を設けて置くとすれば雨天の際に市民の便利も如何ばかりかと思ひます。臺灣の樣な熱帶では暑氣を避ける目的で此種の建築を建てゝ居りますが、光線の少ない雪國では反對に特別の理由から此種の建築を勸めたいと思ひます。

第三には建築條件の發布並ひに取締規則の實施を一日も早く勵行して、危險性建物の改築を命じ、進んで都市全民の安寧のために、積極的な方策を立てて、不時の場合の用意を平常準備して置く事を忘れてはなるまいかと思ひます、物貨の騰貴は不慮の事變に伴ふて止むを得んにしても、連年の災厄に苦しむ市民が公德のために緩和策を平時に研究して置く事が必要である事と深く信じて居ります。

第四に耐雪家屋構造の研究でありますが、これは建築法の取締と同時に相等の手段を用ふるの必要を感ずる次第であつて、元より貧弱な我國の都市を一朝にして、煉瓦造や石造にする事が出來る譯のものでないにしても、民家の第一層丈でも不燃失物で築造し、防火と防腐と防寒と防雪等の實を擧げ、一面市民の經濟的發展に資する事が出來たならば、將來に亘つて起るべき都市膨脹の大勢に應ずる事が出來得ると思ふのであります。

朝鮮や支那の住民が、幼稚ながらも或程度の不燃失構造を建て防寒の用意にも防火防腐防雪の準備にも應じつゝある事を考へて見ますと、我國民は擧つて研究を開始すべきであると思ひます。

最後に交通機關の途絶については將來果して如何にすべきやといふ事を鐵道院當局者は無論研究して居る事でありませうが、此の天然の迫害はあまりに偉大であつて、人力人智の如何ともすべからざる底の觀念を吾々に與へるのでありますけれども、斯くの如きは遇々天の警告と觀るときは、今日吾國の交通機關の現狀を何處迄も改善して半身不隨の窮狀を一日も早く脫却せしめなければならぬ事を敎へて居るものと解譯し得ると思ひます。淀川の氾濫が交通機關の不備を遺憾なく曝露した樣に、關ケ原米原間の途絶の如きは寧ろ大なる喜ばしき敎訓ではありますまいか。北陸地方の住民は是非とも唯一の交通機關の完備を要望する必要があります。天災は幾度でも來れ、更らに人智の能力を發露しラッセル式以上の排雪裝置を工夫して、將來に備ふる丈の覺悟があつて欲しいと思ひます(終)



大阪市の細民住宅に就て（二）

會員　K. U. 生

近時の大阪市の細民住宅。明治の仁政は一視同仁鴻恩普く士民に及び、穢多非人の稱も癈せられ、（明治四年當時の調査によれば、穢多の數は二十八萬三百十一人、非人二萬三千四百八十人、皮作其他七萬九千餘人、總計三十八萬二千八百八十餘人）町人家守の掟ものぞかれ、萬民一途皇國の隆運にそひ、人文日に進み、大阪市もこゝに封建時代の執拗なる束縛と因循なる慣習を離脫したのである。

地理上に於ても、また經濟上に於ても既に最も有利なる地位を占めたる大阪市は、一躍世界の商工都市として躍進すべき時機到來し、交通機關の完備、駸々たる產業の發展は年と共に都市の民衆吸引力を益々大ならしめ人口の聚積は漸々增加し、過去三百年の大阪の輪廓は瞬く間に破られ、澱河の口を擁し、攝津の平原に遠慮會釋なく尨大し、更にその底止することを知らざる勢である。

都市の膨脹は現代の趨勢にして、一面商工業の發達を意味し、また經濟的繁榮を示するである、然しその反面に於ては、急激なる膨脹は常に市民生活狀態の進歩を伴ひつゝありや、實に疑はしい事は世界の大都市に於ても既に認められて居るところである、

暗澹たる煤烟は上空を掩ひ、曲街陋巷は蒼白燋悴の顏色にみち、累々たる合壁數十の裏家は

蜂窩蟻垤の様であることは、この大阪ばかりではなからうと思ふ

都住の生活は闘争の生活であると言はるゝごとく、各その職分に應し、天與の眞情を發揮し家庭の眞趣味を解し、勤勞により生活の餘裕を求むるが如きは思ひもよらず、日夜衣食に逐はれ心中常に不安の念に馳られつゝある、近時大都市の細民程悲慘なるものはあるまい

大阪の細民は五萬と言ひ、十萬と稱へ、近時の生活難は益々その範圍を擴大し、從つてまた人員も著しく增加したのは事實である。

細民家屋の實測は、その生活狀態の調査に伴ひ、當然起るべき問題にして、明治年間に於ても、その範圍の奈何に關せず、幾度か如何なる方面かに於て、企てられたに相違ないと思ふ然し今日その調査報告等の類を手にすることの未だ充分に出來ないのは實に殘念である。

然し乍ら內務省地方局が、明治四十四年度の第一回細民調査より、大正元年十月に至る數回の調査は、各方面に渉り實に精密にして、殊に住居、居住に關する部門迄をも設け、幾多の條目に分ちて、一々これを考査統計比較したるが如きは、この種の調査としては實に至り盡せりである、細民家屋の實狀を知るに唯一の資料たるは勿論、また調査の標準方法形式等の如きも今日細民住宅を更に知らむとするものに、多大の便益を與へつゝあることは言ふまでもない。

從てこゝに、この權威ある調査統計の一部を借りて明治大正に渉る大都市に於ける細民住宅の一端を述へたいと思ふ

細民の標準として、東京及大阪兩市に在りては、特種小學校に兒童を就學せしむる資格者及之に準すべきものを謂ひ、大略左の各項に該當する者を謂ふ。

(一)所謂細民部落に居住する者

(二)主として雜業又は車力其他下級勞働に從事する者

(三)一ケ月家賃三圓以內の家屋に居住する者

但し場所及所帶の狀況に依り夫れ以上の家賃を拂ふものと雖適宜斟酌すべきこと

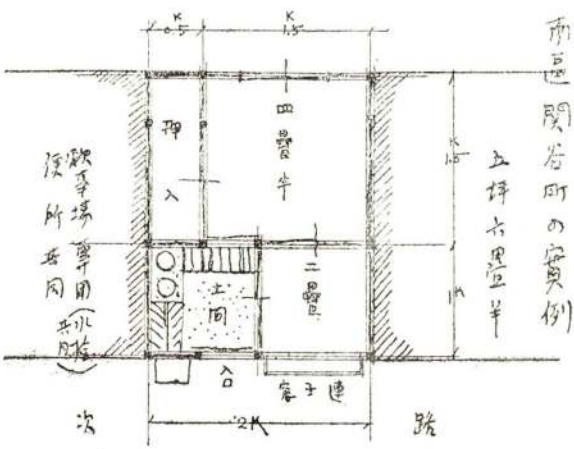
(四)所帶主の職業上の收入月額二十圓以内の者、但し場所及所帶の狀況に依り夫れ以上を收入するものと雖も適宜斟酌すべきこと。

以上の標準を以て大阪にては、難波警察署所管内難波、日本橋、今宮、木津、西濱等の地區につき總人口、職業、配偶者、所帶、罹病者及兒童に關し、各種の方面より審査統計したるもの八十頂以上、最後に家屋住居等に關し十六頂の統計を記載して居る

○町所帶數及体性に依り分ちたる人口並に平均一所帶の人員

	所帶數	人員 男	女	計	平均一所帶人員
難波	二一四	四九八	四七五	九八七	四、五
日本橋	三三五	七四一	七四八	一、四八九	四、六
今宮	四一七	九一六	一、〇六一	一、九七七	四、七
木津	六四七	一、五五四	一、六〇八	三、一六二	四、九
西濱	七八	一六二	一七六	三三八	四、三
計	一、六八一	三、八七一	四、〇六八	七、九三九	四、七

内現在世帶數は千六百五十九戸、人口七千四百五十五人にして、尙本世帶千百〇三戸同居世帶五百五十六戸である、而してその所帶主の職業は、被服及身廻品の製造職工（下駄類製造）及獸皮の變形處分に關する業務（皮革の製造職工）等がその重なるものにて、船乘業者の月收



十九圓六十一錢を最多額の收入者となつて居る

○家屋構造に依り分ちたる所帶

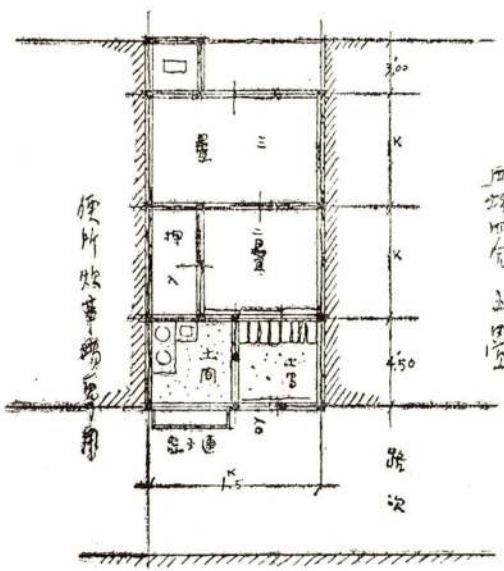
平家建					
一戸建	普通長屋	棟割長屋	共同長屋	計	
二一	五六一	一七	一	六〇〇	
二階建					
一戸建	普通長屋	棟割長屋	共同長屋	計	
一〇	一、〇四八	一	一	一、〇五九	

所帶總數以上二ッを合して一六九九その九分九厘迄は長屋住居にて內二階建家屋に住居るものが百分の六三、八の割合に當つて居る

○室數に依り分ちたる世帶

室數	一	二	三	四	五	六	七	計
	六九四	四八五	三七七	八七	一三	一	二	一、六五九

細民長屋もとより室數の裕なるもの、ある筈がない、所帶に應じ仕切を取放したもの、雜作讓受けの資力なきもの等、室としての區分が甚だ明瞭を欠いで居る場合が多いのである、本統計にては硝子襖の建附なきものでも敷居鴨居の類があればこれを別室と見做されて居る、そうしても一室及二室の所帶が全体の七割一分を占め、尙



○室數に依り分ちたる所帶

疊數一	四	疊數四	五〇	疊數七	一〇六
一、五	一	四、五	七二	七、五	一三八
二	九四	五	五八	八	六五
二、五	三	五、五	四七	八、五	二一
三	一七七	六	二三〇	九	三二
三、五	一五	六、五	二六	九、五	一八

によれば八疊以下（疊を用ゐざる室は一坪を二疊と計算して）又過半の所帶が多く數雜糅居住して居るのである。以上は所帶數と家屋面積との關係を示したものであるが尙その容積に就ては

○家屋構及床上の高さ又は床下の高さに分ちたる所帶

床上の高さ	平家建	二階建
六尺まで	一七	七九
六尺五寸迄	一五	四五
七尺迄	四八	五五四
七尺五寸迄	四五	一四四
八尺迄	一三〇	一九四
八尺五寸迄	二五	一二
九尺迄	一〇	二七
九尺以上	一〇	四
	計六〇〇	一、〇五九

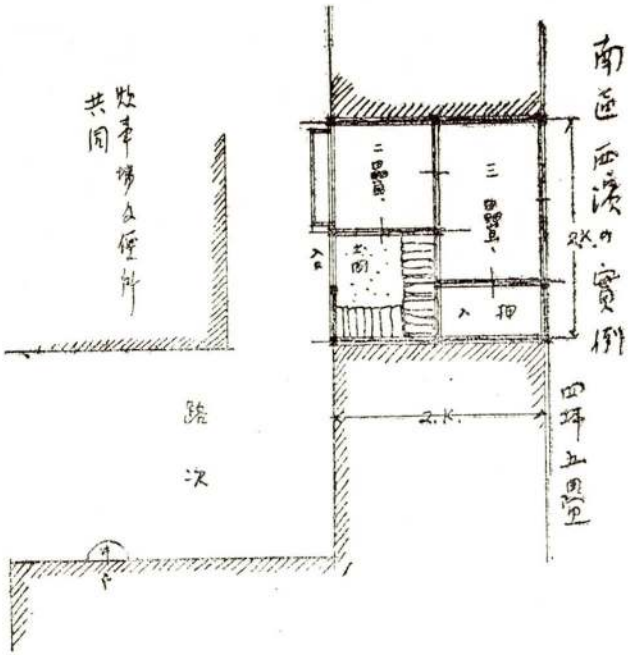
床下の高さ	平家建	二階建
一尺迄	四二	七七
一尺五寸迄	二八三	五七五
一尺五寸以上	二七四	四〇七
不詳	一	
	計六〇〇	一、〇五九

床上の高さは室內床上より天井迄の距離にて天井の無い家屋にては屋根裏迄の寸法である、また床下の高さは居室の床より地面迄の概略寸法であるらしい

屋內面積とその高さの乘積たる小室內容積と所帶との關係は細民住居の研究に見逃すべからざる重大問題の一つである、然るに本調査に於ては實測算定の困難なりし爲のみではなからふが、これを缺いで居るのは實に遺憾の至りである。

現住人員平均一人の占有する氣領に依り分ち

たる所帶は、東京本所深川の二千八百四十五所帶に對する統計によれば、一人百立方尺以下の



もの三百二十三所帶、百五十立方尺迄のもの六百四十四所帶、二百立方尺迄のもの五百九十所帶、合計千五百五十七所帶にて、調査全所帶の約五割五分を占めて居る。かく疊一疊にも足らぬ天地に蹲踞して日夜悲慘なる生活を營む實例は我大阪市内にも決して尠なくないのである。

○炊事場竝に便所の專用共同の別に依り分ちたる所帶

炊事場　專用六六九　共同　九八八　不詳二
便　所　專用二六三　共同一、三九四　不詳二

炊事場と便所とは小規模の住宅になる程常にその取扱に苦む、殊に下水道の完成しない今日では、その處置の當否が細民住宅改善の一半を占むると言ふ事を憚からない、大阪の細民住居に附隨する炊事場及便所が何れも共同が過半であつて東京のそれが何れも專用の多いのと全く反對の數字を示して居るのは、大阪の細民住宅のために大に注目すべき事柄であると思はれる

（未完）



官公署に於ける建築課の獨立

會員　池田實演

（於二月例會）

本會の例會を利用して、講演會を催すことは今夜は第二回目でありますが、時間の許す限り有志者の飛入講演は望ましき事であろうと思ひます。尚又顔の違つた者が夫々各方面の材料を提供する事は、たとへ夫が一局部に過ぎる様に見へる事柄でも、總体に於て各種多様の話が聞かれ、御互に啓發される効果のある事と信じます。私は今夜は別に此の演壇に立つ計畫をして來た譯ではないのでありますが、一寸思ひ附いた材料がありますので、特に進んで御話をする譯でありまして、元よりまとまつた意見でもなければ、大した議論でもないので、唯平素の所感を此の機會に開陳する次第であります。

今日では建築家の數も大分多くなりまして、各方面に夫々活動をして居られ、世間でも專門建築家の地位と實力とを認める様になつて來たのみならず、建築家も各自の責任と任務とを自覺しまして、斯界のために献身的の努力を捧げる事に、忠實な研究をする様になり、或は吾協會の事業の様に多數の力を集合して社會的運動を起して、堅實なる發展を遂げんとする様な眞摯な努力を發始する様な機會の到來しましたのは御互にとりても亦社會にとりても、最も歡迎すべく、亦喜ばしき現象といはねばなりません。

乍然今日官公署に於ける建築家の地位は、尚未だ舊套を脱せずして、あまり重んぜられて居

らぬのは什ういふものでありませうか、これは種々の原因がありませうが、御互の努力の足らぬのも一つの原因でありませう、又社會が建築家の任務を認めないのも其理由の一になりますが、實際は國家に對する建築の重大な意義と任務とを社會全体がまだ〳〵理解せぬ爲めであると思ひます。それ丈我國の現狀が歐米諸國に比較して立遲れて居るのであると考へられます。

歐米諸國に於ける建築家の地位並びに其任務は、社會的に相當に重要視せられて居るのみならず、例へば都市計畫の如き、新舊市街の整理擴張の如き、公園、橋梁、護岸、築港、交通機關等の新設、改築に際して殆んど建築家の參與せぬ事はない位に任務と權威と實力とを認められて居ります、我國の現狀では、公園の設計は林科出身の博士が擔當して居らるゝ樣でありますし、橋梁の如きは殆んど土木家の手に成つて居りますしかし都市に於ける橋梁はむしろ建築家の任務に屬すべき者であつて、天滿橋や天神橋等の鐵骨露出構造物は都市を飾る橋梁といはんよりは、都市の幼稚な狀態を示す物で、歐米諸都市では決して市内にあの樣な橋梁は架て居りません。元より構架物としての價値は別問題でありますでありますから心齋橋や難波橋が建築家の苦心に成つたといふ事は喜ばしい現象でありますけれども、まだ〳〵陸天の星の樣であります。東京でも此頃漸く日本橋や吳服橋や鍛冶橋などが建築家の手を加へる樣になつて來ましたが、あの高架線の樣な都市を縱斷して居る大構造物を土木家が全部を完成せしめた樣な、事情はよく現狀を說明して居ります。東京驛の新裝も建築家の手になつたといふてもそれは建築の外觀並びに構造を完成したといふ丈で、最も主要な平面圖、設計の基本案たる規模の點については、殆んど建築家の意見を採用して居らぬ實狀は、反面に於て我國社會の現狀を語るものであります。

官公署に於ける建築家の地位は什うでありますか、決して重んぜられて居りません、大程他の支配下に在つて、甚しきは會計課の一隅に安置されて居る樣な有樣であります。例へば陸軍の經理部の如きも近時建築家を採用して來ましたけれども、建築部としての獨立を見る事は前

遼遠いといはなければなりません。海軍では建築科は分立して居りますが「科」といふ各目になつて居ります。

地方廳、市役所等は什うでありませう、總べて土木課に併合されて居ります、元より土木の事業は其費目の大きな點、範圍の廣い點に於て到底建築と比較になりませんが、大なるが故に地位が上といふ事はないのであつて、建築家としての任務は全然別種の重要な任務があるのであつて、之を輕視することは出來ないのでありますが、從來建築は土木の事業の一部とより認められなかつたのであります。これは一面に於て建築家の努力と自覺の足らぬ點が多いのでありますが、亦一面社會に於て建築の任務の重要を認められぬ結最と見なければなりません。

今日はで建築家の任務は明かに土木の事業と全然別途に分離すべきである事が多少認められて來た樣であります。例へば大阪市の都市調査委員會の如き建築家の任務を重要視して居りますのは、一進歩と視なければならぬのであります、今回大阪府に於ては土木課から分離して臨時建築課といふものが獨立することになりました。これは明かに最近に於ける社會的覺醒の一つであります。

從來建築家の意見や設計が屢々土木課の支配內に於て、遍挾の見地から左右せられて、見慘な努力を持續して居るといふ事は、吾々建築家の側から見ると我田引水論になる樣な傾がありますが、社會的に見ると建築家の意見の消滅頓坐は、社會の損害の一つであると信じて居ります。我國建築界の發達せぬ一つの原因は實に茲に在ると想ふのでありまして社會が建築の發達を阻害して居ると觀て差支ないのであります。

要るに將來の建築界は今日の現狀に滿足すべきではないのでありまして、吾々各自の努力發奮と共に、社會的向上の路を開托し行き、社會と建築との圓滿なる關係の養成發育せん事を衷心祈つて居るのであります、吾々は決して我田引水論に陷る事ではないのであつて、社會的損失の現狀を匡正して社會に貢獻する處あらん事を希望する次第でありまして、本會の事業が愈着實なる發展を祈る次第であります。(終)



建築敷地に就いて

會員　設樂貞雄演

（於二月例會）

私共は建築の設計を依頼される場合に、まづ第一に其建築の建設される敷地が位置に於て便利であり且地形の良い場所であつて欲しいことを望みます、けれども吾々の理想にかなふ場所といふものは、中々ないのであつて、地面の形狀、敷地の高低、周圍の關係は、大低不滿の多いものでありますが、だん〳〵研究を積んで行くに從つて、初めは都合の悪かつた敷地も、面白味が出來て參ります。そこで最初に困ると思つた部分も、却つて必要になり、案外善いと思つた部分も、結局左程でなかつたといふ樣な事にもなります。

乍然多くの場合に、依頼者が、其敷地の買收を決定してから、私共は相談を受くるのでありますから、いはゞ窮窟を忍んで與へられたる、不都合の土地を美化し其缺点を補ふことに、努力するのが、私共の天職の一つであるかの樣になつて居ります。

之れに反して依頼者が敷地買收の當初に、專門技術家に相談されるなれば、土地の物色上相互の便宜があるのみならず、經濟上にも僅少の價を以て多大の便利を兼ねたる土地を得る事は左程難事でないと思ひます。

でありますから、私は多くの依頼者に向つて此点を特に理解して頂きたいと常々感じて居ります。尤も市内に選定される敷地は多くの場合

に相當の制限が附き纏つて居りますから事情が餘程違つて來ますが、それでも、吾々としても相當の研究もしたし、忠告もして見たい事が多いのでありますが、茲に私は特に郊外に於ける工場或は住宅、別莊などの敷地について、自分の考へを申述べたいと思ひます。

第一に工場の敷地でありますが、製造業の工場でありますと、主として原料蒐集の便不便、製品の輸送や、石炭搬入等の關係を緻密に考へまして、該工場將來數百年の大計を立てゝ、大局の計算をいたしまして、其敷地の良否を判斷しなければなるまいかと思ひます、さうするとたとへ其敷地の價地が高價であつても、全体の打算上少しも苦にならぬ場合も多いのでありまして、單に地價の高下によつて判斷すべきものでないといふ事を感じない譯には行きません。然るに實際には往々當事者の淺薄な打算から、地所買收の單價の低廉を望み、一文でも安い場所を得やうとする傾のあるのは、什ういふものでありませうか。

三圓より二圓の安價な事は三才の兒童でも承知して居る事でありますが、單に地價の安値を喜んで、鐵道、水運の不便此上なき地所を手に入れたとしたならば、其工場の將來の大計に於て非常な損失を招くのでありまして、當事者の大いに考慮を廻らさねばならぬ点でありませう。例へば一坪幾圓の安い呼聲に迷つて或地所を買收したといたしますても、さて技術者が愈設計に取掛る時には、先づ地盤の低ひ爲めに五六尺の盛土をしなければならぬ事となつて、其の土砂の買入を仕なければならぬ樣な場合もよくあります。幸い近邊に土取場があれば仕合せでありますが若し近距離に手に入る土取場がないとなると、盛土のための費用乃ち地上費は忽ち壹坪三圓、五圓、〻支出する事となります。或は亦私設溝渠や、周圍の石垣を造るとなりますと、安いと思つた地所も結局高價となります。況して盛土の場所は建物の基礎工事に大なる關係のある事でありますから、五六尺も盛土をする場所では基礎は可なり深い所に置かなければ

ならなくなり、平家の建物も中二階建位に高が増し、其爲めの工費は増大して參ります。更らに此の土地が鐵道の不便な所であり、水運のない敷地であるならば、材料の運搬費を見込むの必要があるため五六圓の地所は十圓以上の高價のものとなつて來ます。畢竟購入の際單に安價であつたといふ前提から出發して、盛土費、地形費、建築費並びに材料運搬費等の建築工費の増大を來しまして、其土地は安い樣で案外高い場所となつて來ます。斯ういふ結果となりますと、初めから高價の土地でも、尙水利鐵道の便があり、盛土の必要のない地質の堅固な土地を相する方が餘程利益になります。畢竟當局者は先づ最初に專門の技術者に依頼して盛土費地形費や運送費等の計算と地價との關係を比較研究させて後、土地買收の選定を斷ずる事を、私共は希望して止まないのであります。

然るに實際は地所買收費の安價を喜んで、成功せるものと信せる當事者は前述の樣な結果に立ち到つて來ますと、初めて眞相が解つて來ます、そして其結果、多大の補足費を浪費するばかりでなく、此等の盛土費や、地形費や、運搬費等、地所費に換算すべき性質の費目を建築工費の中に割り込ませて、技術者は兎角人の尻を拭ふ樣な、見當違いの努力、いはゞ擔の下で力持をやらねばならぬ事になります。

是は經驗のない企業者や、輕卒な事業家の陷り易い道程でありまして、吾々共から見れば御氣の毒にも感じますと同時に、今少し技術者の働くべき時機と手腕とを理解して頂きたいと感じない譯には行きませんが、これは當事者が兎角秘密主義を執る爲めに、多數の人に相談する事なく、二三人の重役の相談の結果、譯もなく決定される場合が多いのでありまして、此等の重役連は、緻密な總体の計算を知らないから、一文惜みの百損といふ馬鹿らしい結果を齎らすので該事業の第一歩に於て、百年の悔を殘すことになります。

扨て理想的工場の敷地は什ういふ條件を具備したらよいか、今簡單に之れを擧げて見まする

と。

第一　河海に瀕し水利の便なる事。

殊に風雨の際舟溜りの位置、水深及荷揚場の位置を調査する事。

第二　原料及び石炭の買入に便利なる事。

殊に取引市場の關係遠近を調査する事。

第三　製品輸出に便利なる事。

殊に取引市場の關係遠近を調査する事。

第四　地質堅固にして地形（ヂギヨウ）簡易なる事。

殊に砂利層、或は堅き粘土層等にて杭打等を要せざる場所望ましき事。

第五　土地高燥にして盛土地上げを要せざる事。

殊に近傍に適當なる土取場あるや否やを調査する事。

第六　下水の排除自由なる事。

殊に海岸等の土地には滿潮の際、下水の逆流する場合あれば注意する事。

第七　水害の憂なき場所たる事。

第八　鐵道停車場附近なる事。

殊に河海に瀕せる土地は水運か陸運か其一方を採るも妨げなからん。

第九　職工等の蒐集に便利なる事。

第十　將來發展の餘地あるべき事。

以上大要を盡したる積りでありますが、此等の要件を綜合して考慮を廻らす時には地價幾何といふ問題は一時的であつて、大した問題でないと思ひます。夫れより更らに重大な此等の問題を講究して置かねばならぬかと思ふのであります。

畢竟工場或は製造所に要する敷地の選定に當りましては、殊に大局に着眼して多方面の調査事項を綜合し、就中其重要事項を選り出したる後に於て公平な判斷を下し、殊に將來の經營發展の狀況をも豫測し、研究を盡して初めて適當なる選定を得るのでありまして單に地價といふ樣な小問題或は一局部の利に囚はれて將來の大計をあやまる樣な事があつては、實に永遠の大損害を齎らす結果となるのであります。若し愼重な研究を要する事を忘れて淺薄なる輕卒なる

判斷の下に、簡單に土地の選定をやり、幸に一時的事業の發展を得ても、或時期に達して後、當初の計畫の粗漏から有利の事業を行詰らして、みすゝ中道で新たなる敷地に移轉しなければならぬ樣な破目に陷る事もよく耳に致しますのであります。或は亦工場各建物の配置配列に關しても夫々將來に亘りての考慮を怠る時は、年と共に事業の發展に從ひ不便此上なき見慘な結果に逢着いたしました例も多いのであります。要するに專門家の意見はたとへ參考にまでも、一應は聽取して萬全の策を立る事は當事者の特に注意して欲しい手段であろうと思ひます。

次に郊外住宅の敷地に關しましても、殆んど同樣の注意を要します。尤も住宅は工場や製造所と異なり御主人公の趣味如何によるべきものであつて、且つ多年に亘りて利害關係が一々適切に反應を呈するものでありますから、又別種の研究を要するものであります。

然るに實際上に私共は往々依賴者から、設計の相談にあづかるに當りまして、敷地が或程度迄高低を平均した地所を與へられます。これは殊に初めて家を新築せらるゝ依賴者に多いのでありまして、素人方として無理もない事でありますが、建築は必ず平面的の土地に建てなければならぬといふ事はないのでありまして、私共から見れば寧ろ手を入れない土地、生ぶな地所を提供して欲しいのであります。

殊に郊外住宅に於きましては、平坦な土地よりも高低あり、變化のある土地が面白いのであります。從つて敷地の選定に當りましては、土地の形狀、地形の高低變化を調査する事は大切でありまして、其地所の起伏屈曲に應じまして、庭園や、門や玄關などの位置を決定する事に趣味ある苦心をする事になります。庭園にしても見上げる場合もあり、又見下す場合もあるのでありまして、玄關や門にしても、或は東方にするか西向にするか夫々研究を要し工夫を凝らさなければなりません。

高低のある土地は、實際に平地よりも面積に於て廣い譯でありまして、之を單順に平均らし

てしまつては、其土地の大切な面白味を失ふ事となります。樹木にしましても、自然の發育、配置に應じて、又風致を添へるものでありますから、無暗に切り殪すのは考へものであります又樹木を植ゑ込む場合にも土地の濕乾、樹木の性質に應じて夫々案配すべきものでありますから、特に研究を要します。

家屋にしても、必ずしも平坦の土地に建つべきに限らないのでありまして、其地所の高低に應じ、變化を利用して却つて外觀に趣味ある結構を得らるゝものであります。一度家屋の結構が定まりますと、之れに附隨して庭園や、泉水や、水溝や門垣等の配置を研究して行く事になります。

畢竟郊外住宅の設計に際しましては、第一に手を入れぬ土地、則ち生地のまゝの地所を、其儘に提供して私共の意見を徴せらるゝ事は最も望ましき點でありまして、私共は其敷地の調査研究の後初めて、家屋の設計に着手し、次いで庭園の按配、樹木の配列、外溝、門垣等の敷置完成に努力いたします。然るに實際には却つて逆な手段を踏む事が多いのでありまして、私共は此点につき、依頼者の特別な注意を希望いたします次第であります。

扨て郊外住宅の敷地を選定するといふ立場から見ますと、工場や、市内の住宅と異なつて前にも述べた様に、土地の高低變化と、水の流ある事を望みます。高燥な土地は健康衛生上必要の要件の一つでありますが、又濕地も含まれて欲しいものです。水流や、濕滲の土地は夏時の撒水といふ点に關係して居るのであります。

乍然最も大切な要件は井戸の水の良否であります、井戸の水の良否は、結婚を一生の大事とする様に住宅にとりては、百年の後に影響する所ある事は、世間にも大概認められて居る事であります。たとへ土所が風光明眉な處であつても、井水の惡質な場所は決して住居の地所ではありません。子孫繁榮の幸福を涵養すべき住居には良水は良妻に比敵すべきものである事は至言であると思ひます。

又調査に際して、心得べき点を擧げて見ますと先づ雨風の日に一應視察して置くべき事を忘れてはなるまいと思ひます、天氣晴朗の候に好適地と認定しても、周圍の關係から、一朝風雨の際の狀況は意外な結果を齎らすものである事は經驗ある人々の理解される事項であります。

敷地の一部に山ある場合には特別の注意を要します。山の尾にはよく谷を抱いて居ります。此谷深ければ、水清く、幽境の趣を得る事でありますが、又時とすると水害の憂があります、之を除かんとすれば可なりの費用を要する事になります。山の尾には水のない場合が多く、谷淺き場合には雨後早く乾燥する砂地には水あれども、粘土層質の處には濁水が多いものであります。要するに山の尾と谷との關係は特に研究を要する事を忘れてはなりません。

素人の方はよく海岸を望まれる傾がありますが海岸を望まるゝは海を知らぬ方に多いであります。敷地は存外高價なものですが海近く四季の眺望を第一として、買收され、愈住宅を建設されても、幾度か大荒の損害を經驗されるにつれて、初めの願望も次第に失はれるものであります。殊に海岸は颱風の爲に甚しく家具調度を損するものであります。されば大低海岸に住まれた方は、今度は山手に移動されます。そして建てられた家屋はよくした物で、又新しい海岸を望む方に現はれて相當の價格に買收されますから損を招く事はありませんが、此の新來の方も暫くして亦山手へ逃れられ、更らに新手の繼承者が來られます。考へて見ると氣の毒な者であります。

其他鐵道線路、電車軌道の附近は便利な樣で不便が多く敷地は東南或は所により西南に低きを望ましく、水の流あらば深きを避け、淺き小流を望しく、或は亦物資に對する便不便や、風土病に關する調査事項や、子供衆の通學養育に關する特別な考慮や、擧げて見まするとなか〳〵多いのでありますが、扨て實際に相遇して調査研究をやつて見なければ一概に斷定する事は出來ないものでありますから、要するに依賴者は私共專門家の意見を參考とせらるゝ事を希望して止まないものであります。（終）



建築と心

會員　正文生

● 夕陽映ゆるアクロポリスの丘の上、白い白い列柱の大殿堂の輝きを仰ぎ見る時、古代希臘のポーリスの人々は自然の限りなき偉大さの内に抱かれた人工の美の誇を感じたに違ひないそうしてそれらの華麗な建築は彼等希臘人の大きな文明の中に生れ、彼等の巧みな技能と、深いヘレニズムの思想から作り上げられたものであつた。

● そこに一つの纏まつた思想の流があり根底があつた。その現はれ希臘建築として東西古今の文化の源に、一つの基礎を置いたのである。心ある人があの壯麗な建築の前に立て、どれ程強い感動をうけるか、インスピレーションに打たれるか、それは建築そのもの、殿堂そのものゝ建築法や外面的の技巧の問題にタッチしただけでは感じ得られぬ何物かを受け入れてゐるからであらう。希臘思想と云ふ偉大な其根底の流れを通じて、出來たそのものから受け入れられた何物かは、即ちヘレニズムそのものであつて、ウインケルマンの所謂氣高い、靜肅な、偉大さの藝術がこれから生れたのである。

● 彼の天を突く様な、ゴシック建築の尖塔が黄昏の淡い光を殘した空にクッキリとスカイラインを描く時、人の受ける心の微動は自然と藝術、夕暮の色とゴシック建築の調和から流れるメロデイに心醉してであるとばかりはいへない。たとへそれが感傷的なうけ入れ方であつたとしても、もつとその底にはゴシック建築の眞

生命、ヘブルーイズムから溢れ出た或物が働ひてゐると見なければならない。

● 彼のグロテスクなローマチスク建築の灰色の壁に刻まれた怪物や、仙人を見る時、又奇怪な牢獄の様な小さい窓からさし込む、か細い光をうけて聖壇の金色が嚴に見ゆる時、いとも深い神秘的な感銘をうけるであらう。そこにうけた大きな感動は中世紀の、深刻な宗教的、精神的な源にあることを知らねばならない。

● 飜つて文藝復興期の建築は什うであるかルチッサンスの思潮の流れによつてはぐゝまれ、近世藝術の革命は塊太利にセゼッションとして、モダニズムの上に生れたのである。又我佛教建築の根底には、壯嚴な佛教思想がひそんでゐる、これらの過去を顧みる時、建築そのものゝ根本にはこうした生命と時代の思潮のあることを忘れられぬ。人々が色々の建築に接してうける感銘は、その建築の根底にひそむ生命と、自己の生命との共鳴でなければならないと思ふのである。

● 我々が奈良や京都の古社寺に建築行脚を試みたとする、宇治の平等院を訪れてあの鳳凰堂の纖細な、そうして輕快な美しさを、只藤原期の手法は見事だと云つて感心するだけならばそれは餘りに鈍感であると云へる。その生命に自己の生命が共鳴することによつて初めてその場合の感銘が生きて來るであらう。

● 足を奈良の郊外にはこび、松の木立の間に唐招提寺の金堂の雄大な姿に打たれて佇立する時、矢張そこに佛寺らしい豊かな落付きと、ヘレニスチックな明快さとを通じてあの建築の生命にふれてゐるのである。建築ばかりでなくすべての物象の眞生命にふれて感得する力は如何に大きいものであらう、又眞生命のこもつた物象が働きかけて來る力の大さは偉いものである。建築が積極的に内面的に、社會に働きかける影響はどれ程大きいかと云ふことは一般の人人の心に置いてゐなければならないことである。

● 建築は大きな意味で藝術的價値を有する

と云ふことが出來る。從て人々に大きな意味での藝術的感銘を與へるものであると云ふことは明なことであらねばならない。勿論其場合も、建築の核眞である生命を藝術的現れとして感ずるのであるが其意味から云ふならば、建築は社會に向つて、外面的に働いてゐるだけではなく、もつと積極的に、內面的に、働きかける可きものでなければならぬと極言出來得ると思ふ。

● 更に、實際的な見方をする。今の我國の都市建築を見るならば、成程過渡時代の產物であるに違ひない。混沌たる渦流の中にボックポックと出來て來たものに相異ない。すべての建築は勝手な方向を目ざして走つて行かうとする傾向がある。所が又『樣式構造すべて其技術上の問題は建築家の自覺によつてすでに確立した一つの方向を握んでゐるのである』と云ふ論を聞いてゐる。そうだ、そこには混沌として居ながら或一の傾向もある、主潮とす可きものもあるであらう。

● けれども建築の眞生命は何所にあるのかまるでわからない樣だ。現今都市建築の傾向として、行政上の建築は別であるが多くの公共建築は大部分富の表象となりつゝあると云ふことは明にわかることである、その富を現す建築と云ふ表現にしろ、又他に何を表象するものとしてもいゝ、それを充分にした上に更にもう一步進んで建築に眞生命のこもつたものであらしめたい、それでなければ眞實に建築が人の心に働きかけることは絕体にない。從て、之に接する人々の心次第のものとなつてしまふだらう。それで何の建築的權威があり得よう、何等の藝術的權威があり得よう。もつと眞實な生命力あらしめんが爲には建築家自身の生活が一層深い力ある內省的自覺の上に置かれなければなるまい。

● 此頃迄個性と云ふ問題がやかましかつたが、個性を尊重し、個性の表出をいくら絕叫した所で、自覺のない個性から出て、眞實性のない建築はすでに個性そのものゝ擔であつて、眞の個性を表したものでは無いことになる。とら

はれない、眞實性のある、眞生命のこもつた、自由な、しかもそれ等の立並ぶ建築に全体としてのリズムが成立して居たならば、それらが働きかける力と、それに動かされる人の心の關係はどれ程大きくなることであらう。

● 今度は反對に受け入れる、働きかけられる人々の方を振りかへつて見る。すべての人が、すべての物象に對して眞劍に受入れられるだけの内容があつてくれればよい、廣い意味での眞面目に見てくれればよい。そうすれば必ず建築もそれの内面的にも、外面的にも、充分の理解をしてもらへるであらう。すべての人が自覺があり、眞劍であつて建築をも眞面目にうけ入れてくれる樣でありたい。けれども實際に於てそうでない。一般社會の人々はあまりにのんきな見方しかしない。あれが公會堂、これが控訴院、それが朝日新聞社、日本銀行、大きい、美しい、立派だ、貧弱だ、便利だ、不便だ、石だ煉瓦だ、白い、赤い、とそれだけしか見ても考へてもくれぬ。

● それより一歩進んではプランニングの巧拙、コンポジショレや構造法の優劣、表現、を論じ、デテイルの技巧に論評を加へる。それも必要なことであるが更にもう一歩を進めて、その建築の眞實性を認めてくれる人や、その建築の核眞にふれてその生命力迄つかんでくれる人は少いのである。一方に又建築が唯、ぼんやりと、構造や樣式や用途の倶体的方面にのみ力を注いで出來ただけのものとしたならば、建築そのものにも又見る人の心にも、憐む可きものがあると思ふ。

● 又一方から見て一般にはそうした人々が多いとすれば建築は社會的に益々、重大な責任ある位置にあるものであると云へるし、又同時に建築家にもより以上の大なる責任がある可きである。只設計と施工、それに附隨した技術的問題にのみ沒頭し、それに何程忠實であつても只それだけで建築家のすることの總べてが濟んでゐると思ふことは決して許されない。見方をもつと縮小して大阪だけを見ると、如上の問題

は益々強められるのを感ずるのである。即ち、大阪人の特色であり、長所であつて短所である單なる物質欲にのみ生きる愛錢家の多い大阪では、少し心ある人ならば不安を感ぜずに居られない。

● 今茲で大阪人の短所を云々するのではないが、大阪と云ふ空氣の中には、建築の根本から掛念す可き点を多く見出すのである。現時大阪の地に住む知識階級の人を除いて、刹那的物質欲の盛な多くの人々の生き方が大阪と云ふ土地の空氣をどれ程、色づけてゐるか知れない。二川の水豊かな、中の島一帶に美しい建築がどれ程出來ようと、都市改良策が實施されようと、それをそれと思はぬ刺激の薄弱さがあるであらう。

● 建築が理解されても、それは單に物質的或は外面的の理解しかないであらう。建築家がそれらの人々に、建築的覺醒をうながすに、どれ程骨が折れるかゝ思はれる。宗教建築がどれ程強い信仰心を、善男善女の純な心にふるひ起さしめるに力あるか、學校建築が様式や材料によつて、どれ程學生や生徒の心に感化を與へるか、と云ふ問題は可成重大なことであると同様に、それらから考へて見ても建築が積極的に内面的に働きかける力は僅少なものでは決してない。

● 物質的外面的に、社會によき結果を與へる建築は勿論欲しいけれども、それ以上に社會によりよき影響を與へ得る建築、よりよき感化を與へ得る様な建築が欲しいものである。大阪にしても、そうした人々にもつともつと科學と藝術の價値を知らしめ、趣味の向上に進ませる様な、尚又その上に眞實の生命力ある立派な建築が出來る様でありたい。

● すべての問題は根底が必要である。ゲーテの言葉を借りて來て云ふならば、灰色の土に生ゐる活世界の緑の木は、灰色の土によつてはぐまれるとも云ひ得よう。土なくして緑の木は生ないのである。しかし、根本の問題にのみ沒頭する結果は、いつ迄も灰色の土は灰色なだ

けで、緑の木は生ねまい。又反對に、根本を捨てゝ實行ばかりいくらあせつても、問題の核眞にふれられず、枝葉のことばかりつゝき廻し、て結局は不徹底な、いゝ加減な、妥協的なものに終つてしまふのであらう。現下問題の議院建築や、都市問題等すべての事柄が根本的の基礎から出發して、脫線せずに實施に於て成就される日を熱望するのである。

● 具体的、形而下的の問題ばかりく少しく調査しても、統計而的な數字上の結果をいくら並べ立てゝ見ても、それは必要であるに違ひないが、只それだけを根底として出發することは未だ危險であると思ふ。

成程合理的に科學的に研究して進むことは間違はない筈だ、けれどもそれは表面的形式的な結果に對してだけである。勿論それは重大な必要條件ではあるがこうした進み方が、ただそれだけの中に眞實が發見される、それだけが絕体に眞であると強ゆることは不可能である。

● つまりすべての事柄は出來るだけ合理的でなければならないけれども、それだけに眞實がひそんでゐるとは云へない。繰返して云ふ、すべての問題は、その問題のよつて來る根本から出て行かねば、そのすべての行動は空虛である。又根本のみ觸れようとして理論の末に走る樣な結果に陷るならば、その結果は社會的に實施と云ふことを不可能にしてしまふ、けれどもその方が根底の淺い出發よりも安全であるかも知れない。

● それがたとへ二十坪三十坪の小さい住宅や商店建築であつてもよい、ほんとに眞實性のある建築、それは矢張社會並に建築の眞劍な、內省的自覺から來る思潮の流れに生れるのであらう。

さうだ。心の問題である、思想の問題である。建築家の技術の深い研究、學理の探究の中に、充實した思想生活の內容を以つて社會の問題に對し、もつと、もつと、根本的、徹底的なスタートから出た解決に向つて急ぎたいと思ふ。



ポンペイの最後の日

―建築史ローマンス―

會員　須藤眞金

○

ポンペイ市の西北端、ナポリ灣の絶景を見下ろして宏壯な構へを建て圍らした、**デオメード**家へ誘き入れられた猶太の巡禮**ノエ**は、廻廊の壁繪を魅入られた樣に打ち眺めてゐる。

「れいお爺さん、お爺さんは繪が好きなの？」

デオメード家の娘**アントワネツト**は巡禮の傍へすり寄つて怱う尋れた。

「私は神樣の前に跪いてお祈りを捧げてる時よりも、怱うやつて繪の前に立つて見入つてゐる時の方が、あらたかな心持になるんですよ。だが、此の繪は怖ろしい繪ですれ」

白銀の樣な髮と鬚とを延びろ儘に延ばした、巡禮**ノエ**は初めて壁繪から視線を離して、**アントワネツト**に對つて答へた。

「ホ、ホ、ホ、可愛らしい事を云ふお爺さんれね、何が怖いの？シロンのあの半分人間で半分馬の姿が怖ろしいの？それとも又お酒の神樣のバッキヤントがおつかないと云ふの？さう〳〵お爺さんは巡禮だからお酒が嫌いなのれ。」

アントワネツトは美しい彫刻的な顏に晴やかな微笑を湛へて問ひ返した。

「怖ろしい、魔がさした樣な繪だ。このフレコスの底には神經が通つてゐ相だ。今にも動き出し相だ」

巡禮**ノエ**は又繪を凝視した儘で、獨り呟いて居る。

「氣味の悪い事を云ひ出すのれね。お爺さん、あつちて行きませう。Cynicènes の壁にはれ、奇麗な踊子が踊つたり、舞つたり、疲れて花に休んでゐる繪か澤山あるのよ。れ、最う怖ろしい繪の前はいゝぢやあ無いの？」

巡禮**ノエ**は娘**アントワネツト**に引つばられて、希臘風の大廣間に出て來た。大な壁には數つかのパネルに仕切られて、內を櫻んぼの汁の樣な朱の色に塗つて、一つ一つに色んな形態の踊子の姿が描かれて居る。巡禮は前と同じ樣にうつとりと其繪に眺め入つた。

「どうだいお爺さん、奇麗ちやあ無くつて？」

アントワネツトは自慢さうに又尋れた。

「怖ろしい、怖ろしい、此の繪も怖ろしい」

「何を云ふんだよ、お爺さんは怎うかしてるのれ」

「何か怖ろしい事が有るに違ひない。先刻の繪をもう一遍見

せて戴きませう」

「さあ〳〵たんと御覧んなさい。妾はもう居間へ行つてますよ」

アントワネツトはつまらなさ相に、巡禮を廊下へ殘して丸い出窓の、日當りのいゝ居間の方へ歸つて行つた。

○

「お父樣、妾もあの黃色の胴衣、綠色の上衣を着たバツキヤントの繪が怖ろしくなつて參りました」

「お前までが何を云ふんだよ、あんな賣僧の云ひ草なんかを氣にする物ぢやあ無い、あのキリストとか云ふ猶太の神樣はあれは唯の空想家さ、だから彼の信者には一人だつて紳士らしい者は居ないぢや無いか、皆んな貧乏人で無智で名の無い人間ばかりだ。彼奴らは此のボンベイの富を妬んでゐるんだよ」

香りの高い花園に向つた居間で、青銅で作つた寢椅子に美しい縫取りをした柔い薄團を重ねて、それへ寢そべり乍ら主人の**アリオス**、**デリオウス**は娘の**アントワ子ツト**をたしなめて居る。

「でも世の創まりが有つたからには、世の終りも何日かは來るのが道理では御座りませんか」

「いくら醋い神樣だつて此の美しいボンベイ丈けは未練が殘つて滅す事も出來なからうて、ハ、ハ、此のボンベイを亡せば美しいお前の命も取らればならないぢやあ無いか、神樣の御心はそんな冷たい物ではないよ」

アリオスは怎う答へて泣みつくと娘の姿に見入つたのであつた。**アントワネツト**の着てゐるチユニックはタイヤ染の美しい色に燃へ、その留釦は碧玉で輝いて居た、彼れの首の周りには金鎖があがつた。それは胸の中程で蛇の形になつてからんで居たその蛇の口から巧に彫刻した大な印璽が垂れてゐた。チユニックの緩い袖口は黃金で縁取られ、腰にはアラビア風の意匠をほどこした帶をしめて居た。

アントワネツトは直ぐに云ひ返そうとした（でも美しい物は滅ぶ、滅ぶ物は美しいと申すでは御座いませんか）と云ふ言葉が唇迄出て居たのだが、淑やかな彼女は餘りはしたない口答へだと氣がついたので其儘押し默つて了つた。

だが何としても**アントワネツト**の小さな胸は赤いチユニックの裡で異樣に亢つた。たうと仕舞ひには居ても立つても居られない樣な心持になり出したので、彼女はツト立つて廻道を脫けて花園に出た。南歐の澄み渡つた空が今日は思ひなしのせいか赤味を帶びて見ゑる。そしてナポリ灣の水の色が泥の樣に黃ろい。ヴエスビオスの山がムクムクと動き度がつてる樣だ。

葡萄棚の下に立つて其れを眺めた**アントワネツト**は壁畫から受けた怖ろしさと同じ樣な脅迫をパノラマの樣なナポリの灣景から强ゐられ出した。

「迚も堪らない、何としても最も此の世が名殘りの樣な心持がする、さうだ此の懷かしい家の裡をよく見納めて置かう」

アントワネツトは廣間へ取つて返した。其處には十四本のドリツク柱で取り圍まれた水槽がある。ボンベイの人達は最うローマの建築に飽きが來て此頃はまたギリシア風に變ふ事が流行つて居たのだ。然し色彩は如何にもケバ〳〵しい。實に滑らかに漆喰塗で仕上げてある柱は下三分の一を犬の血の樣な朱色で塗つてある、そして其上は白い胡麻殼になつて居る。柱頭は又赤の細糸裝飾である。水槽の兩側には井戸があつて、一つは灰

華石、一つは大理石だが之れもどちも赤く塗られてあつた。

今更、懐かしげにその室内の有様を眺め渡したアントワネツトは次に小浴場へ這入つて行つた。

先づ三角形の廣間の六面の柱の單純な柱頭を懐かしんで其れから化粧部屋を通つて浴室へと這入つた。一面にモザイックで敷き詰められた床の一隅に大理石張の湯船がある。長さ九尺五寸巾七尺で深さ三尺六寸の湯船は角に三段の段がついて居る、そして其上の壁は青地に魚や軟体動物の棲息の態が描かれてあつた。

アントワネツトは又蒸風呂へも這入つて行つた。日本人と一緒て入浴好きだつたポンペイの豪家は贅澤な湯殿を幾つも〳〵持つて居たのだ。そこも地板はモザイックで敷きつめて、軒蛇腹は壁畫で飾つてある。そして木の椅子が一脚無雜作に抛り出してあるとこが如何にも怠け者のポンペイ人の氣質をよく表はして居た。

彼女は寢室や食堂を順々に經めぐつて奴隷の室や納戸迄ものぞいた。そして又壯麗な壁畫と朱の色で潤澤に飾られた應接室へ出た。其處にもバッキヤントが描かれて有つた。

アントワネツトは無心にその酒の神樣の姿を打ち眺て居た。すると仄かな囁きが彼女の耳をかすめた。不審の耳を凝てゝ聞き入ると神秘的な唄だ。然かも聲はフレスコの繪の底から湧いて居た——。

そこには大いなる涙あらん
下の岩には墓そならべる
怖ろし、怖ろし、怖ろしき時は近づけり
されど恐ろしき時には吾れは幸ひなり
藝術は幸ひなり、唯吾等のみ幸ひなり。

「お、何と云ふい、聲だろう、いゝ唄だろう。だけども妾は何だか苦しくなつて來た。いゝ唄だ、だけども怖ろしい唄だ。お酒の樣な唄だ。妾は悉皆りいゝ心持になつて了つた。そして苦しい」

バッキヤントは壁から浮き出して居た。そしてアントワネツトは其れに取りすがろうとした。

凄い音響が天地を動かした。

空氣がカッと赤くなつた。

アントワネツトは夢心地で Cyzicènes へ飛込んだ。父は狂人の樣に奴隷をどなり付けて金櫃や酒壺を取り出させて居た。母は寶石や衣裳を纏めさしてゐた。

窓の外ベスビアス山の頂きは松の木の樣に眞黒な柱——眞赤な火の枝がもの凄く燃え上つて居た。

やがて又空に岩のくずれる音が聞こゑ、火は瀧の樣に降づて來た。

○

何處を怎うしたのか譯が分からなかつた。

氣がついて見るとアントワネツトは地下の穴藏に居たのだつた。

細かい灰が風窓の隙から風の樣に浸入してゐる。燒熱の蒸氣は穴倉を充してゐる。

其處は完全な避難處ではなかつた。アントワネツトはチュニックの袂で頭を包んで戸口の方へ突進した。

彼女の意識は又無くなつた。

寶石、燭臺、銀嵌入の鍵、二重櫛、ガルバの銅錢ネロンの金貨——そうした物があたりに散亂して居る。

ポンペイの最後の日、最後の時が過ぎた。そして唯藝術は幸ひだつた。

埃及やギリシアの壁畫は繪具を膠で溶くテンペラだつたが、ローマの壁畫は生乾きの壁へ水繪具で描くフレスコだつた神樣はポンペイを滅す前に高い溫度に會つて滅びない樣に人間の智惠を操つて膠のテンペラをフレスコに代へさせてお置になつたのだつた。

（完）



北木島紀行（上）

會員　野人生

（一）

「耳學問は片輪である、百聞は一見に如かずといふ譬がある、一度は實地を見て來なければ話にならん」と常々御說教を聞かされて居つたが、或夏の事都合よく二日の暇があつたので、好機逸すべからず、早速Y君を問ふて相談した處、直ぐに贊成してくれた、そこで僕は北木島の樣子をD君の所へ聞に行くし、Y君は參謀本部の地圖を買つてくる、色々打合した結果明晩の夜行で笠岡迄汽車を利用し、朝の八時の船で目的地へ達し、一泊の上充分視察するといふ豫定が出來上つた。D君は親切にも石材會社へ交涉して案內をしてくれる手筈にして吳れたので、萬事が好都合になつた。

行かう行かうと思つて居つても、中々折のない物で、つい近くの處でも兎角御流れ勝のものである、まして一泊旅行となると愈々むづかしくなつて來る、早い話がかうである、Y君は常々月が瀨の梅が見たいといふ、僕はまだ吉野の花を見ないから一度は是非出掛けたいといふたら、そんなら先以て今年は、月が瀨に案內をしたまへ、その代り四月になつたら吉野の奥を探ろうと約束をしたものゝ、兩人共忙がしかつたので、梅見が御流れとなり、櫻が咲いた頃日は愈明日の日曜日と決めて、夫々用意してゐると折惡しく其晩から雨が降り出して、中止の止むなきに至つた、そのくせ翌日の晝頃には雨も晴れて馬鹿らしい好天氣となつてしまつた。

「思ひ立つたが吉日だ」とはよくいふたもの、槍が降つても、雷が鳴つてもといふ決心で計畫すれば、目的を達する事は何んでもないものだ、それを御都合主義で何遍も設計變更をしてゐる樣では、議院建築の樣にいつ迄經つても延期しなければならぬ破目となり勝である。

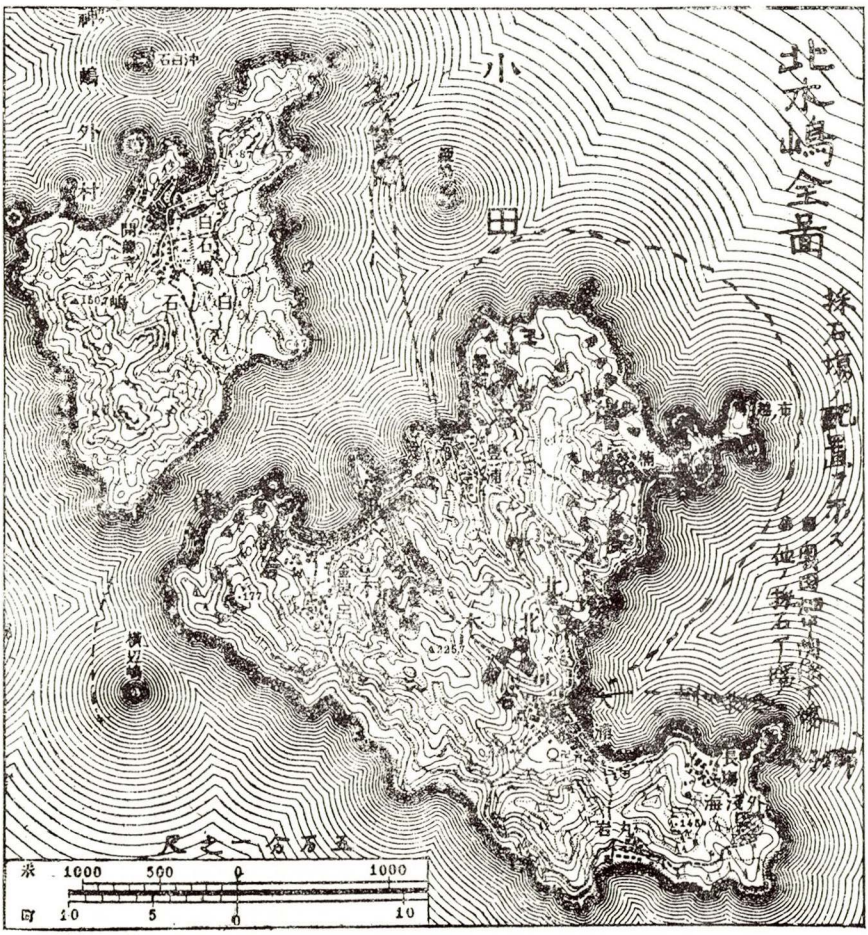
幸に僕等の北木島行は計畫通り實行が出來たから御參考までに、僕の日誌から本誌へ報告することにしました。大正の野次喜多の一泊旅行大した價値のあるものではない事は勿論である

思ひ立つて　眞夏に行つて　北木島

石の修業を　見學の旅

梅田發の夜行に乘込んだ僕等は、何んでも朝早く笠岡へ着く

豫定だから一寢入する事にした、夜汽車へ乘り込んで途中下車をする時は心配なものである。三石へ行く客人が乘り過ごして岡山が眼が醒め狼狽してゐるのを夢の樣に見た僕はうつら〳〵としてゐる間も心配でならなかつた。こういうときに平氣で寢込む事の出來るY君が羨ましかつた。Y君は相手さへあれば安心して寢るさうだ、少々たちの惡い方だが、その代り一人で旅行をする時も案外平氣で寢込むさうである、なぜなればY君は必ず隣の人と話を始めて、「あなたは何處へ、そうですか、私も岡山迄です」、といふ調子で自分の岡山行を報告しておいて寢込むのだから安心なものだといふ、岡山で下りる客人はY君を起してくれるからである。所が或時東京からの



歸りに知り合になつた客人が同じ樣な安心黨だと見ゐて、忽ち二人共寢込んで神崎邊迄乘り過ぎた事もあるさうだその時のY君の作つた狂歌はかうである。

夜を込めて二人寢込んだ汽車の旅
豈大阪の驛に着くまじ。

（二）

笠岡へ着いたのが、朝の六時である、Y君を起して眠氣眼でフラ〳〵海岸へ行つて見たが、發船所らしい處もない、よく聞いて見ると東の町はづれだといふので細長い町をテク〳〵歩いて踏切を越ゐてやつと海岸へ出て見ると、まだ時間が早いので汽船の影が見ゐぬ。まあ顏でも洗つて朝食でもやらうと船宿の二階に上り込んだ、Y君はしきりと地圖を廣げて研究してゐるやがて御膳が出る頃には、ボーといふ不景氣な汽笛か聞ゐて、お玩具の樣な小蒸滊がやつて來た。これが多度津通ひの連絡船だそうな。客もあんまり乘つて居らん。それでも青切符を賣り出す處を見ると特等といふ階級は付けてあるのが面白い。

八時になつて發船の汽笛が鳴る。通船が離れて船はそろ〳〵動き出す、處へ驅け付けた車の客が二人おーい〳〵と吐鳴る。船長はブッ〳〵云ひながら艘を留めて乘せてやる。處が二人の客は船長の顏馴染と見ゐて切りと禮をいひながら話をしてゐる一人は肥ゐた丈の低い男で、何處かで見た樣だなと思つてゐると。

「もし、おなた方は北木島へ御出でになるのでは御座いませんか」と突然聲を掛けた。

「さうです」。

と Y 君が答へる。

「やはりさうでしたか、實は會社の出張所から、知らせがあつたよつて、多分此汽車で來やはる事と思ふて、ステンショで待つて居ました、どなたやら、解らんもんで」

此の人達は今し方着いた汽船で島から來ので僕等を大分探したらしい。見た事がある樣だと思つたのは船宿の二階から上陸するのを見て居たのであつた。肥ゐた男はKさんいいふのだ。

「それにしても、あぶなかつたね、船が止まらなかつたら早速後寬が二人出來る所だつた」

と僕は海岸を眺めながらいふた。もう船は大分離れている。古城山といふ昔の城跡らしい松山の麓に並んだ船宿も箱庭の家の樣になつた。

やがて船は瀨戸に入る。兩岸が迫つて來る邊は、海とは思はれぬ。松の小島の流れる樣に近づいては後になつて行く景色が面白いので、船客は大低甲板に出て冷しい風に色々な話をしてゐる。

瀨戸を離れると汽船は進路を右手にとつて島に沿ふて廻つて行く、霧が朝れてよい天氣だ。

「おやおかしいぞ、途中何處かへ寄るのかれ」

とY君は地圖を見ながら今一人のHさんといふのに聞いてゐるKさんが引取つて。

「此の島は神の島といふて亞鉛の製鍊所があります。此の鼻を廻つた外浦といふ處には社宅が澤山出來ました。」

「さうですか、それは知らなかつた。瀨戸内も變つて行きますな、今に島といふ島は皆工業地になつて、しまうかもしれない」

とY君は尚も地圖を檢べながら

「ふゝん、善い所へ選んだものだ。笠岡に近いから鐵道の便はあるし、鑛毒問題も此の島なら起りさうもないし」

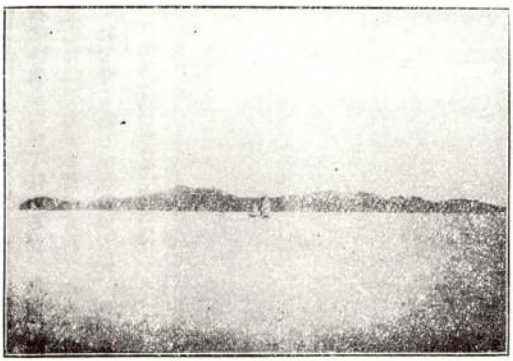
「處が中々反對がありましてね、餘程むづかしかつた樣だすが此頃では却つて笠岡も此附近も、製練所の御蔭で大分開けて來ました、この東の方の水島にも製煉所がありましてね。四阪島から引船で材料を運んで居りますよ。それ沖に澤山曳いて行くでせう、あれは歸りだす」

靜かな海の上を十何艘かの荷物船を曳いて小蒸滊が辷つて行く。

「するとあの島が北木ですか。」

「あれは高島といふて、昔神武天皇樣が何んでも船がかりなさつて御座らつしあつたといふて、中々やかましい島だす。昨年てしたか昔の土器が出ましたんや、島の者も大喜びで博士方へ報告した樣だしたが、何うしましたやら」

「へゝ、さうですか、こいつは驚いた。高島のいふのはあの島ですか、御東征の砌戰闘準備のため八年間御蹲踞になつた事は聞いて居たが、何處にあるのだか少しもしらなかつた、ねー君旅行はして見るものだ、一寸の間に二つも學問しましたぜ」



高島遠望

僕は腰折を一つ書いてY君に見せた。

神の島　名も高島の　浦がくれ

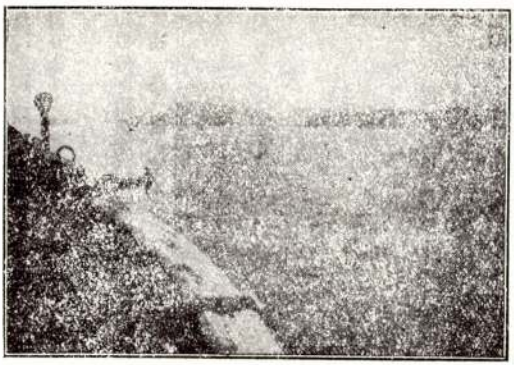
幾千代かけて　船のかよひ路。

汽船は間もなく外浦の前についた。新建の家が大分見へる西濱には一本の高い煙突が立つて白い烟が上つてゐる、其周圍は一面の工場だ、中々盛んだ、こんな風に工場を離れ島へ建てゝ行つたら、實際Y君の云ふ樣に今に備瀨戸内は工業地帶となりて來るに違いない。いや現になりつゝあるのは知る人ぞ知る。

（三）

高島を右舷に見て、航路は東南を指す。前面に横はれる二つの島、前なるは白石島といふ、名からして石の出る島らしいが今日はあまり出ないといふ一つは石の質が面白くないのと、隣りに有名な北木島があるからだろう、遠く霞む北木島、其臨畵は高く大きく白石島の上に重なつて、突兀として見へるのはいかにも男性的の島である。「其昔鬱蒼たる森の姿は影も止めない樣だ」とY君がいふ、なぜと聞いたら「木島と呼ばれるからは木を出した島に違いないそれが濫伐の結果今度は石を出す樣になつたのだと思ふ、いはゞ日本建築界の將來を俱象してゐる島だ」とむづかしい事をいふ。什ういふ譯でずかと聞いて見たら、その答はこうである。

「希臘の建築が石造建築の典型になつたのは、一面に希臘の民族が石を愛し石と親しみ石と同化した爲ではあるが、反面に建築用材としての木材に缺乏した爲であると傳へられてゐる。日本は世界で昔から木造一天張で押し通して居る國だが、此の島の樣に用材がなくなつた曉はどうしても、石や煉瓦の家を造らねばならなくなつて來る。その時が日本の國民が始めて永遠の建築を不朽に傳へる事を悟るときであるのぢやありませんか。」



北木島遠望近きは白石島

「しかし今でも、最早悟りかゝつて居るのでせうぜ、今迄の洋風建築の花崗石は殆んど此島から採り出して居ます。日本銀行を始め東宮御所や、曩慶館や、長くも桃山御陵の御用材だの明治神宮の御造營にしても、皆此島の石材を使用して居るのですからつまり日本新建築の母島であるのです」

「勿論今日の第一等石材といへば、必ず北木島産と指定される樣になつて居ますが、それがまだ〳〵悟り切れぬ証據で、吾國は木材の多産の國とはいひながら到る處に石材を産出して居るのです。殊に安山岩の如きは富士火山帶を始め、いはゞ吾國の骨髓を爲して居るのであるから、もつと盛んに産出せしめ、もつと盛んに使用されなければならない譯であるのに係らず、まだ〳〵採石法の設備や運搬法が幼稚であつて、國民も木造の家に執着をいつ迄も續けてゐるですもの、都市に大火の絶えない譯ぢやありませんか」

と話が横道にそれ出したときKさんは風呂敷包を開いて夏密柑を取り出した。

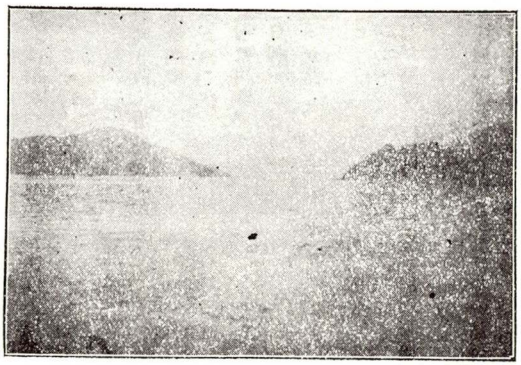
「どうだす、一つ、甲板に居ると風がありますが、船室の中に居ると暑くつてやり切まへん。もう豐浦も見へまつしあろ。それ山の中腹に白うなつとる所がありませう、あれが石伐場だすなるべく海の近くで運び出すに大事ない處を選んで、採り初めるんだす。」

と說明するY君は寫眞機を撮り出して二三枚撮つた船は白石島を廻つて北木島との間の瀨戸が見ゆ出した。近づくに從つて淡碧色が消ゆて山の綠を浮び出す、Y君のいふ通り森林もない樣だ處々白く禿けてゐる部分が尾を曳いて海岸に迄達してゐる海岸は大低絶壁の樣になつてゐる。したがいくら人間の力でも留鹽山の樣に山形を變へるには中々骨が折れるに違ない。三十年も近く採石をやつてゐる此島の事だからきつとひどくなつて居ると思つたが聊か案外の氣味なきに非ずである。

(四)

海上二時間半の航海を終つて無事豐浦へ着いた。一先づ宿屋

へ落着いた僕等は風呂場で水をかぶつて汗を落して二階へ上る
汽船はもう右手の鼻の近くを靜かにすべつて行きつゝある。宿屋といふた處で小さな村の事だから大した家ちあない。御客があるかと聞いて見ると、宿の主人は苦笑ひをしながらあんまりないといふ、それでも　左、北木島　右、白石島
二三日前迄學生さんが避暑に來られて居られといふ、何んでも岡山の專門學校の學生さんでむづかしい英語(?)を使はれるので皆が解らず、面喰ふのを面白がつて色々な言葉を教へてくれたといふ。



毎朝、起きなさる時には　グツト　モーニングとか云うて居たさうなグツトモーニング　はおかしなとY君がいへば、私等も可笑しいと思つてますといふ、それで宿の連中は學生さんをモーニングさんと呼ぶ事にしたといふ。それから私の事はフアタさん、家内の事をムツタさん　あいつが時々ムツトするからでせう、内の娘はメッチャン〳〵いふて云ましたといふ。Y君はクス〳〵笑つて居る、僕にはさつぱり解らない。
處へ娘が母親と一所に晝飯の膳を運んで來る　可愛い娘だ。
「やあメッチャンがめかして來たれ、イツヒ・リー・ベイ・チンとか何とか云ふ處だな」
とY君がひやかせば　眞赤になつて下りて行く。
「學生さんもそない云ふていやはりました　イ・チン・チンちうのは奇麗な娘ちう事だんな」
と大阪生れらしい母親が話だす。Y君はニコ〳〵笑ひながら。皆獨逸語だと話して聞かせた。

何事も知らぬフアタや　メッチャンに
ムツタな言葉　ごいつ(獨逸)教へし。

晝飯かすんだら一休してから、血の濱と金風呂を案內爲ませうといふ事になつた。涼しい濱風が通るので、平和な宿の二階に大の字になつたY君はいつか鼾をかいて寢てしまふ。僕も聊かくたびれたので一寢入する事にして三時頃から案內してくれと賴むで　橫になつた。
人家は夫でも五十戶はあろうか、此の靜かな豐浦に一月でも遊んで居たい氣がする。都會の人達はやれ須磨だ、別府だと騷いでゐるが。本當に靜な　夏を送るなら斯ういふ所へ來たらよささうなものだと思ひながら　いつか寢込んでしまつた。
Yさんが起しに來たのは四時近くであつた。あんまりよい氣持で寢て居やはるので、遠慮をしたといふ。遠慮はよいが豫定が狂やしないかといへば、船を用意したから大丈夫だといふ。そこでメッチャンの持つた來た浴衣を僕は着込んで草履を穿いて出掛ける事にした、Y君は相變らず大きな靴を離さない大切

な寫眞器を肩から掛けて、汗ばんだ夏服を着込んで平氣である。

Y君の靴は有名なものだ、先年大切の靴を二足盜まれて大に閉口した話がある、丁度或る靴屋に出來合ひの十二文といふのがあつた、聞いて見ると露西亞の陸軍大佐が大阪ホテルに滯在中注文をした品ださうだが、ちつと大き過ぎた。それがY君の足には丁度よかつたY君は大に助かつたと喜んだが靴屋も同時に持て餘の靴が賣れて喜んださうだ。其時Y君の讀んだ狂句と狂歌がある。

靴(苦痛)二束盜られてうれし春の雨。

靴々と笑ふな　日露協商の
夏來るらん、今日のよろこび

この話を聞いたとき僕の送つた川柳。

新しい靴おろしやと旦那いひ。
外國の御客でないと下女話し。

(五)

豐浦の濱から船に乘り込んだ僕等一行は、西の鼻を廻つて血の濱に上陸した。

濱の兩側の突角にも所々採掘の跡はあるが、それは昔の名殘で此頃では海岸にあまり近い處は採らぬ事にしたさうだ。山の腹から出す石でないと上等の品でないさうだ、實際花崗岩の外膚は多年の風雨に曝されて自然に分解を起して居るから、ボロ〳〵になつて居る。從つて此の附近で第一の丁場といはれる血の濱の採掘場は海岸からは見ゑぬ山の懷に在る。

急勾配の阪を上つて行くと、濱は脚下に紺碧を湛へてゐる。船頭は命ぜられた儘に船を金風呂の濱に向けて漕ぎ出した。新しく起る波のうねりが、のたり〳〵と廣かつて行く、よい景色だ。Y君は寫眞器を抱いて撮りたそうな顏をしてゐる、處へハイ〳〵といふ聲、見ると一輪車へ石材を載せて一人の男が急坂を下りて來る、梶棒は二本あるが、調子を取つて轢る轍の太い跡を殘して見る間に行つてしまふ。

やがて阪盡きて孃地へ出るそこら邊採石の處狹き迄に轉かつてゐる。破片は積んで崖をなし、小塊は形づけられ、列べられてゐる、左手の崖から太い針金が向ふの絕壁へ渡されて大きな幕が下つてゐる。見上ぐる樣な絕壁は一種異樣の膚を曝して處々へ打ち込まれた鐵棒の跡がある、そして爆藥を裝置したらしい部分は黑く燻つてゐる。天然の岩壁には夫々に岩層の割れ目がある石工は此の割れ目を利用して徑一吋內外の金棒を丹念に打込のである、其穿ち得た穴の底に爆藥を宿す、岩壁の頂から



血の濱丁場

順次に爆裂せしめて墓地に轉び出した岩塊を彼等は夫々に所理をする。所理をするといふ條これが彼等の日課である。大塊を岩壁から切り採る方法は大仕掛であるけれども多少科學的の方法を利用してゐる丈に樂であるが、塊岩を要求の形に所理する方法は今尚幼稚である丈に、困難で厄介である、彼等は鑛の樣な巨岩の背中に小さな穴を丹念に穿つて行く、そして石斧を打ち込んで二つに割り三つに割り四つに割り五つに割り續けて行く、困難や厄介は彼等の頭にない朝から晩まで、日のある限り同じ仕事を繰り返して行く、そして一つの巨岩は見違へる樣な石材となつて墓地の上に陳べられるのである、冬の朝。夏の夕彼等は堅い石に堅い心を打ち込んで居るのである。僕は思つた此等の堅實な修業を積んだ者が集まつて旅順の攻撃に參加したならば、彼等は二龍山の攻略や鷄冠山の正攻に偉勳を奏したに違いないと、僕は思つた、彼等の樣な体度と彼等の樣な心念を以て進んだら如何なる難業も仕上げる事が出來やうと。

日はまだ高いとはいへ斜に射込む烈しい熱と光とを遮る爲めに彼等はあの大きな幕を下げたのである見給へ、モンマスの樣な巨岩が横はつて居るではないか、その汚い外膚は剝ぎ取られて、白い美しい花崗石の長い体が、肩の處や腰の所へ少さな穴を直線形に穿たれて横つて居るではないか、岩に若し生命があるものならば、彼等は自然の懷から伐り出され、外膚を剝かれ生々しい肉を夕照に曝されて、苦腦を訴へてゐるに違いない。鼻唄を唱いながら穴を穿つ無念の石工は左手に鑿を右手に鎚を扛けて打つ。打つ度に巨岩はガンと鳴る、ガンと呻る如何にも男らしい悲鳴ではあるまいか、鯉魚は俎の上に靜かである、是は暑い夏の日に軀を横へて眠つてゐる、鎚の動く度にその男らしい鳴響は岩壁に當り、谷を越へて、靜寂の天地を動かして山靈と鳴る。僕は耳に異樣の反響を聞いて驚くべき努力と自然の偉大なる暗示を感じない譯には行かなかつた。

Y君は崖の上の岩に寫眞機を据ゑて此の物凄い光景を四五寸の箱に收めやうとしてゐる。僕が若し畫家ならば、滿身の熱血を注いで此の天然の一大活劇を畫き出したいと思つた。そして自然の宿から採り出れて人間の文明の舞臺に異なつた生命を與へられて生まれ變つて行く巖石の魂を吊らつてやりたい。併し僕等は建築士である寧ろ埃及人や希臘人がやつた樣に彼等に特種の使命を敎へて不朽の文學に刻み込むのが役目である。さうだ僕等は彼等の靈に新しい光を與へて、新しい意義ある使命を授けてやる義務がある。

心あらば巖の宿を逃れ出でよ
永き命を築き建てなん。

（六）

血の濱の石は北木島産中の第一と稱せられる。次いでは金風呂産のものであるさうである、堅實な岩質と美しい膚の色とは其道の人をして愛惜の情を起さしめるとの事である。

僕等は西側の坂道を下りながら金風呂の濱を眺めた、山稜崎峨として西の空を限る、其の尾は延びて鵜石の鼻を青海の波に浮べてゐる、右手に白石島の低い姿が横はつてゐる。僕等の乘つて來た船はすぐ向ふの濱についてゐる。

僕等は坂を下り石材の散亂してゐる金風呂の濱に出た。村は

西の濱に在るのだが、三四十戸の寒村である。金風呂の濱を抱く谷は中央に山の尾が延びて二つになつてゐる。石丁場のあるのは其東の谷である。

小さな流に沿ふて石材運搬の道がついてゐる。松並木の間を潺湲と流るゝ水の色は清い、汗の多いY君は白いハンカチを流に浸して顔を洗つた。浴衣掛の僕は大に樂である。

「どうです。やはり浴衣がよかつたでせう」

「いや大した事もないが、上衣が汗になつたので、氣持が惡い」

といひながらY君は上着を脫がうとしない。Y君は時々意地といはうか、痩我慢といはうか、辛棒を押通す癖がある、暑いときは熱い茶を飲み、寒い時は冷水摩擦を行るのを自慢にしてゐる、其癖冷水摩擦は一冬續けるかどうか疑問である、夏でも氷水を飲まない樣にして居るといひながら、可なり飲むのを見ると當にならない、禪宗で云ふ閻梨を寒殺し、或は熱殺する底の修業の積りに違いないが、わざ〳〵苦しまんでもよさそうなものである。

右手の山腹に四ケ所の丁場がある。左手は血の濱の鼻から續いた山積の中腹に四ケ所乍りの丁場がある。石工長の名を夫々取て付けてあるが、總稱して金風呂の丁場といふ、奥に在るを奥丁場といふさうな。

僕等は先づ右の丁場から視察を始めた。山は低いが丁場の所へ行つて見ると斷崖は可なりの高さに聳え立つて居る。千才以上の岩石を中段から墜落せしめやうとする石工の努力を見と同情に堪えない。西日の當らぬ丈は樂であるが仕事着は連日の汗に浸つて。巖の膚と大した變りもない迄に汚れてゐる。銅さまがふ顔の色、鐵の樣な其腕は汗で光つてゐる。そんな事に頓着ない石工は鑿を打込み槓杆を使つて、五分を動かし、一寸を移す。下手には五六才の子供が二三人破片を捨つては傍に積む。

正に現世の磧の河原である。

Y君は一人の子供の頭を押へて。

「感心だね、幾つになる」



金風呂奥丁場西山

と聞いて見る、子供は怪体な顔をして默つて居る。

Kさんは

「この位から丁場に養はれると、よい職人になりますがれ、なまじ小學校にやつたり、本を讀んだものはあきまへん」。

「どうして」と僕は思はず聞き返した。

「辛棒が出來まへん、此山に十年廿年の辛棒をしてゐるものは皆子供の時から、仕込まれてまんれ途中から來たものや、學

校に上つたものは、理屈はかりいふてとても辛棒は出來まへんがな」

Y君は感心した顔を上げて、その子供の顔と、上に働いて居るその親との顔を見比べた、僕も此一種の眞理に耳を傾けずには居られなかつた。世の教育家にも一つの參考材料だと思つたそして途中から止めて山を飛び出し都會に走つたものや、簡純な石工生活に飽きて他の職業に移つたものの將來と、十年一日面壁の達摩生活を遂げるものと、何れが幸福であるか一寸判斷が付かなかつた。そして北木島の多くの石工の將來を憂へずには居られなかつた。學問の普及は國家の慶事である、乍然學を好むものは山村の小天地に留まるを欲しない、未來の夢を畫いて都會に走る、斯くて近き將來には石工の新陳代謝に苦しまなければならないと同時に、組織の上に革命が起りて來るのであろまいか。

（七）

Kさんは考へに沈んでゐる僕の肩を叩いて。

「御覽なさい向ふ山で ダイナマイトを仕掛けましたよつて赤い旗を振つて居りませう、これから爆發をさせるさかい注意をしてゐるのだす」

見ると東山の中腹一帶に亂石を積んだ丁場が四五箇所ばかり在る、四十度位の急坂か松の間を縫ふて、丁場から麓に通してゐる。人や馬や車や家は可なり小さく見るので、何んの事はない蟻の穴の附近を廓大した樣に覺られる。石の破片は實際捨て場に困つて居るらしい、建築場でも困るのだが、此の大きな舞臺では殊更其量が多いので苦しむらしい。さればといふて外に使ひ道がないから自然と谷へ放下す、其處に石片の山が盛られてゐる譯ある。

東山の丁場の一番高い所に在るものは人の努力が頂上に迄屆いてゐる、今し其岩壁を碎かんとする裝置の完成を知らすが爲めに赤旗を振つて居た男が、姿を松林の影に沒するや、間もなく岩壁の一角から黑烟が湧くと見る間に其の部分は崩壞を初め轟然たる響音が僕等の山に衝突して物凄い山鳴が鳴り渡る、偉大なる山の悲鳴である。活動寫眞で音のない爆發を見てゐる僕等は活動寫眞の實演を觀せられた樣なものである。

次の瞬間には烟の消散するに連れて岩塊の大きな破片は、臺場の上に轉倒してゐる。

Kさんは山續の丁場を次から次へ案內をしてくれた。丁場の樣子は同じ樣であるが中には背合せの岩壁を兩方から崩して行つて連絡するに近いものもあつた。崩し落した石塊を所理してしまつて、今度は亦岩壁の頂上から鐵の棒を打込んでゐる處もあつた、所理するのも隨分と骨の打れるものであるが、一段落が付いて更らに新たな一角から仕事を始めるときは、何となくがりかりするそうである。殊に良い質の石は底の方に在るのだから、初め崩し出す部分は注文の大さとの品質のよい材を得ることが困難である。時とすると折角伐り採つた石塊を割り損じて大材を得るに二重の手間を繰り返さなくてはならぬ事もあるさうた、其時には折角伐り採つた石塊の所理を付けてからでないと困る事になる、現に第三番目の丁場では惜しい事に二三日前に伐り出した大塊の寸間が足らぬので、之れを相當の材に割

りたいのだけれども、時が許さないので、手取り早く片端から割り砕いてよい石質の大塊をいや〳〵ながら石垣用の間地材に方付けて居たのである。

日は傾きかゝる、Kさんは東山の案内を躊躇した、僕は一通り見て置きたかつたのと、各丁場の石質を比較研究がしたかつたから無理に急坂を登ることにした。

Y君はもうよさそうなもんだといふ顔色であつたが、默つて付いて來た。



金風呂奥丁場東山

同じ丁場の石でも上層と下層では石質は大に異なるのだから丁場が異へは又相違のあるのは當り前である。僕は丁場毎に手頃の破片を採集して來たが、一寸其石質の差は判し得ないけれども、Kさんに見せると、見事に區別を立てゝ居る、經驗と熟練とは大切な事は知つてゐるか今更ながら感心せざるを得ないではないが。

東側の丁場は西側より高い所に在るので大分に骨が折れた、さすがのY君も弱つて見た、僕は目的があるから差まで大儀でもない、今日爆發した丁場の臺地に上ると西側の丁場は指呼の內に在る、道具を仕末して歸り掛けてゐる石工の蟻の樣に動くのを見る、最前の崩壞した場所を一巡して亂雜な格好の岩塊を見ると之れを割つて行く彼等の努力に敬意を表せずには居られなかつた。

奥の丁場では玄蕃形の石材を造つて居た。

暑い照る日もよ、風の吹く日もよ。
俺が心わよ、　變る事かいよ。

手鎚を扛げて打つ調子に合して、五六人の石工は唄つてゐる一打一撃に力を込むる彼等の仕事は頗る單調である、其單調を色どる彼等の唄は自然の詩でなければならぬ。

峰の白雪や　朝日で解ける
主が謎なら　寢て解ける。

ゑい〳〵、うん〳〵。彼等は丹念の鏨を打つ。Y君は早速寫眞機を据ゑて、折からの夕照を受けた此の丁場の光景を收めたのである。

行つて吳れるな　備後の瓶へ
主は歸らず　日は暮れる。

夕暮の霧が掛つて行く谷を、彼等の唱歌が流れて行く、鴉が二つ三つ、血の濱の方へ飛んで行く、僕等は彼等の唄に送られて山を下つた。

船に乘つた僕等の一行は、夕照の輝く波を分けて鵜石の鼻の丁場を一巡して今日の行程を終らんとするのである。此所も金

風呂と大した相違のない結構の岩壁を穿つて數個所の丁場がある、其三つは殆んど連絡して居る、此處は突角の鼻であるから伐り出し岩石は、直ぐに海岸に抛け落される便利がある。西側の丁場からは瀬戸の海岸が一望される、折からの干潮の流れは渦を畫いて、まぶしい光を輝り返す。Y君は默念と立つて白石島の空に畫き出された彩雲の刻々の變化を眺めてゐる。

Kさんは僕等を促して鼻を下りた。船頭は櫂を上げて岸を衝く、船は新しい波紋を織り出して一路靜かに豐浦に向つた。

Y君はがつかりしたやふな顏をして金風呂寒村一帶の夕暮を眺めてゐる、それでも紫色の烟が夕露の間に立昇つてゐる・僕はなんだか眠くなつた。Kさんも默つてゐる。

船が豐浦の濱に近づいたとき、洋服をぬいだY君はやつといつて飛び來んだ。拔手を切つて泳いで行く。

岸にはメッチャンが僕等一行の歸つて來るのを待つて居た。

□南部日本は於ける花崗石丁場□

兵庫縣　住吉村、男鹿島

岡山縣　大島、西片岡、大安寺、大口島、野谷村、北木島、鹽生、足守町

廣島縣　向島、百島、河內村、吉松、東能美島、倉橋島

山口縣　黑髮島、大津島、中の關、大海

香川縣　庵治、土庄村、北浦村、大部村、福田村、與島村、廣島村、直島

愛媛縣　宮窪村、餘所國

福岡縣　黑崎村、馬敷、二日市、曾根田

熊本縣　月瀨村、久重村

附點あるものは島峽にして運搬を全く海路に依るものなり



學校建築と火災

第四部員　T　N　生

（一）

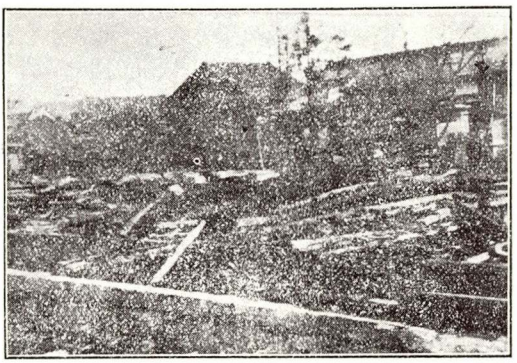
大正六年度に於ける學校建築の失火燒失せるもの頗る多し、殊に昨年上半季に於ては失火頻々として各都市を襲ひ、殊に東京洲崎遊廓の大火、大阪病院の燒失、葦分倉庫の大爆發、長崎縣下に於ける臨時劇場の燒失に伴ふ慘劇や、福井米澤兩市に於ける大火等は今猶世人の記憶に新なる處なるべし。

されど吾人をして特に忘る能はざらしむるものは、各府縣に於ける學校建築が祝融氏の襲ふ所となりたる事實なりとす。今吾人の記憶するものを列擧するも尙十指に餘るを見る。

日時	府縣	校名	燒失程度	原因	構造
一月十九日	大阪	醫科大學校	半類燒	木造二階建モルタル塗	
同　日	同	中ノ島小學校	全燒類燒	木造二階建板張	
三月廿八日	兵庫	關西學院中學部	全燒過失	木造二階建板張	
五月五日	大阪	芦分小學校	全燒類燒	木造二階建板張	
五月廿二日	山形	米澤高等女學校	全燒類燒	木造二階建板張	
同　日	同	九の里裁縫女學校	全燒類燒	木造二階建板張	
六月十日	東京	中央大學校	全燒不明	煉瓦造二階建	
七月廿七日	大阪	堺高等女學校	全燒過失	木造二階建板張	
七月九日	神戸	神湊商業學校	半燒不明	木造二階建板張	
十二月四日	神戸	縣立商業學校	全燒不明	木造二階建板張	
十二月九日	宮崎	縣立宮崎中學校	全燒不明	木造二階建板張	

以上列記の諸學校中、大阪醫科大學校の如きは、半燒なりと雖、其主要なる大學病院建物は過失に基きて發火二時間ならずして燒失せるのみならず、餘燼は西隣の中ノ島小學校舍を燒失し大學校舍亦類燒の厄に相遇せるは記憶に印せらるべし、幸にして西隣なる大倉商業學校は僅

かに災厄を免れ得たるも、木造二階建板張なりしを以て危險至極なりしなり。關西學院は郊外に建てられありたるを以て中學部建物及其附屬舍を燒失せし丈に過ぎざりしも芦分小學校の如きは芦分倉庫の爆發による猛火の一襲に忽ち烏有となり、米澤市の大火に伴ふ災害建物中二女學校の如きは瞬時にして燒失せるを聞く。


神戸商業學校燒跡（一）

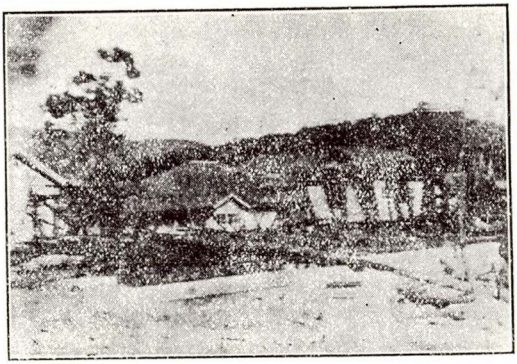
此等の事實は猛火の襲來に何等の抵抗力なき學校建築の現狀を說明せるものにして既に一年餘を經過して之が善後策の立たざるものあり、或は改築の計畫すら爲し得ざるものあり、其有形無形の損害は多額なりといふべし。

就中一中央大學校が煉瓦造二階建にして近隣に損害を與へざりし效果を示せる外、原因不明或は過失による自火を惹起して一朝にして烏有となれるもの多き事實は果して何を語れる此等の建物は實に火災にして何等の抵抗力なきのみならず、近隣に對して多大なる危險性を俱有するものなる也、神戸縣立商業學校の如きは、東隣に縣立病院の木造平家建數棟と近接しありたれば、病院内の混亂騷動は言語に絕し、大阪病院の災害と殆んど同一程度の苦痛を味はしめたり是元より全病院建築が不用意なる可燃性建物なる爲なるは勿論也殊に西風强く火勢猛烈なりしも幸に何等患者に慘害あらざりしと雖も輕重患者をして狼狽奔狂せしめたる如き慄然たらざるを得ざるものあり。

而して此等の建物が殆んど二階建の木造建築なると出火原因が過失に基くもの多きは注意すべき現象ならずや、不明の原因は要するに過失

に近きものならざるを得ず、唯多くの場合原因を不明に歸して責任を回避するの惡習を示すの愚を演じつゝある也。

乍然畢竟此等の建物が殆んど可燃燒建築なるが爲めに、隨時自火となく類燒となく、朝に一校を燒き、夕に一校を失ふは當然の事實なりとす。年々歲々此等の校舍を失ひて、果して各其復舊をなし得べきものなるや、殆んど改築の計すら成らざるものあるを觀て、吾人は世上識者の一考を煩はさざるを得ざるものあり。

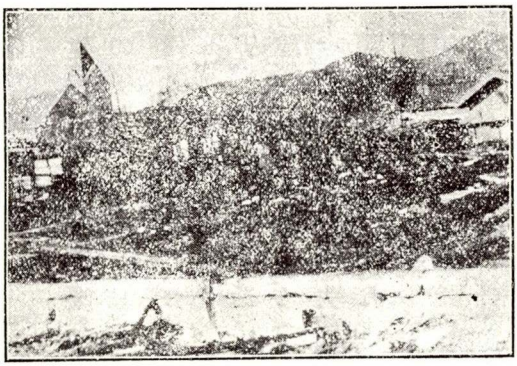


神戸商業學校燒跡（二）

此種の建築構造に成る學校舍は全國到る處に建設せられある也、幸にして不時の炎害が起らざる爲めに經營者並びに當事者關係者は平然として現狀に滿足せるかの如く、他の失火過失の困厄も對岸の火災視して脚下の危險に氣が付つざる樣子なり。されど木造板張の學校建築が些細なる過失のために出火するや、一瞬時にして烏有に歸すべき事實は誰しも認むべし、只其不慮の災厄の來らざるを是れ希ふの外なき也、而して多くの學校は郊外に在るが爲めに自火を過たざる限り先以て無事なるを得べしと雖も都市に於ける建築は大に之に異なり類燒となく自火となく附近に與ふる影響に至りては殊に重大なるものあり。

大阪北區大火の際、火元に近かき、小學校の大建物の類燒によつて、廓大されたるごとき事實は否むべからず。市內に在りては敷地の廣大なるを得べからざるが爲めに、敷地の大半は擧げて建物の占領するところとなり、且つ二層三層の大建築となるは世人の知るところなり、大阪府に在りては、建築取締規則の拘束によりて

四層以上の木造建物は許可する事なしと雖、尚未だ都市安寧の爲に徹底する所なし。今日將來永遠の計を爲さんと欲せば此等學校建物は市内に於る公舘建築中量に於て高さに於て大さに於て、可なり重要なる性質を倶有す、殊に市民の子弟が養育螢雪の功を積むるの殿堂たる以上は更らに安寧なる不燃失構造物に改善するの急務を感せざるを得ず、殊に富裕なる吾大阪市に在りては、貧弱なる我國の現狀に於ても相當の經費を投じて經營せる小學校可なり多し、此等の建物の講堂或は大教室に贅澤と



神戸商業學校燒跡（三）

思はるゝ底の經費を投ずる餘力あらば、進んで一層安固なる堅實なる自他に對して有益なる耐火耐震構造を採用して改善の實を擧ぐるの考慮ありて然るべき也。市府當局者並びに監督官廳亦思を茲に潜めて將來を指導すべに非ずや。近時大阪監獄の移轉問題の研究調査を進めつゝあるを聞く、而して新設せらるべき建物は堅固なる煉瓦造か剛堅なる「コンクリート」造に依るべき事は誰しも異存なきが如し、社會を毒し社會を犯し社會に容れらざる囚人のために經費を惜まざる市民は、須らく、貴重なる自家の子弟を敎養すべき建物に永遠の考慮を廻らし、充分なる計畫を立てゝ現狀の改善を策すべきに非ずや。

（二）

吾國の現狀に在りては、必要なるべき多くの公舘が今尚可燃性建物にて滿足せざるべからざる有樣なれば、多くの學校建築が千變一律なる木造を採用せる事決して怪しむに足らず、されど各學校建築經營者が、想を百年の後に馳せ、

文部當局者亦國家教育の源泉に溯つて悟る處あらば、或は又世の多くの出資者が國家經濟上の打算得失を深く識る所あらば、學校建築の現狀は甚だ以て不可解の現象たる所謂を發見するに苦しまざるべし。

吾人は敢わて學校建築をのみ國家に必要なりと云はず、國家將來の文明を建設する上に於て吾國民の多方面の活動に伴ふ各種の公共建築は必ずや、世界の進運に應じて科學的理解ある結構を有し、不時の災害に對する充分なる抵抗力を有し、殊に都市の建築に在りては、恐るべき大火の慘劇を防止すべき政策の下に不燃失構造に依るべき所謂は每號本誌の稱導する處なり。

されど國民教育が國家の重要なる施設の一なるが如く、學校建築の現狀を改善するは刻下の急務の一たらずんばあらざる也。世人は國民教育の改善、進步、發達は一日も忽にすべからざる事を知れり、政府は臨時教育調査會を組織して焦眉の急なる義務に關する年限短縮の問題を研究調査せしめたり。されど船頭多きは船山に登る如く、兎角調査會に於ける最後の斷案は頗る枯息なる一時的彌縫策に過ぎざるの感あり、蓋し理想的なる快案は實行に遠く、適切なる便案は理想に遠く、結局中庸の說が多數の贊同を得て成案となるの嫌なきに非ず、從つて溫健の成案と稱すべけんも、國家百年の大計を樹立すべき有用確益なる重案たらざる也、所謂快刀亂麻を斷つ底の利及の薰あらざる也、而して其の成案が今日の一時的救濟には或は成功すべけんも遂に百年の將來を稗益すべき何等の效果は見るべからざるや必せり。是れ實に調査會が國民教育の大局より打算し根底より洗つて掛らざる不明に歸せざるべかざる也。現狀の救濟適用に利せん爲めに、出立點を過ちつゝある也、世人亦眞の調査研究に信賴して一時的彌縫策の止むなき事を承認しつゝある也。

國民教育の緊要なる大問題すら斯くの如き現狀に在りては學校建築の改善革正が同一軌上を辿りつゝあるは怪しむに足らず、由來內閣の交徹行はるゝ每に八省の一たる文部省は最も輕視

せらるゝ傾向を有し、主務大臣といひ、其經費豫算額といひ常に貧弱の稱あり、世人亦當然の事となす亦何とかいはんや。

されど改善は進歩を促し、進歩は發展を導くものならば、決して現狀に滿足し一時的施設に沒頭すべからざるものあるを覺ゆる也、

今日の學制問題の得失は吾人の論すべき範圍に屬せず、されど學校建築に對する國民の理解の甚だ薄く、重要なる位置にある識者亦何等の抱負なき現狀は其建物の經營法を觀て思ひ半ばに過ぐるものある也。

學制問題が常に現狀の一時的救濟に沒頭しつゝある如く、學校建築も亦現狀の應急維持を是事として、何等將來に亘りて大局の打算をなさゝるを觀て、吾人は衷心歎息せざるを得ざるもの也。學校建築が今日斯くの如き貧弱にして一時的枯息策によつて、經營され、計畫されつゝあるは、主として經濟上の壓迫によるものなりとす。されど年々歳々數校數舍を燒失し行くは果して經濟上の打算に於て、策の得たるものなるべきか、若し或程度の資金により可燃性の新館成りたりとせよ、併して翌日過失か放火か類燒かの厄に遇ひたりとせよ、當事者は幸に火災保險金の賠償によりて得たる處ありとするも到底新館其儘の復興は出來得べくもあらずしてしかも之れが復舊は成就せざるべからざるべし乃ち資金の調達に奔走して、漸く復舊の策立つとせんか、吾人は此二重の努力を最初に斷行して、不燃失構造の建築物を建設するの賢明なるを思はずんば非ざるなり。而して當事者の安心被敎育者の幸福の外、社會的より見れば保險業者の福音たるべき也、出資者の勞も亦酬ひ得らるべき也、國家亦其損害を減少し得べき也。

されば新校を經營するにせよ。改築を計畫するにせよ。苟も大局の打算を出立點として永遠の計を成さゞれば、其目的は效果を齎らざるべし。吾人は大阪高等工業學校の移轉問題を聞いて、其新設せらるべき校舍が木骨板張なりと知りて、文部當局者の反省を促し、市の有力者の猛省を乞はざるを得ざる也、世の識者は大阪高

等工學校は政府の計畫しつゝあるものなるが故に放擲しつゝあるや、大阪市に於ける唯一の高等工業學校が今日の時勢に、木造一點張の新館を計畫されつゝありと知つて、對岸の火災を視るが如き態度にて差支なかるべきか。殊に現在校舍が主として、不燃失構造物より成るを見て學校當事者が殊更可燃性建物に移動するの方策執るを怪まざるを得ざる也。

學校建築は歐米諸國に在りては、殊に重要視され建築條例の拘束と科學的理解並びに經濟上の打算よりして、簡明壯重の外觀と不燃失物構造とより成るを觀て、常に彼等の賢明と幸福とを感せざるを得ず。

由來學校建築は其學校の歷史校風並びに精神を体現すべき性質のものたる也、只吾國に在りては到底一校の風格を体現すべき建築を成就する事は能はざるべし。されど其構造並びに設備に於ては事實に於て改善の實を擧げ得べきを信せんとす。

故森有禮子が文相として鋭意果斷なる施設を斷行し着々理想に向つて幕進せしは明治時代を通じて一世の歎稱を購ひ得たる處なるのみならず、其効果の著しきは自から定評あると雖、子が學校建築に對する徹底的理解ありしは吾人の歎稱措く能はざる處なりとす。蓋し夙に歐米各國の視察研究を怠らざりし子は學校建築の堅實なるべき結構を必要とし且つ之が實行を劃策せり、彼れが國民敎育の大綱を立つるや、新時代を指導すべき敎員を養成するの急務を感じ、各等師範學校を建設するや、特に技師を囑して煉瓦造の大建築を東京外神田茗溪の北岸に建てゝ各等師範學校の最高學壇とせり、實に現時の東京女子高等師範學校の建物是也、其規模の雄大なる今日に在りても異數なりとす、文部省を始め各官衙が今以て木造の假建築なるを觀れば彼此對照の妙を感せざるを得ず。

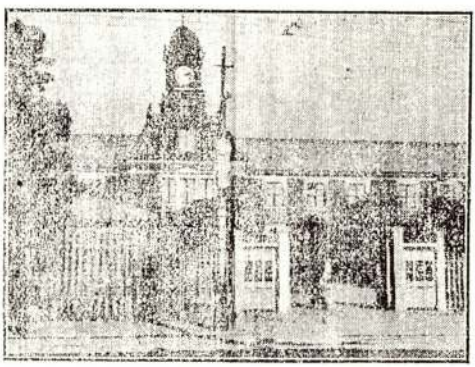
又我國學府の最高殿堂たる大學校の建築は如何なりしか、虎の門外に在る大學南校の舊建物及び本鄉臺上の現建築を觀れば明かに彼れの施設の凡庸ならざるを知るべし。

されど爾來歷代の文相の施設の輕重は其經營せる學校建築によつて判するを得べし、就中樺山文相の慧眼は默々の間に數多の建設的施設を殘せる如し、伯は學校建築の永久性を必要とし出來得る限り煉瓦造を建設せしめたり、而して伯の恩惠に浴したるもの豈學生のみといはんや國家の受くる有形無形の利潤は少なからざる也

敎育家にして學校建築の重要なる威嚴を保たしむるに留意したるは男爵濱尾氏なり、彼は再三大學總長の任に就き銳意大學講內の建物の統一、配置に注意を怠らず、男は決して道樂に道路を修理し、樹木を並べたるに非ず、男は名のために大學正門を建設したるに非ざる也、男の觀る所は頗る深重なる考慮に基くものある也。

斯くの如き先覺者の施設、建築に關する特種の理解は吾人をして空谷の恐音を聞くが如く曉天の星の如し、一世を擧げて急を追ひ、粗を離れず、貧弱浮薄の學校建物を建築して恬然愧ぢざるが如し現時各種學生の風潮に非難多きは當然ならざるを得ず。吾人は進んで其要義を說かんとす。

吾人は第四十議會に提出せる政府案中文部省管下に於て高等學校增設の豫算計上しあるを知る、現在七高等學校中、第一、第四、及び第五



第一高等學校

を除きては皆木造二階建の建物にて滿足せざるべからざる現狀なり而して煉瓦造二階建の本館を有する三校も漸時增築せる建物は又木造たらざるを得ざる有樣なり、此際に當りて今回の文部省豫算案が幸に通過を見る事ありとするも、新設高等學校建築は亦木造一點張の構造に依るべき事火を觀るよりも明かなり。而して是の不安建築を急造して、現狀を救濟せんとする當局

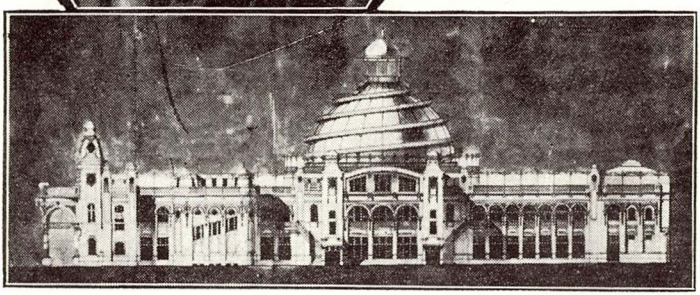
者の苦衷は諒とするも、何ぞ大局より打算して堂々たる建築を建設すべき豫算案を提出せざる當局者亦何等抱負なきは議院建築問題に於ても之を證すべし議員諸氏は須らく將來永遠の策を立て愼重審議當局者の迷夢を打破せざる世上識者亦思を百年の後に致し、粗造貧弱なる現時の建物を改善に導き高等學校新設問題の如きは進んで財源を求めて救濟を爲すべきに非すや。

國家多端の現狀にありては、諸般の施設が姑息なる彌縫策に陷るは或は止を得ぬ事情あるべしと雖も、經濟的逼迫を受け諸事思ふ儘ならぬ實情にある丈、それ丈より深くより遠く慮り謀らざるべからず。吾國今日の實情が斯くの如き有樣なるが爲めに、到底學校建築の基模、外觀、內容等に於て完備を望む事或は不可能なるべしと雖も、せめて構造設備に於て理解ある耐火耐震家屋を建設し、以て永遠に亘りての利得を擧ぐるの方策を立てざるべからず。今日の主要なる學校建築が其最貴重なる書類參考品を容るべき圖書室、模型室等の如きさへ尙耐火的安全庫を有せざるは至極滑稽に非すや、中央大學が一朝にして其貴重圖書室を燒失して狼狽せるか如きは、識者の深く考慮すべき事件なりと信ず、或は曰く建物を如何に堅固にするも、消防機關の不備あらは何にもならず、宜しく消防機關の完全を期するに如かずと、されど多くの場合に於て兩者の協力を待たざるべからざるは自明の理なり、建物其物が可燃性なる以上は、何時如何なる場合に失火すべきか豫想すべからず、而して學校建築の所有地は殊に消防機關とは遠隔の地に在り、而して一時的消防機具は多くの場合に於て有効なりし事例を認め得られず、かくて過失にせよ類燒にせよ、一溜もなく灰燼に歸す。考へざるべけんや。

之を要するに學校建築が要求すべき多の事項あるべしと雖之を我國の現狀に照し、之を過去の事例に鑑みるに須らく永遠の利に着眼して耐火耐震構造　採用するは刻下の急務たるを信ずるもの也。

故會員伊達陶二郎君と樂天地建物懸賞當選圖案





大正七年一月廿九日會員伊達陶二郎君逝く、君は明治十二年五月廿七日東京市神田區新石町に生る。東京職工徒弟學校、及東京工手學校の業を終へ、更に米國建築師ガーデナー氏に就き建築製圖術を學び、明治三十三年九月臨時陸軍建築部に俸職し、其後米國建築師下田菊次郎氏、獨逸建築師デチヲンデー氏の各事務所の薫陶を經て、東京及び横濱市役所に俸職し、明治四十四年四月大阪土地建物株式會社に招聘せられ、工事竣工後辭して神戸工務所に俸職し、專ら設計製圖に從事されつゝありき。

君資性溫厚にして精進努力、殊に設計製圖に卓越せる技能を有す。大正二年大阪千日土地建物株式會社娯樂場の懸賞募集に應じ、第一等賞に當選せしは世人の記憶に存する所なり、其他君が直接間接に關係せし建築物は牧擧に遑あらざるなり。

一月例會に君の溫容に接せる會員は君の訃を聞きて意外の感に打たれたり、享年四十前途尚君の力に俟つもの甚だ多かりき。悲哉。謹て哀悼の意を表す。

會報



會誌

一、本會雜誌第一輯第三號は大正七年二月下旬刊行し、理事會の決議に基き建築學會正員諸氏、各府縣知名有力者各種學會協會及び各新聞社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、第四十議會開期中に付き、衆議院各政黨本部並びに貴族院各派事務所へ宛本號寄贈の必要を認め理事會の決議に基き各數十部を發送したり。

職員移動

伊藤正文君は理事會の決議により編經補に推されたり。

新入會員

一、左の諸氏は第十回例會の決議により會員として入會せられたり。

森山松之助　西村慥爾
横井謙介

一、左の諸氏は本年一月名譽賛助員として本會より推選し、好く承諾せられたり。

（イロハ順）

池田經三郎　池上四郎
片岡直輝　永田仁助
山岡順太郎　松方正雄
牧野元良　小山健三
佐多愛彦　平賀敏

一、左の諸氏は本年二月本會終身賛助員として入會せられたり。

野澤幸三郎　原田金次郎

一、左の諸氏は今回本會の普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

内田方助　笠又喜
中川仙吉　宮崎加平
近藤菊松　越智平助
久利生筑一　山田初次
岩田丈一　熊澤孫八
小山源次郎　若林季雄
武田吉太郎　須藤貫一
計十四名

普通賛助員死亡

普通賛助員、竹内兼次君は、本年二月二日、逝去せられたるが、誠に哀悼の至りなり。

寄贈雜誌及新聞紙

建築雜誌二月號（建築學會）
建築世界二月號（建築世界社）
內外建築土木時報二月號（內外建築土木時報社）

住宅　二月號（住宅改良會）
通俗衛生　大阪府衛生會
かはさき文庫　第七、第八、第九
統計書　川崎工場
帝室林野管理局
名古屋支局
木材商報　關西木材商報社
材木新聞　材木新聞
大阪朝報　大阪朝報社
北國新聞　北國新聞社

會合

特別理事會

日時　大正七年二月九日　午後六時十時
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、葛野、宗、波江
記事
一、新入會員三名の詮衡をなせり。
一、二月例會に就き打合をなし、會員の講演會を開く事に決定したり。
一、三月例會を止め、春季大會を催し、會員の親睦會を開く事を二月例會に諮る事を申合せり。
一、會則一部變更改正の件につき、意見を交換せり。
一、都市建築法令調査會設立に關する建議案成行につき、意見を交換せり。

第拾回例會

日時　大正七年二月十九日
會場　中央電氣倶樂部
出席　今林、伊藤(正)、池田(實)、原田、新海、渡邊、片岡、河合(清)、葛野、加藤谷、吉井、谷本、宗、園部、波江、内藤(益)、中島、中村、牛村、浦、上野、野村、野呂、山口、柳下、增田、舟橋、淺井、荒川、佐藤(四)、木村、岸、光安、三木、宮飼、設樂、森山。
計三十七名

記事
一、片岡理事長座長席に就き、各般の報告をなし、殊に都市建築法令調査會設立に關する建議案の成行に就き說明する所ありたり。
一、宗理事代りて座長となり、各部委員會の報告ありたる後、新入會員として左の三氏の詮衡をなし、全會一致承諾することゝなれり。
西村　慥爾　　横井　健介
森山　松之助
一、三月例會を止め、春季大會を開く事とし懇親會を兼ねて晩餐會を催す事に決議せり。
一、午後八時より講演會を開く講演者左の如し。
座席の利害　　葛野壯一郎
建築敷地に就いて　　設樂貞雄
官公署に於ける建築課の獨立　　池田實
施工法の改善に就いて　　波江悌夫
午後十時閉會、

臨時役員會

日時　大正七年三月五日　午後九時半より十時半迄。
會場　某亭
出席　片岡、武田、池田、葛野、設樂、波江。
記事
一、春季大會は三月二十三日　梅田靜觀樓に開催する事に決したり。
一、大會當日理事三名の改選をなす事とし、理事會は候補者六名を推選する事に決したり。
一、編輯補とし伊藤正文君を推すこと。
一、細則一部變更に關する意見を交換せり。
一、廣告料の改訂に關し、研究する處ありたり。
一、終身賛助員勸誘に關し打合せをなしたり。
一、當夜大阪に於ける有志建築請負業者の打合會(五日會と名づく)よりの要求に應じ、理事者一同、午後六時大阪ホテルに參會、各自意見の交換をなし晩餐を共にし、同九時半退出せり。

（以下次號）

都市計畫（三）

前紐育市技師
亞米利加土木學會々員
ネルソン、リユイス述

一九一五年桑港の萬國工學大會に於けるリユイス氏の講演



都市計畫

前紐育市技師
亞米利加土木學會會員
チルソン、リユイス述

◻ 地形の利用適應 ◻

前述の都市計畫に須要なる各條項は、實際に於ては其地形に適應せしめねばならぬのである。先第一に大下水系統を念頭に置き、又交通の大動脈を如何なる方向に取れば最も發展上無理なきやに考へ、其の勾配と曲線の程度にも深く注意を拂つて置かねばならぬ。若し、製圖室に於て地形を知悉せずして街路計畫をなさば、其地圖上に於ける價値は立派なものと雖も、事實上少しも適應のものではない。しかるに、之を無理にも實行せんか、市街築造の爲めに容易からぬ工費を要し、且勾配の急調は交通の沮害をも釀し、其市街をして永遠に少からぬ損失を負はすものと言ふべきである。故に、第一着として、其土地の測量を十分になして之を圖面に詳細に顯はすことが必要ではあるが、又餘りに詳細に亘りて無意味に時日と費用を投するは考へものである。之れ、初め街路計畫の際は、其地形の大体を基礎として其系統を定める丈けで、將來逐次に發展すべき詳細の部分には立入る必要がないからである。

最初必要なる測量は、現在の道路と下水道を調べ、谷合と分水高地を明かにし、又現在の鐵道線路と將來の增設の線路や、若しあるとすれば其の河岸又は海岸に面する場所及商業に便利なる水面の利用地域や、將來公園として價値ある地所などを一と通り之を圖に示せばそれで十分である。又、水平曲線の圖入や模型などは、最初の系統設計には非常に便利を與ふるものである。而して、系統の計畫が確定した後に、其幹線は、道路間の各區劃内の調査と其研究が必要に迫つた時に之に着手するも遲しとせず。斯くの如くして、其地形上の下水路通を第一に考へ各建物敷地の整齊分劃には十分の注意を拂ひて、副道の設計をなすべきである。

市街系統の着手の第一歩は、地平均(ランジ)である。もし、其隣接地所の價格小なる場合には、其工費は可及的切り詰めねばならぬしかるに、實際分劃の際最多數の利用地積を得る爲めに、概ね長方形の敷地のみを造らんとするから、無理な勾配や不必要な切取りを生じ工費を損するのみならず、交通路面の成績も良くない。故に、斯くの如き不利益を生ぜさらんが爲めには、なる

べく天然地形に沿ふて地積分劃を定めるようにせねばならぬ。其方が實際に於ては却て趣味ある系路を得るのである。嚴格なる碁盤格子式の道路系統に、圓圈や對角線を調和したる計畫は奏効せないことがある。なるほど、平原地に於ては、長大なる圓滑の曲線道路は好ましき感を與へもする、又對角線の道路も便利なものであるが、其平原地に急角度の曲線道路が不適當であると同じく、天然地形の高低に少しも關係なく一直線に開鑿したる道路は、非常に不都合のものであることを知らねばならぬ

公舘や半公舘の建設地は、地形測量の際に第一に考察されねばならぬ。而して斯の如き建築は、地形上最高地點を撰びて諸方より見易きことを第一とする。此等の建築が適當に置かれてあるものと其然らざるものとの著しき例に就て、イニゴー、トリップ氏は其著述に擧けて居るのは、巴里の旋凱門とベルサイユ宮殿とである。前者は、包配の最高地位に建られ諸方より見通し善きにかゝはらず、後者は、丘陵の半腹に建てられ、其東面のプラース、ダルム廣場大道路よりは立派に觀らるるが、西方より之に向ふ時は僅かに其屋根を見得るのみである。

嶮峻なる丘陵や、深刻なる溪流を其一部に有する處に計畫を樹つる時は、斯くの如き部分は街路には到底役に立たぬのであるが、將來公園としては屈竟のものである。ゆへに、幹線道路は、將來其地所へ容易に延長し得ることを考に置かればならぬ要するに、平原地の都市計畫の考と、丘陵地のそれとは、全く其考案を異にせざれば地形の利用適應と言ふことは出來ない、此點に就ては計畫者は十分の注意をなすべきである。

㊐街路詳細㊐

街路系統が適當に考慮され、各街路が相當の幅員を有して整齊に配置され、又地形の利用適應其宜しきを得ると雖も、若し車道及歩道の比例や配合其宜しきを得されば、交通上の便利は到底豫定の成績を得られぬのである。假へば、路面の構造不十分なるか、植樹の配列と其撰擇等に注意を欠く如き、街路や町名札の醜きものを並列せしむる如き、夜間の照明を怠るが如き凡て是れ街路内容の問題にして、十分なる研究を要すべきものである。而して、此等の詳細内容の程度は、必ずしも一定標準を定むることは出來ない。其街路の階級や幅員のみにより一定する譯にも行かない。已に述べた如く、一直線の長距離の街路は餘り好ましきものではなく、殊に、小路が何れも全く同じき形式に陷れるのも感心が出來ない。同しき系式の道路と雖も、なるべく一致を欠く樣に變化を加ふべく極論するものさへある殊に、甚しきは、一町内に於て、片側には單に歩道を設けて、他の側には緣樹の叢列を配合したる廣き散策道路を設くるを主張するものもある。しかしながら、斯くの如きは、地形上又事實上應用出來ない場合が多い。若し緣樹が漸々に生長した時を想像し、街路の建設未だ確定せざる場合には、其側の建築物は境界線より幾何か引き下りて、將來其側の道路取擴げをなし得る計畫を當初より考へねばならぬ。此の場合には、植樹を伐倒さずして道路の擴築が出來る利益がある。しかし、此の不等邊配置の街路計畫は、從來の亞米利加式の絕對整齊の計畫とは正反對のやり方である。街路の並樹に就てはチャレース、マルフ

オード、ロビンソン氏は「美しき市町村の心的作用として並樹を考へずには居られぬ」と言ひ、チャレース、ドーニング、レー氏は「街路の並樹は決して箇人の植込に委してはならぬ、是れ其配置や選擇を誤れば却て交通を阻害するからである」と唱へて居る。要するに、並樹の植へ方は十分に考へて、之を取扱はねばならぬものである。一般には、歩道の縁石の直ぐ背面に植ゆるを常とすれども、若し建築が多少道路境界線より引下りて築造さるゝ場合には、歩道の境界線に近き邊に植へ込むを以て勝れりとす。之れ、道路の体裁をよくし、實際利用の幅員を廣くするの利益があるからである。

街路間の地下に各種の建造をなすことは、都市計畫上非常に考慮を費やさればならぬ問題であるにも拘はらず、從來は甚しく無頓着にして、必要に迫る毎に統一を考へずして之を實施したようである。凡て、地下建造物に對しては、下水電線等各種配管修繕の必要上歩道を築造して置かねばならぬことは常に唱へらるゝが、實際それが十分に行はれて居るかを見るに、倫敦にては、一八六一年三月にガリック街に第一地下道を築きて、之を交通に開放した。初め、倫敦市にて、各種の配管修繕や擴築ある毎に、壓路面を掘り返へすが如き不便を避くる爲めに、此の新地下道（チューブ式）の計畫を爲し、巾十二呎高さ七呎半と定め、漸次其歩を進めたけれども今日まで約五十年間に僅かに四萬四千呎を完成したに過ぎない。倫敦に尋いでノッチンガム市は、約半哩の地下道を築造した。同市の技師は、一八九二年四月都市工學聯合協會の會合に報告したる其一節に「最近二十五ヶ年間に此地下道に於て小石一つも侵されたことなく又一錢も修繕費を要せざりし」と言つて其堅固なことを誇張して居る。兎に角、此等の地下道の爲めに、路面敷石を數次取り毀つ必要なき便利は大したものである。リバプール市に近き人口十萬を有する工業都市セント、ヘレンス市に於ては、二千呎以上の地下道を持つて居るが、リバプール市は僅かに三百四十五呎しか之を有たない。此外には、英吉利には餘り地下道のある都市はないのである。ミラン市は、歐大陸にては唯一の地下道を有する都市である。しかし、其地下道の大さは僅かに高さ六呎幅は四五呎に過ぎない。

巴里の下水道は、上述の目的の如く之を使用する計畫であつた。即ち、瓦斯管等は初め凡て下水道に併置されたのであるが現今にては、瓦斯管は電燈、電力等の配管と共に歩道の下に埋置され、水道管、電話、電信、壓氣管、水壓管のみ下水管内に懸置されて居る。しかし、歐洲の都市に於る地下埋設の各種配管は、北米合衆國のそれに比すれば余程小なるものにして、倫敦市の重要なる三地下道に於ける配管の平均斷面積は、僅かに六、一七平方呎なるに、紐育市のブロード街のそれは四四、〇五平方呎にして殆んど七倍以上の面積を有して居る。

亞米利加の都市に於て、路面が數次掘り返されて交通に不便を與ふることの多きは上述の如く、地下埋沒配管の多量なるによるは勿論なれども、必ずしもそれが唯一の理由とならぬのである。現に、リバプールと伯林の此二都市は、斯くの如き不体裁な路面掘り返しの儘交通阻害をなすが如きことはない。其主なる理由は、伯林のアスファルト道や、リバプールの石道は何れも其施工完全にして、其緻密なる行政の行届ける爲め、各

種の配管は歩道又は車道の或る一定したる部分に整統され、假令整統の必要起るも各處を堀り返すまでもなく、立處に其目的を果して何等交通上の不体裁を醸さぬ爲めである。

四 建築の高さ及其他の制限 四

建築の高さ、其敷地の廣さ、奥行及地内に對する建物の配置に關する取締規則は、北米合衆國にては唯單に約束としか見ることは出來ない。歐洲の各都市にては、其都市の全般の利益に對して必要なる建築條例は、時によれば箇人の所有權を行使せしめざる程に強き制裁を加へて居る。街路全面を安全に使用し得るは勿論、各種の公益の中に就て通氣と光線の妨碍さへも之を取締つて有るのみならず、一度工業を禁止せし地域には、如何なる理由によるも其意味を破るものゝ建設を許さない。私設のものと雖も、改良發展の緒に就たるものを保護することや風致を害する構造物を禁止することは、一般に行はれて居る。

多くの都市に於ては、市街に面する住居者は私用の爲めに公道面を利用するを一の慣例と心得て居るようである。商店の前には、歩道は商品の積下しの爲めに妨碍さるゝはまだしも、著しきに至りては、滑木にて歩道を横過きりて、重量の大なる貨物の搬出入をなすものさへある。又、商舗の前には、一部分に高台(プラットフォーム)を築いたり、階上の又は地下の床へ達する階段を歩道を侵して造つて居るものもある。紐育市に於ては、斯くの如き慣例を一の權利の如くに考へ、之を禁止するは公道の取締上の必要の事でありながら、恰も既得權侵害の如く見做されて居つたのである。一九一〇年に至り、初めて此の障害を除去せんとの立案により、此を實施せんとせし最初の街路は、第五街(フィフスアベニュー)であつた。初め、第五街は、車道四十呎歩道は左右各二十呎なりしも、其三十呎の歩道は、永くの間約半分に近き幅員を、事務室の車寄や階段等の爲めに占領され、甚しきに至つては、植園をなして墻垣を繞らした處さへあつた。しかるに、第五街は、業務中心の區域となり、交通の頻繁を激増するに至りしを以て、車道の四十呎を五十五呎に増し、凡ての侵害物を取毀つことを命ずるに一決した。固より、沿街各戸の大反對を豫想したのであつたが、多數のものは、其命令を以て適當の處置とし、その爲めに交通を良くし、第五街の價値を増すことゝ、曳いて地價と家賃の騰貴をも惹き起すならんと考へ、直ちに其實行を急ぐの好成績を收め得たのであつた。尋いで、北方の中央公園に達するまで是を實施し、漸次他の主要街にも及ぼし、下マンハッタンの商業中心區にまでも之を實行せしむる順序となつたのである。

都市が其街路の利用を禁制するの權能は別に問題とする價値のなきものであるが、更に進んで、街路に面する各戸の私有地内にまで相當の制裁を加ふべきものであると云ふ近代の思想は歐洲にては一般に慣例となつて表はれて居るにも拘はらず、未だ世界一般に採用されて居ると言はれぬ。(記者曰く米國が或る程度まで制裁を加へて居るにも拘はらず我國にては全然此の權利を行使しないのは近代思想を忘却したものである)種々の制裁の中に就て、最も明白なる條件は。建物の配列と其高さとである。又、敷地の奥行と間口の關係、及、建物と空地との面積割合とは衛生上最も主要なることである。而して、此等の制限は都市によつて各其條件を異にし、千差萬別到底之を一形式の下

に律することは出來ない。次には、唯其著しき實例を擧げるのみである。

建築條例の最も多く施行されて居るのは獨逸都市にして、其條項の最も複雜なのも矢張り獨逸の都市である。獨逸にては、一般に圍帶式（ゾーニング）を基礎として居るが、バウムマイステル氏が初め此の方式を唱へた時には何れも其採用に躊躇した。一八八四年に至つて、有名なるフランツ、アデッケス博士が市長となつた時に、アルトナ市に初めて此を採用した。而して、一八九一年同博士はフランクフルト、アム、マイン市の技師長として又之を同市に適用し、漸次獨逸及瑞典の各都市にまでも實行さるゝに至つたのである。此式によれば、內部即ち舊市街に、第一圍を成し、高層の建物や集團建築を許し、其內部の周圍に第二圍帶第三圍帶と外方に擴がるものにして、其圍內の建物は外廓に向つて高さを漸次に減殺すると同時に、外圍になる程空地を多くせしめるのである。二三の獨逸都市にては、各區毎に、或は各町毎に、或は新建築物毎に、それ〳〵新殊の制裁を加へて居るところもある。（此部分に對してはエフ、ビー、ウヰリヤム氏の著獨逸圍帶式建築條例の報告を見よ）

伯林にては、各戶數地の建坪制限に對する命令は、其敷地の廣さと位地により一定せざれども、奥行三十二米突未滿の敷地は、市內到る處舊市と新市街とに拘はらず同一規則に依る。奥行三十二米突以上の場合には、舊市內と新市街地とに於て其建坪制限に差異がある。即ち、道路境界線より六米突までを第一帶とし、それより三十二米突までを第二帶と名け、第一帶は敷地全部を建家となすことを得。第二帶は敷地の七割までを建坪となすことを得。若し敷地の奥行三十二米突以上ならば、舊市內にては其三十二米突より奥の部分は六割の建坪を許し、舊市外ならば五割迄としてある。而して、全建坪の計算は、一戶の敷地內を通算して其制限を超へさせれば之を許可するものにして第一帶は第二帶及帶外毎に別々に此制限を適用するものではない。

ヂュッセルドルフ市に於ては、建物の高を制限する爲に、市を五圍帶に區分し、各帶毎に二種乃至五種の階級を分ち、各級毎に建坪の制限を異にして居る。第一圍內に於て三階級あり、甲は敷地の三分の二を、乙は二分の一を（後方に建築物ある場合）丙は四分の三を（後方十米突以上を離れて建物ある場合又は二階以下の建物ある場合）建坪となすことを得る。第二圍內にも三階級あり、甲は五割を、乙は四割を（後方に建物ある場合）丙は六割も建坪となすことを得。而して、若し、各階に二組以上の住居なき場合は、四家族又は四家族以上を住居せしむることを得。第三第四及第五圍內にはそれ〳〵二種又は五種及三種の階級あり。何れも、其の建坪の制限は次第に大なり、其或る階級は三割を超ゆることが出來ぬ。（譯者曰く中央目貫の場所より場末に至るに從ひ空地を益々多くすることの獨逸式の制裁を最も極端に發揮したるものなり）

ライプチッヒ市にては、建坪に對する直接の制限はないが、建物の後方の外壁高さは、後の一り高かるべからずと規定してある。若し此を亞米利加風の都市に應用して見るに、奥行百呎にして建物高さ五十呎の場合には、敷地の約二分の一しか建坪をなすことが出來ない。七十五呎の建物を建設せんには、

四分の一しか之を利用する譯にはゆかない。

獨逸各都市は、其他のものも一般に種々の變化を有し、到底之を詳述することを許さないが、上述の例により之を見るも、一般に市街地の甚しき密集と過重の利用を禁じ、市街輪奐の兀突不揃なるを制せんとするものであることを知られねばならぬ。殊に注意すべきは、各都市とも其取締の方法こそ異なれ、其制限に對しては各自十分の尊敬心を以て從順に服從し、其都市の一般的利益の爲めには、箇人權利を或る程度まで犧牲にするを少しも嫌はざることである。（譯者曰く我國の各都市の市民は都市一般の利益の爲めには箇人權利を犧牲にすべきものなることを知らざるもの多きを悲しむ、豈獨り利己主義の亞米利加人のみならんや）。

英吉利にては、建坪制限の條例は獨逸の如く緻密のものではなく、又各都市を通じて大体同じ樣な態度を採つて居る。バーミンカム市に於ては、新築の住宅は後方に三百平方呎以上の空地を置かねばならぬことを規定し、セッフィルド市にては、矢張り住宅の後方には高さ十五呎の建物に對しては百五十平方呎高さ二十五呎の建物に對しては二百平方呎、高さ三十五呎の建物に對しては二百五十平方呎、又高さ三十五呎以上の建物に對しては三百平方呎の空地を要求して居る。（高さは大屋根の高さの半ばを取る）

北米合衆國にては、二三の都市は比較的嚴重なる規定を布き建坪制限をなし居れども、一般に獨逸都市が實施しつゝあるが如き誠實は此を欠くように見へる。其建坪制限に關する建築法規や、工場取締規則及勞働法などは、獨逸都市の如く各都市毎に其條項を異にするが矢張り其法規の精神が到底獨逸都市の如き徹底的のものではない。紐育市は、二家族以上を收容する住宅は敷地の九割を、ホテルは矢張り其敷地の九割を、若し角屋敷ならば、三階以上は九割五分までを建坪となす事を許して居る。しかし、五階以上は、各階毎に全敷地の百分の二、五の空地を增加せねばならぬことを規定してある故に、若し十五階とすれば、敷地の三割五分の空地を要し、角屋敷にて三割の空地を要する計算となる。住宅の場合には、敷地の三割五分の空地を要すれども、（角屋敷の場合には百分の八）事務室建築にては、三階以上にて九割を建坪となすことを得。もし角屋敷ならば、三千平方呎以下の時は全敷地を建坪となすことを得る。長家又は三家族以上の借家は、三千平方呎以下の地所ならば、角屋敷の場合にて其九割を建坪となし得るが、平の處にて間口三十呎以上奥行百二五呎以下の時に敷地の三割は、空地として保留せねばならぬ規定である。

市俄古市にては、借家は後方の隣界より十呎以上を離すべきを命じ、若し後方に市の路次がある場合、其路次の反對の側の境界線まで十六呎なればそれでよろしい。奥の建物は、前側の建物より十呎以上の距離を存せざれば建つることを許されぬ。若し双方の建物か同階數のものならば、それでよろしいが、一方の建物が他のものより階級の多き時は、一階毎に以上の距離に更に五呎づゝを增加せねばならぬ。又地下室を有せざる、住居の目的なき一階建築は、十呎の距離さへあれば借家建物の後に此を建つることを得る。中庭（コート）と明取り孔（シャフト）は階數を增すに從ひ其積面を大きくすることも必要としてある。

贄府に於ける敷地内制限の規定は至極簡單にして、住宅建築は、間口は十四呎を下ることを禁じ、一戸毎に一四四平方呎以上の空地を存すべきを命ずるに過ぎない。

ボストンにては、其住宅に對して、若し住宅建築が其左右何れにも空地なき時は、後庭には間口の幅一パイにして、奥行十二呎以上の空地を存し、一戸の建坪は千八百平方呎を越ゆることを得ずと規定してある。前述の如く、建築敷地に對する制裁は、都市の實際に照らし必要なることは明了であるが、其建物の高さに制限を加ふることは必ずしも道理あるものとは言へない。歐大陸殊に獨逸の都市が實施しつゝある如き、高さの制限は、果して當を得たものなるや疑問である。しかし、事實に於て、彼等は深く之を必要として進行して來たのである。

伯林市にては街路の幅より高き建物を禁じて居る。又常用の建物は、五階以上を禁し、屋根は正面軒壁の上より後方四十五度の線内に收まれば如何程高きも之に制限を加へない。路次又は中庭に面したる建物は、其空地の幅より六米突以内の高さを許し、又如何なる場合にも、總高さ二十二米突を超ゆることを禁してある。

チユツセルドルフ市は、已でに述べたる通り、五圏の區別に分割し、それ〳〵に高さの制限を異にし、第一圏内は二十米突第二圏及第三圏内は十六米突、(しかし四階を許可されたるのは二十米突)第四圏内は十六米突、第五圏は十三米突、(三階が許可されたものは十六米突)を超ゆることを禁してある。而して、如何なる場合と雖も、其面する道路の幅より高き建物は許されぬこと伯林と同じである。

ライプチツヒ市は、單に建物の高さを大跪腹の上端までとし其高さを道路の幅までと規定する外、市の中樞區に於ては、高さ二十二米突以上を禁じて居る。英吉利にては、家屋改良問題に就て甚深の注意を拂ひつゝあるにも拘はらず、建物の高さを拘束する條例は非常に貧弱である。同國にては、一九〇九年に發布したる都市計畫法に據れる各種の都市計畫案には何れも其必要を支持してあるのは事實である。エヂンバラ市は、英吉利に於ては高層建築の發生地とも言ふべき處にて可なり高き建物の散在を見る。しかし、同市は、地形上丘陵の中腹に、塔や城廓の如き宏莊な建物を建つるは地利に適應する故に、都市を美化せん目的にて、好んで此を企畫するのであることを認めて遣らればならぬ。バーミンガム市は、百呎以上の建物を禁し、又セツフヰルド市は、一九〇〇年以來は道路の幅より高き建物を許さぬことにきめた。しかし、特に許可を受くれば此以上の高さものは出來るのである。リバプール市にては、住宅の高さを相對の建物までの距離と同等までに定めあれども、事務用建物には少しも制限を設けて居ない。

北米合衆國の各都市にては、其建物の高さに於ける制裁は其敷地に對する制限と同じく大に差異あれども、一般に少しも制裁なき程に寛大なものである。現に、紐育市は、勞働法貸家法等の法規にて、住宅の高さには其面する最も廣き街路の一倍半を超ゆるを得ずとしてある以外には、建物の高さは無制限であるが故に、最近には、八百呎の高さに垂んとする世界最高の建物さへも出來た。市俄古にては、貸家及住宅は其面する最も廣き街路の一倍半の高さを限度とし、若し境界線より幾何か引下

つて建つる場合は、それ丈けの高さを増すことを許されて居る又、耐火構造の事務所建築ならば、歩道の地盤線より二百呎までは許されて居れども、一九一一年九月迄は二百六十呎までを許して居つたのである。

費府は、建物の高さには少しも制限を置がない。ボストン市は、商業地區に於て、街路の幅の二倍半までの高さを限度とし最高百二十五呎を超ゆることを禁ずれども、市の他の部分にては、八十呎を限度とし、若し片側の町なるか又は街路の幅が八十呎以上なる時は百呎までを許し、又木造建築は地下室を除きたる參階建を限度とし、其高さ四十五呎を超ゆることを禁じてある。

華盛頓市は、ペンシルバニヤ廣小路には百六十呎を高さの限度とし、其他の商業街區には、其道幅より二十呎高きものを許し、最高百三十呎を超ゆるを得ず。又住宅街にては八十五呎を限度とし、若し街路の幅七十呎以上の時は、建物の高さは其幅より十呎を減し、又道幅七十呎以下の場合は、其高さ六十呎を限度として居る。

チヤーレストン、ニューオルレアンス、クリーブランド及フオルト、ウエーンの各市は、凡て其道幅の二倍半を以て建物高さの限度とし、最高限度は、チヤーレストン市は百二十五呎、ニューオルレアンス市は百六十呎、又クリーブランドとフオルト、ウエーンは二百呎である。バッフアローとローチエスターの両市は、其高さを建物の平均幅の四倍と制限して、高さの絶對量を示さず。トロント市は、同上の如く建物の平均幅の五倍を以て高さの　度とし、百三十呎を最高と定めて居る。

更に進んで、市内と連續せる地域に對して其他の利用方法を整理又は制限するの方法は、興味ある問題である。現に、有毒なる製造業は、凡て市内より放逐され、近隣に大した迷惑を感ぜざる場所に限られて居るのは、一般の狀態である。しかし、市の中樞以外の地域を各區分して、業務により其適當の部分に制限するを都市一般の利益とするは、都市計畫者の唱ふる處で大に理由ある考と言はねばならぬ。此方針は、獨逸都市には餘程發達して居るのである。假令ば、工場地區としては、鐵道沿線運河又は海面に連接せしめ、定常風に依りて都市中心に其有害なる煤煙を送らざる方面を撰定し、此地域以外には工場を許可せざるが如き其一例である。

北米合衆國の都市の二三には、此の市外地整理法を採用せるものあれども、ロスアンゼルス市の著しきに若くものはない。同市は、一九〇九年に法律を制定し、全市を工業地と住居地とに分ち、更に工業地帶を二十五區に分劃した。而して、其工業地は全市に散在して、住居地はそれ〳〵の工業地を圍繞する仕組である。又其住居地の内に二十八區の工業區あり、特殊の業務を許可することになつて居る。工業地區は其大さ及形に於て色々の種類がある。其大なるものは、數平方哩に亘り、小なるは、一小區劃に過ぎない。而して、何れも市の部分であつて、其總計は住居地全面積の一割にしか當つて居らぬ。又、特別業務地區は、大なるは半平方哩にして、小なるは二小區劃にも滿たない。一般に工業地區に於ては、其業務の種類は凡て指定されて居る譯ではないが、住居地區には絶對に業止され、特別業務地區には或る種類の業務を許可する。

シヤトル市は、一九一三年に市内の建築條例を採用し、メーリー、ランドの州立法部は、バルチモア市に對して特別の建築條例を制定した。又、紐育州は一九一三年に至り、州内の第二流の都市に臨時都市立法部を組織することを許可した。其目的は、土地所有者の三分の二以上の請願により、住居地區を制定し、其地區内には一家又は二家族を收容する住宅の外建設を許さぬことを命令する爲めであつて、將來各請願者が更に他の請願をなすまでは有效なるものである。一九一二年にマツサチユセツツ州立法府は、一般の都市條例を改竄して　各都市に其都市の防火、衛生、及風紀の爲めに建築物に對し、其高さ建坪及用途を制限するの權利を附與した。但し、ボストン市は特別の條例を有するが故に、此を除外した。又國及州に屬する橋梁築港其他の工作物も除外した。一九一三年にミネソタ州は、其ミネアポリス、セントポール、及ヂユラスの三市に對し、或る一地區に於て其土地所有者の多數に依り請願さるゝ場合に、都市立法府は三分の二以上の多數決を以て住居地區と事業地區とを制定し得ることの權能を與へた。而して、其事業地區内を更に區別して、各種の事業を指定し、又其面積をも制限し得るのであるが、同樣の請願により又之を變更し得るのである。ミネヤポリス市は、此を機會として事業地區と住居地區とを明了に區別した。ウイスコンシン州は、其主要なる八都市にミネソタ州と殆んど同樣の權能を附與した。其動機はミルウオーキー市は已に其數ケ月以前に市會に於て商業區域を限り、特殊の工業を其區域には禁制することを議決した爲である。

加奈太のオンタリオ市の州立法府は、人口十萬以上の都市には其市會に市内樞要の地に建つべき建築に制裁を加ふるの權能を與へた。此に依りトロント市は、市内の建物に制限を加へ、室貸長屋や自働車小屋の如きものは、住居地區より排斥することを決めたのである。

上述の如く、都市行政上の努力は、其都市の發展に就き一般市民を保護せんが爲めに、其不秩序なる嬉ふべき結果に達せんとする凡ての分子に制限を加へ、各自安心して居住し、又は事業に從事し得ることを方針として、其都市の計畫に當らねばならぬことを十分に觀察し得るのである。

◘ 街衢の分劃法 ◘

街衢の一分劃や、其一分劃を戸別に分劃する場合に、其大さと形は、街路系統の設計に支配さるゝのである。而して、事實上其分劃の大さや、各戸の大さ等は、大低標準が一定して居る特に、紐育市に於ては、主要街路の距離は凡て一定し居るが爲めに、却て巧妙なる分劃法の出來なにことを迷惑に思ふ場合なきにあらず。大低の都市は、奥行百呎を以て一般標準とし、大通りも、二流街路も、其等の事情にかまはず一定し居るが故に經濟的に又社會的に都市の發展を助くるには不利益の事が多い各戸の間口は、二十呎乃至二十五呎とすれども、奥行は凡て皆百呎なるを以て少しく大きい建築をなさんには數戸を合併すれば足ると言ふものゝ、間口にのみ徒らに廣くして奥行を大きくする方法はない。之に反して、間口と同時に奥行の大なるを要せざる住宅を、此等の分劃區に建設せんことは事實上不利益である。若し、繁盛なる商舖や、富者の住宅ならば、此分劃によ

る區間に建築をなすに何等大した不都合なきも、なるべく家賃の低き中以下の階級のもの、住宅を建つること不可能と言はねばならぬ。假へば、間口二十五呎奥行三十呎の小住宅を、奥行百呎の高値なる敷地に建つるは如何にしても經濟が許さぬのである。奥行百呎の分割法は。街衢の一分劃中が、巾二百呎長さ六七百呎のものを各戸奥行百呎間口二十呎乃至二十五呎の大さに一定に割込んだのであるが、此れ必ずしも如何なる場所にも適當な分割法ではない。故に、其内街路の幅の六十呎を四十呎に減するも、各分劃の大さを減じ、從つて各戸分劃の奥行を五十呎乃至六十呎に變更すれば一般住居地區として適當な戸別法となるのである。

現在案の六十呎内道路は、紐育市の規定として三十呎の車道を築くのであるが、若し改良案による内道路四十呎乃至五十呎のものは、十六呎乃至二十呎の車道を得るに過ぎない。しかし各戸共に一二家族の住宅として適當の高さの建物である場合には、交通上にも亦採光通風上にも何等不都合を見出さない。

現在案に於ては、全面積の二割四分を街路、七割六分を各戸敷地とすれども、改良案によれば、二分六厘を街路、七分四厘を各戸敷地とし、其中に約半エーカーの遊園地を含む。而して現在案の歩道は、幅五呎とし、改良案のそれを四呎とするも、改良案の歩道縁石は五割八分を、歩道に於て二割六分を、下水道に於て九割七分を增し、敲敷面積は二割六分を減ずる。今此が經濟上の採算を見るに。

	現在案（弗）	改良案（弗）
土地價格	七四、九七〇、	七四、九七〇、
縁石	二、九一九、	四、六二五、
アスファルト敷	三一、〇五四、	二六、六五三、
セメント工事	八、三四三、	一〇、四八〇、
下水工事	四、九五四、	九、三六〇、
合計	一二二、〇六〇、	一二三、九〇八、
アスファルト敷の代りにマカダム敷となす時は	一〇八、九八五、	一一三、五二八、
戸數分劃數	二百〇四軒	百五十九軒
各戸面積	四、〇四一平方呎	三、〇三三平方呎
各戸の價格	五九八弗三三	四七八弗四一
（マカダム敷の場合）	五三三、七五	四三八、三三

即ち各戸の價格は、改良案に於て百二十弗宛安價となる。（マカダム敷の時は九十五弗）

而して、小遊園地は、此等住居者に少からぬ慰安を與へるものであるから、改良案の如き分劃法は市の中心を離れたる場所には非常に便利なものと言ふべきである。

其他同上の如き一區劃地の分劃に際し、多少の考案を廻らせば各種の奥行と間口の敷地を設くる事は可能である。中には可なり大なる建築物を容る、敷地を造り、又周圍に空地を少し宛存する快濶なる住宅地を計畫することも出來ない。近代の著しき趣味たる花園都市に相似たる愉快なる住居地區となるの利益を考へすにば居られぬ。しかし、亞米利加の如き個人思想の強烈なる處にては、可なり困難なる社會事業と謂はねばならぬ。

（譯者曰く我國の都市に於ては一般に誤られたる箇人自由主義を唱へて社會改善の爲めに或る程度まで箇人の自由を犧牲にす

べき事を知らざるは亞米利加より更に〳〵甚しきものがある）

◻ 都市計畫の財政 ◻

都市計畫の熟するは容易なことではない。而して、其れを實施するは、更に容易ならざる時日を要するのである。工事は其必要の迫るものより實施すべきではあるが、更により以上必要な問題は、其財源の確實なるを期することである。工費調達の方法は、其改良工事の爲めに利益を受くるものに負擔せしむるを一手段とし、又其全工費を一般市稅に徵集するの方法と、前二者の折衷式を用ふる場合との三方法がある。若し、市が全工費を負擔する場合には、市債を募集して市稅を以て漸次償却するより外に途はない、歐州の都市は、大低は市營事業より可なりの收入を得、甚だしきものは土地の値上りによりて多大の利益を收得しつゝある、故に、此等を以て改良事業に從事することも不可能とは言へない。しかるに、亞米利加の都市は、一般には土地を有たない。又收益の多き事業も經營して居らぬ。故に上述の三方法より外に財政上採るべき途はないのである。

都市の事情や、又都市の內部の關係と、其發展の情況により財政上の處理を豫め一定することを許さない。若し、今小都邑に於て廣場を計畫して公館を建築し、又教會堂などをも其處に集中すると假定すれば、利益を受くるものは其市全體にして、市民の活動や遊園地の利用など全く其都邑の發展と言ふべく、其工費が公課さるゝも少しも差支ないのである。しかし、此廣場に面する地處は、此實施の爲めに受けたる價値の高騰は他の部分の比にあらざるが故に、當然相當の重荷を受くべきものと謂はねばならぬ。此と同じく、其都邑の幹線道路の擴築をなす時にも、其都邑全體に受くる利益の大なることを認むべきであるが、若し其都邑が漸次發達して可なりの都市となつた場合には、幹線道路は一條では不足であり、中心たる廣場も亦一つでは滿足出來ないことになつて來る。其場合の市民が受くる利益を考ふるに、其廣場の附近は小都邑であつた場合よりも更に數倍の利益を感ずるであろう。しかし、其都市全體に感ずる利益は余程微かなものである。斯くの如く、工費の分擔方法は其受くる利益の多少に依つて加減すべきであるが、實際に於ては、種々の事情を研究して課せねばならぬ。決して單純な方法に據ることは出來ない。即ち市が工費の幾何を分擔し得るやは都市自體の財政狀態の緩急に依ること勿論にして、各種の特權許可より生する收入の如何、又市自身の活動により收入を得らるゝ場合と殊によれば損失を餘儀なくされる場合とに考へ、尙將來市債を起し得る財政上の能力の有無を調査して、其全部又は幾分を市に負擔することを決めるのである。而して、其市債の償却法や、課稅方法等は、依然として複雜なる問題として殘るべきものと思はねばならぬ。

大都市は、小都市の聯合又は集團と見ることが出來る。故に大都市全體を通じて利害ある企畫もあれ共、又部分的や地方的の色彩ある問題が甚だ多いのである。若し、新公園を設けんか其附近の地處は直接に影響を受け地價も直ちに騰貴する。又新らしき公館の建設さるゝ場合も、其地處撰定の確定するや否や其近隣の地價は直ちに沸騰するのである。時によれば、其以前の倍額となること珍しくなく、殊に公館の周圍に廣潤なる庭園

の設けらるゝ場合には、尚更甚しく其價値を發揮するは通例である。又近來屢其例を見る如く、急行電軍の線路が從來不便な荒蕪地の如き場所と、商業中樞とを連結する時は、場末の地處と雖も其價値は一躍して相當のものとなるは見易き處である。其他、沼澤の多き濕潤の地も、一度運河の其間に開鑿さるに會せば、其地處の利用は容易からぬ價値のものとなる。

新公園地や、新築の公廳舍又は新設の急行交通線路や、新運河の附近に地處を所有するものは全く其工事の爲めに自箇の財産が增加するのであるから、其工費の賦課を他の市民と同等に受くるは決して公平の判斷と言ふことは出來ない。其分担方を詳密に割出すことは、至難の事ではあるが、兎に角、其分担に相當の割增を要するは必須の事であると考へられる。若し、或る區間の道路を擴築する時に、其目的が其街路に面する各戸に對して通風と採光を良くするのみである場合は、其工費は全部其區間の地主にて負担すべきであるが、更に一般の交通を便にする爲めに比較的幅廣き街路を築造する場合には、其工費の大部分は矢張り各地主にて分担するを順序とする。しかし、特別の大街路にして、廣小路（ブールバアル）又は公園路（パークウエー）と名づくべきものゝ築造は、其都市全体に利益するが故に、其負担は全部都市にて負担すべきである。若し、現在の建家を切り取て、街路を擴張せん場合に、其工費を其地主に負担せしむるは殘酷である。此れ其擴築は其地區の利益と言ふよりも、一般交通を考へて其必要としたからである。道路の幅を擴張する場合に、其幅の多少は必ずも其區間又は都市全体に其れに比例した利益を與ふるものではない。又、交通政策上或る短區間に新街路を新設する場合の如きは、一般には利益を與ふること多くして、其區間には余り利益を與へない。故に、街路改良より起る利益は、必ずしも其の街路の大さや其の工費に比例する譯にはゆかない。假令へば、百萬弗の工費にて改良工事を施すも、其區間に大なる便利を與ふるに過ぎざるに、五萬弗の方は却て一般的に大に便利を與ふる事もある。斯くの如く、街路改良、殊に新街の建設、廣小路や公園地の新設等に際して、其利潤の及ぶ範圍と分量の判斷は、餘程困難と謂はねばならぬ。今假りに、區間街路は一般に六十呎に制定されてあるものとして、或る區間に於て其街路は其幅又は其少しく以下の幅に改良する場合は、其改良費は全部其両側の地主に於て分担すべきものと言ふべく、又其區間内に於て六十呎以上に改築する場合は、其工費は六十呎までの分と、六十呎以上の分の二割五分とを分担せしめて可なりである一般に幅廣き街路に面する地處の、高價なる筈なれども、或程度以上に達せば、其廣きは其區間には別に利益を感するものではない故に、其區間にて普通八十呎までの分を負担するものとすれば、其街路の幅百四十呎に達するまでを以て限度とせねばならぬ。故に、區間に負担すべき工費の比例は、道路の幅員に據り差等あるものにして、六十呎及其以下の街路は全部、七十呎以下は百分の八九、三、八十呎以下百分の八一、二五、九十呎以下は百分の七五、百呎のものは百分の七十、百五十呎のものは百分の五三、三、二百呎のものは百分の四〇、〇となる。

建築取毀ちを爲して街路を取擴げる場合は、其地處のみに就ては、新道路と同樣の分担を正當とする。即ち、六十呎以下の場合は、両側の地處に全部負担せしめ、それ以上は上述の理に

より分担せしめば可なり。

今假りに五十呎の街路を八十呎に擴築するとして、其擴築幅員三十呎の內十呎は當然兩側に於て負担し、殘り二十呎の內六十呎の二割五分即ち十五呎は、矢張り其兩側に分担せしむべく又取毀ちの損害は其擴築の利潤が都市全体に及ぶものなるや其區間に限るものなるやにより、それ〳〵分担方を決定すべきである。

公園新設の場合の如きは、其の解決更らに困難なものがある即ち、其公園より便利な地位にある都市の部分に對する分担方を計算することは、其公園の地形及交通の關係等より見ればならぬから、一概に之を說明した規則は未だ見出さない。兎に角其距離の遠ざかるに從ひ、其負担を減すべきものである。頃者紐育の市の工事課技師長アーサー、エス、タットル氏は、一の工費分担率を發表した。其表によれば、工費が三割二分五厘は利潤界の外線に接する第一圈約一割の地處に對して賦課し、五割五分を第一圈約二割五分の地處に對して、而して其外線に接する約半分の地處に八割の工費を分担せしむることを示して居る

㊐ 都市計畫の法規 ㊐

歐大陸の都市殊に獨逸の都市は、北米合衆國や英吉利などに比べては余程大きな權力を有つて居ることは、彼等が法律上禁止されぬことあらば如何なる行爲でも成し得るに反し、英米のそれは法律によりて許されたことの外は何事もなし得ないのに見ても十分に了解出來る。亞米利加都市が其計畫を變更したり、公園の新設や街道組織の改良を遣る場合には、一々州立法府の許可を受けて居つたのは近來までの事であつた。漸く近年に至り、都市內政に關する各種の問題殊に將來の爲めに都市計畫を樹てゝ、其實施權を有することの機運に向いて來たのである。都市計畫法規の最も著名なるものは、一九〇九年に發布された英吉利の都市條例である。其主要なる目的は、在來の欠点を矯直すよりも、寧ろ將來の都市の劣惡なる發展を妨止せんとするのであつた。此法律の實施上、英吉利にては、從來は議院に於てのみ持つて居つた異常なる權力を、地方官權及內務省に一任した。內務省に於いて若し必要と見認めたときは、都市計畫を實施せしむべき準備を地方官權に命ずるのであつて、地方官權の案と雖ども、內務省が是認せざるものは此を實施することは出來ない。必ず其滿足する程度まで變更を要するのである。即ち、內務省は、其の都市の計畫に關する各種の準備を爲し、此を實施する權利を有するものにして、都市計畫の法律が附則として命ずる各項を基礎として此に當るのである。其項目は、街路と道路の新設及改良、現在道路の屈折改造、新建築及橋梁、廣場の新設、名所古跡の保存、下水及排除系統、燈火、給水、市有地所有。土地收用法、計畫實施の期限、地價增加稅の徵集等である。

加奈太のアルバルタ州は、一九一三年に至り一九〇九年の英吉利の法律に準據したる都市計畫の法律を發布した。其著しく異る点は、都市計畫實施に伴ふ地價增加額の二分の一を市に徵集し得る權能を附與したことである。（しかし此地價增加の如き座視所得は獨逸にては已に遠くより重稅を課して居たのである）而して、加奈太政府の常任委員は、加奈太全州に對してア

役員及職員（イロハ順）

理事長　片岡安
理事　池田寶（主計）
　　葛野莊一郎（編輯）
　　武田五一（編輯）
　　宗兵藏（編輯）
　　波江悌夫（主記）
編輯補　伊藤正文
　　佐藤四郎
　　本野精吾
書記　山本辰次郎

會員百十七名、名譽賛助員十八名終
身賛助員廿三名普通賛助員百五十四名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正七年三月十日印刷
大正七年三月十五日發行　（毎月壹回十五日發行）

大阪府東成郡古市村大字森小路六百五十二番地
發行兼編輯人　山本辰次郎
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

ルバルタ州が採りしと大体に於て差異なき都市計畫の法律を制定し、各都市は隨意に其法律を實施し得ることとした。

ニュージャーシー州は、一九一三年に一の法律を發布し、第一流の都市の市長に都市計畫委員の任命をなし、其委員をして都市の凡ての改造等の計畫を一應審査せしむることとした。紐育州は、矢張り一九一三年に都市計畫條例を發布し、各都市及市邑をして其計畫委員を選出せしめ之を議する權能を附與した其法律の特徴は、計畫調製の際に市邑の内のみならず、其附近の地にして、密接に市邑の發展に關係ある部分の計畫を爲さしむることと、及び新道路、街衢の擴築等にして私有地に係る部は、委員會の承認を經ざる間は、奈何なる方面の提案と雖も決して之を計畫に表はす事を許さないことである。紐育州の三都市は、現に此法律に依つて委員を任命し、彼等委員連は、其附與されたる權能を最も善良に誠實に行使して、十分に努力し立派な成果を擧げむことを期してゐるようであるが、若し適任なる市理事者側に於て、市永遠の計策より折算して計畫を作り上述の如き委員連の意見を求め、之を決定することとせば、更により以上善良なる立派な成績を擧げ得るならんと思はる。是れ委員連よりは市の適任理事者の方が、より以上市將來の問題に深き誠意ゥ觀察とを有するからである（畢）

編輯だより

◉ 一陽來復之候、本誌も愈本號より毎月刊行の機運到來仕候、更に奮勵努力、協力精進、以て本誌の重大なる任務の遂行を謀るべく候。

◉ 本會地方在住會員諸氏並びに賛助員諸彦の御通信並びに御寄稿は最も歡迎仕る處に有之候間、奮つて御投稿あらん事希望に不堪候。

◉ 本誌購讀御承諾の諸氏にして本會事業御賛助の目的を以て、御寄稿有之候はば、可然取計らひ申すべく候間、何卒御含置被成下度候。

◉ 本會地方在住會員、並びに賛助員として、入會御希望の諸氏は、御申越次第、申込書御送附申上くべく候間隨時御一報願はしく候。

◉ 本誌購讀御希望の諸氏は、本會事務所宛、御申越被成候はば、早速發送仕るべく候、尚前月より振替貯金口座（大阪三九九七五番）へ加入仕候間、此段申添候。

（編輯員一同）

廣告目次

米國貿易會社　前一
高田商會　仝三
建築事務所案內　後四
建築請負業者案內　六
木材商案內　一〇
石材商案內　一一
コルク工業合資會社　一二
明正社　一三
みよし組大阪支店　一四
松尾和助本店　一五
櫻セメント株式會社　一六
村井工業所　一六
秋山小林商店　一七
大阪窯業株式會社　一八
明正社　一九
川崎工場　二〇
川島織物所　二一
大野式特許品營業所　二二
中央セメント株式會社　二三
和泉煉瓦株式會社　二三
巢鴨製作所　二四
榮進社　二五
内外土木建築材料合資會社　二六
須賀商會　二七
東松工作所　二八
大阪暖房商會　大阪電氣商會　裏表紙裏
原安商會　同表